

第二表

考 備	食										糧			
	糧	口	帶	携	備	兵	常	通	備	糧	馬	備	糧	馬
一	乾	肉	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類
二	乾	肉	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類
三	乾	肉	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類
四	乾	肉	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類
五	乾	肉	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類

○海軍省達第二十四號
臺灣島及澎湖島駐在海軍軍人軍屬給與規則施行細則第十五條中「事業服一著」ノ五字ヲ刪除ス
本達ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

明治三十年三月三十日

海軍大臣侯爵西郷從道

〔參照〕

海軍省達第二百二十九號臺灣島及澎湖島駐在海軍軍人軍屬給與規則施行細則(明治二十八年十一月三十日)抄錄
第十五條 海軍下士卒ニハ海軍被服條例第二條及第一表ノ所持定數ノ外必要アルトキハ臨時左ノ被服物品ヲ交付スルコト
ヲ得但駐在地外ニ移ルトキハ之ヲ返納セシム
事業服一著 帽日覆一枚 フラネル襪一枚 フラネル襪卷 二筋

○海軍省達第三十五號

明治二十九年勅令第三百二十五號海軍被服條例改正ニ依リ定數增加ノ事業服上衣袴一著ハ明治三十年四月一日ヨリ交付ス

海軍大臣侯爵西郷從道

○陸軍省達第三十八號

衛戍服務規則中左ノ通改正セラル

明治三十年三月三十一日

陸軍大臣子爵高島綱之助

第二條中第二種「衛兵」ノ下ニ「號砲手」ノ三字ヲ加ヘ同條「衛兵」ハ樞要ノ場所官衛武庫火藥庫等ノ守備ニ任スルモノトス」ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

號砲手ハ號砲發放ノコトヲ掌ル

第六章ノ次ニ左ノ第七章ヲ加フ

第七章 號砲手

第四十八條 號砲ハ師團司令部所在地 旅團司令部所在地 旅團司令部所在地ニ於テ日々正午ニ發放ス

第四十九條 號砲ハ衛戍司令官ニ屬シ號砲發放ノコトヲ掌ル

〔參照〕

陸海軍百六十七號衛戍服發規則(明治二十四年十一月三十日)抄録
第二條 服務ノ種類及目的ノ左ノ如シ
第三種 衛兵 衛兵令兵 控兵 儀仗衛兵 使役等即チ二十四時毎ニ交代スルモノ

○海軍省達第三十六號

海軍監獄看守宿料支給細則左ノ通定ス

海軍大臣侯爵西郷從道

明治三十年三月三十一日

海軍監獄看守宿料支給細則

- 第一條 海軍監獄看守ノ宿料ハ鎮守府司令官其ノ給額ヲ定メ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二條 宿料ハ任免又ハ死亡ノトキハ其ノ月十五日ヲ以テ區分シ全額又ハ半額ヲ支給ス
- 第三條 宿料ハ甲鎮守府ヨリ乙鎮守府へ轉職ノ場合ニハ前條ノ區分ニ依リ重複シテ支給セス
- 第四條 宿料ハ毎月末日之ヲ支給ス但當日休暇ニ當ルトキハ順次繰上ク
- 第二條及第三條ノ場合ニ於テハ前項ノ支給定日ニ拘ラス其際支給ス

附則

第五條 此ノ細則ハ明治三十年勅令第五十一號施行ノ日ヨリ施行ス

○海軍省達第三十七號

海軍省所管ノ經費支出及收入ニ關スル所屬區分並收入下検査官委任仕拂命令官收入調定官收入監督官收入官吏ヲ別表ノ通定ス

明治三十年三月三十一日

海軍大臣侯爵西郷從道

本達ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

明治二十九年達第三十二號ハ本達施行ノ日ヨリ廢止ス

(別表)

所 屬 區 分	收入下検査官	委任仕拂命令官	收入官吏
本省及東京所在各團(大學校、造兵廠、水路部ヲ除ク)ノ支出收入	經 理 局 長	經 理 局 第 一 課 長	經 理 局 課 長
海軍大學校ノ支出收入		海軍大學校長	海軍大學校主計長
海軍造兵廠ノ支出收入		海軍造兵廠長	海軍造兵廠會計課長
水路部ノ支出收入		水 路 部 長	水路部會計課長
臺灣總督府海軍省所管ノ經費支出收入		臺灣總督府軍務局海軍部長	臺灣總督府軍務局海軍部第二課長先任主計官
橫須賀軍港所在各團及橫須賀鎮守府所轄艦團ノ支出收入	橫須賀鎮守府監督部長	橫須賀海軍司計部主管	橫須賀海軍司計部計官
吳軍港所在各團(兵學校ヲ除ク)及吳鎮守府所轄艦團ノ支出收入	吳鎮守府監督部長	吳海軍司計部主管	吳海軍司計部計官
海軍兵學校ノ支出收入		海軍兵學校校長	海軍兵學校主計長
佐世保軍港所在各團、佐世保鎮守府所轄艦團及竹敷要港部ノ支出收入	佐世保鎮守府監督部長	佐世保海軍司計部主管	佐世保海軍司計部計官
新原探炭所ノ支出收入		新原探炭所長	新原探炭所書記
備 考	經理局課長及新原探炭所書記ニハ附令書ヲ付與ス		

〔參照〕

明治二十九年四月海軍省達第三十二號ハ海軍省所管經費及收入ニ關スル所屬區分並收入官吏委任仕拂命令官收入調定官收入監督官收入下検査官設定ノ件ナリ

○陸達第三十九號

明治三十年度中陸軍病院條例第五條ノ定額ハ一日金拾貳錢五厘同條例第八條ノ定額ハ一日金貳錢五厘トス又屯田兵移住給與規則第十六條ノ徵收費額及明治二十五年陸達第二十六號ノ定額ハ一日金參錢四厘七歳未満ノ者ハ其半額トス

明治三十年四月一日

陸軍大臣子爵高島綱之助

(參照)

勅令第九十六號屯田兵移住給與規則(明治二十七年七月十二日官報)抄録
第十六條 屯田兵ノ家族ニシテ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹ル者アルトキ其ノ藥劑等ハ屯田兵移住後滿三箇年間ハ之ヲ官給シ爾後滿五箇年間ハ豫メ定ムル所ノ代價ヲ徵收シテ之ヲ付與スルコトヲ得

陸達第二百二十三號陸軍病院條例(明治二十一年十二月二十九日)抄録

第五條 第二條第三項ノ内公務ニ起因セサル者及一年志願兵條例第五條第二項ニ當ル者ノ治療ニ關スル諸費ハ定額ヲ納メシメ糧食ハ本人ヨリ 陸軍給與令第九表ノ定額ニ依リ之ヲ辨償セシム但下士兵卒及生徒ニ在テハ其治療ニ關スル諸費ニ限リ病院ノ費用トス
第八條 藥局アラサル地方又ハ藥局アルモ止ムラ得サル場合ニ在テハ軍人軍屬ニ限リ軍醫ノ處方箋ヲ以テ藥劑等ヲ特ニ請求シタルモノアルトキハ陸軍病院ヨリ之ヲ與フルコトヲ得但傷疾疾病公務ニ起因スルコトヲ證明スルモノハ他ハ其定額ヲ納メシム

陸達第二十六號(明治二十五年三月三十一日)

北海道ニ於テ藥局ナキ地方又ハ藥局アルモ止ムラ得サル場合ニ當リ官製治療ヲ受ケサル軍人軍屬及其家族ニシテ軍醫ノ處方箋ヲ以テ藥劑等ヲ特ニ請求シタルトキハ屯田兵部隊ノ藥室ヨリ之ヲ與フルコトヲ得但軍人軍屬ノ傷疾疾病公務ニ起因スルコトヲ證明スルモノハ他ハ其定額ヲ納メシム

○陸達第四十號

明治二十九年陸達第四百十六號別表左ノ通改正ス

明治三十年四月一日

陸軍大臣子爵高島綱之助

各隊一箇月酒保物品量目表

品目	量					
	歩兵大隊	騎兵中隊	砲兵中隊	要塞砲兵中隊	工兵中隊	計
日用品	九一〇	一四〇	二二〇	一五〇	一七〇	七、〇〇〇
飲品	五、三四〇	九八〇	一、六二〇	一、〇五〇	一、三〇〇	七、五〇〇
雜品	七五〇	一三〇	二三〇	一四〇	一八〇	一、二五〇
計	七、〇〇〇	一、二五〇	二、〇七〇	一、三四〇	一、六五〇	

〔參照〕

明治二十九年十月陸軍省令第四百十六號ハ臺灣及在外各部團隊軍需品追送規程ナリ
○陸軍第四十一號

明治二十九年陸軍省令第五百十九號中左ノ通告改正シ第八ヲ第九ニ第九ヲ第十二ニ改ム
明治三十年四月一日

七雇員備八等ニシテ内地へ航送スヘキ者ノ扱ハ前各項ニ準スト雖モ豫備病院收容ノ日ヨリ起算シ
二箇月以内ニ痊癒シタル雇員備八等ハ所屬部隊ニ復歸セシメ共ニ二箇月ニ至リテ痊癒セサルモノ
ハ解雇(備)ス但情願又ハ病況ニ依リ二箇月以内ニ解雇(備)スルコトヲ得又解雇(備)者ニシテ各
八前項ニ依リ解雇(備)セシムヘキモノアルトキハ該病院長ハ其人名所屬部隊及病名ヲ記シ第五師
團長ニ上申シ師團長ハ解雇(備)ノ上之ヲ所屬部隊長及原採用官廳へ通報シ陸軍省ニ報告スヘシ
〔參照〕

陸軍省令第五百十九號(明治二十九年十一月五日抄録)
臺灣守備團隊臺灣憲兵隊其他臺灣陸軍官衛附將校以下軍人軍團ニシテ傷疾疾病ニ罹リ臺灣衛戍病院ニ於テ治療ヲ受ケタル

○陸軍第四十二號

明治十九年陸軍省令乙第三百三十六號達丙第七號同二十三年陸軍第五號同第八號ヲ廢止ス
明治三十年四月一日
陸軍大臣子爵高島鞞之助

〔參照〕

明治十九年十月陸軍省令乙第三百三十六號ハ陸軍召集條例同二十三年一月陸軍第五號ハ陸軍歸休兵取扱手續同年一月十
陸軍第八號ハ陸軍豫備後備下士兵卒簡閱點呼施行規則ナリ
○陸軍第四十三號

陸軍馬匹傳染病豫防規則左ノ通定ム

但明治二十年陸軍第二十三號ハ廢止ス

陸軍大臣子爵高島鞞之助

明治三十年四月一日

陸軍馬匹傳染病豫防規則

- 第一條 本規則ニ於テ傳染病トハ左ノ五病ヲ謂フ
- 一 炭疽
 - 二 鼻疽及皮疽
 - 三 假性皮疽
 - 四 腺疫
 - 五 疥癬
- 第二條 馬匹ノ傳染病ニ罹リ又ハ其ノ疑アルコトヲ發見若ハ牒知シタル者ハ直ニ其ノ旨ヲ所屬ノ
上官ニ報告シ尙ホ獸醫ニ在テハ其ノ病症及原因ヲ探究ノ上當該獸醫部長ニ報告スヘシ
- 第三條 傳染病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル馬匹ハ左ノ諸項ニ據リ取扱フモノトス
- 一 當該馬匹ハ他ノ馬匹ト離隔シ交通ヲ遮斷ス

- 二 當該馬匹ニ近接シ若ハ器具ヲ共用シタル馬匹ハ前項ノ手續ヲ爲シタル上觀察ス觀察ノ日限ハ炭疽十四日間鼻疽及皮疽二十五日間假性皮疽二十五日間腺疫八日間疥癬十日間トス
- 三 離隔シタル馬匹ヲ繋留スル厩舎ニハ傳染病ト記載セル標札ヲ掲ケ獸醫及看護者ノ外ハ出入ヲ禁ス看護者ハ他ノ馬匹ニ接スルヲ禁シ又其ノ看護中着用ノ衣袴及靴等ハ一定シ厩舎ヲ出ル際ニハ所定ノ場所ニ置カシム
- 四 離隔シタル馬匹ニ使用スル厩舎具ニハ記號ヲ附シ轉用スルヲ禁ス
- 五 離隔シタル馬匹ノ治療水與及裝鐵ハ其ノ厩舎内ニ於テシ運動モ一定ノ場所ニ於テス
- 六 炭疽若ハ假性皮疽ニ罹リ獸醫ノ不治ト診斷シタル馬匹竝ニ鼻疽及皮疽ニ罹リ其ノ特徵判然タル馬匹ハ直ニ撲殺ス
- 七 炭疽若ハ鼻疽及皮疽ニ由リ斃死若ハ撲殺シタル馬匹ノ屍體ハ警察署又ハ市町村長ニ打合ノ上處分ス
- 八 屍體ノ運搬ヲ要スルトキハ蕭蕪ノ類ニテ丁寧ニ被包シ車輛ニ依ル但牛馬ヲ使用スルヲ禁ス
- 第四條 傳染病毒ニ汚染シ若ハ其ノ疑アル物件ハ左ノ諸項ニ據リ消毒スルモノトス
 - 一 羽目、隔水、檣床、秣棚、麥舟等ハ消毒液ヲ撒注シ附著セル污垢ヲ去リ熱湯ヲ注キ清潔ニ掃除シ更ニ消毒液ヲ撒注ス
 - 二 排尿溝、泄尿口、導尿管ハ清潔ニ掃除シ消毒液ヲ注ク
 - 三 尿竇ニハ受容セル汚物ノ量ノ約百分二ノ割合ヲ以テ消毒液ヲ注ク
 - 四 檣床下ノ土層汚染シタルトキハ檣板ヲ撤去シテ床下ノ汚土約五寸ヲ浚ヒ土砂ヲ補填シ煨製石灰ヲ散布ス尙ホ汚土ハ消毒液ヲ注キタル上埋却シ又撤去シタル檣板ニシテ消毒スルモ再用ノ見込ナキモノハ燒棄ス
 - 五 運動場、放牧場、野營場等ハ汚物ヲ處分シタル上其ノ跡ニ煨製石灰ヲ散布ス

- 六 馬療器械ハ其ノ使用ノ都度金屬製ノモノニ在テハ石炭酸液其ノ他ノモノニ在テハ昇汞液ヲ以テ消毒シ消耗品ハ燒棄シ又ハ消毒液ヲ注キ埋却ス
- 七 馬具ハ石炭酸液ヲ撒注シタル後附屬品ヲ解脫シ革製ノモノニ在テハ石鹼ニテ清潔ニ洗ヒ再ヒ石炭酸液ヲ撒注シ乾燥ノ後脂ヲ塗布シ更ニ日光ニ曝シ絨製、布製、金屬製ノモノニ在テハ熱湯又ハ石炭酸溫液ニ浸スノ後日光ニ曝シ填毛ノ消毒モ亦同シ
- 八 手入具、寢張頭絡、寢張綱其ノ他雜品ハ熱湯又ハ石炭酸溫液ニ浸スノ後日光ニ曝シ汚染甚シクシテ再用ノ見込ナキモノハ燒棄ス
- 九 屍體又ハ汚物ノ運搬ニ供シタル車輛、器具等ハ其ノ使用ノ都度消毒液ヲ撒注シ清潔ニ掃除シ更ニ消毒液ヲ撒注スルノ後日光ニ曝ス
- 十 病馬若ハ屍體又ハ汚物ニ接觸スル者ハ其ノ都度汚染シタル部處ヲ消毒液ニテ消毒シ石鹼ニテ洗フ被服類ハ石炭酸液ヲ撒注シ汚染甚シキトキハ熱湯ニ浸シ洗濯ノ後更ニ日光ニ曝ス
- 十一 藪林及寢藁ハ注意シテ蒐集シ燒棄ス若シ燒棄スルコト能ハサルトキハ消毒液ヲ撒注シテ埋却ス
- 十二 炭疽若ハ鼻疽及皮疽ニ由リ斃死若ハ撲殺シタル馬匹ノ屍體ハ直ニ口、鼻、眼、肛門其ノ他排泄物ヲ以テ汚染シタル部處ニ消毒液ヲ注キ煨製石灰ヲ散布填充ス
- 十三 炭疽若ハ鼻疽及皮疽ノ頻發シタル厩舎ハ消毒法施行後少クモ一週間使用ヲ停止ス
- 第五條 第四條ノ消毒液ハ左ノモノヲ用フルモノトス
 - 一 昇汞液

甲 昇汞	100.0	鹽酸	1000.0	水	10000.0
乙 昇汞	100.0	格魯爾那篤德	500.0	水	10000.0
丙 昇汞	100.0	酒石酸	100.0	水	10000.0

一 石炭酸液
 甲 粗製石炭酸 五〇 水 一〇〇〇
 乙 粗製石炭酸 三〇乃至五〇 硫酸 三〇乃至五〇 水 一〇〇〇
 二 苦麗阿林 五〇 水 一〇〇〇
 第六條 行軍演習及輸送等ノ出先ニ於テ馬匹ノ炭疽若ハ鼻疽及皮疽ニ罹リタルトキハ其ノ病馬及消毒ニ關シテハ其ノ地ノ警察署又ハ市町村長ニ打合ノ上處分スルモノトス
 第七條 傳染病流行ノ際ハ左ノ諸項ヲ履行スルモノトス
 一 毎週二回以上馬匹ノ検査ヲ行フ
 二 流行地方ニハ馬匹ノ近接スルコトヲ禁ス
 三 流行地方ヲ通過シタル馬匹ニハ検査ヲ行フ
 四 炭疽流行ノ地方ヨリハ糞糶ノ購入ヲ禁ス
 第八條 軍隊官衙及學校ノ長ハ其ノ保管馬匹中ニ炭疽若ハ鼻疽及皮疽發生シ若ハ消滅シタルトキハ其ノ都度所管長官ニ報告シ且最寄ノ軍隊官衙學校及警察署又ハ市町村長ニモ通知スヘシ
 所管長官ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ
 第九條 師團長ハ其ノ師管内ニ傳染病流行スルトキハ必要ニ應シ獸醫部長ヲシテ其ノ實況ヲ觀察セシムヘシ
 第十條 第一條指定外ノ傳染病ト雖トモ豫防上必要ノ場合ニハ本規則ヲ適用スルモノトス
 【參照】
 明治二十年二月二日陸軍第二十三號八軍馬傳染病取扱規則ナリ
 ○陸軍第四十四號
 明治二十九年陸軍第五百一十一號中第五項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス
 明治三十年四月一日 陸軍大臣子爵高島綱之助
 六 參謀本部編纂部部長各兵科士官

【參照】

明治二十九年五月十日陸軍第五百一十一號八軍馬本分者中當分乘馬ヲ飼養セシメサル者ノ件ナリ

○陸軍第四十五號

陸軍軍人軍屬ニシテ日本郵船株式會社大阪商船株式會社船舶へ乗込ノ者賃金減額ノ備別紙甲號ノ通命令書ヲ下付シ其乗込手續ハ乙號ノ通定ム

明治三十年四月一日

陸軍大臣子爵高島綱之助

(別紙甲號)

陸軍軍人軍屬汽船乗込命令書

日本郵船株式會社
(大阪商船株式會社)

第一條

一 陸軍軍人軍屬ニシテ陸軍官衙各隊ヨリ付與スル乘船證券ヲ携持スル者ハ日本郵船株式會社大阪商船株式會社汽船船室上中下ノ等級ニ應シ其賃金定價ノ二割ヲ減却シ乘船スルコトヲ得セシムヘシ

但乘船證券ハ陸軍省ニ於テ之ヲ製シ豫メ雛形ヲ會社へ回致シ又當該會社ノ乘船賃他ノ海運者ト競争等ノ事故ニ因テ現今定價ノ半迄下ルトキハ割引ヲ止ムヘシ

第二條

一 乘船證券軍人ハ上長官以上上等室准士官以上中等室下士以下下等室軍屬ハ高等官五等以上上等室同六等以下中等室判任官以下下等室ヲ以テ定規トス然レトモ其證券面ヨリ上等ノ室ヲ望ムトキハ本人ヨリ常人同額ノ賃金ヲ拂フモノトス
 但本行ノ如ク上中下船室ノ別ヲ定ムト雖モ先客アリテ該室充滿シ或ハ各室ノ設ケナキ船ニ在

リテハ證券面上等ヲ中等ニ中等ヲ下等ノ室ニ充ツルハ時宜ニ因ルヘシ又既ニ船客滿員シ乗船
ナシ難キ場合ニ於テ之ヲ辭ムハ會社ノ權ニアルヘシ

第三條

一 乘船證券ハ一名一葉宛ヲ付與ス
但此證券ヲ授クヘキ者一時數名渡航スルトキハ上中下等ノ各室ニ乘ルヘキ人員ノ證券ヲ其上
級ノ者一名ニ付與スルコトアルヘシト雖モ此場合ニ於テハ其人名ヲ記シタル證明書ヲ添付ス
ヘシ

第四條

一 乘船證券ヲ以テ乘込ムヘキハ其賃金ヲ各自辨出スルモノニ止リ其他行軍或ハ官ノ賄ヲ受ケ渡航
スル者或ハ陸軍省ヨリ運輸スル荷物ノ如キハ當該會社所定ノ賃金ヲ減却スルコトナシト雖モ右
無減ノ賃金ヲ拂フヘキ乗船人荷物モ兩會社船舶ノ便船アル時ハ之ヲ委託スヘシ
但便船ヲ待チカキ場合ニ在リテハ本條ノ限リニアラス

第五條

一 無賃攜帶スルヲ得ル手荷物ノ定限ハ尋常船客ト同様タルヘシ其限外ノ分ハ定價ノ運賃ヲ拂フモ
ノトス

第六條

一 此命令書ハ明治三十年四月ヨリ同三十一年三月マテ一箇年間其效力ヲ有シ該年限滿期ニ至ル
トキハ更ニ若干ノ年限ヲ定メ命令書ヲ下付スルコトアルヘシ
右命令ノ條款堅ク遵守スヘシ

明治三十年三月

追テ此命令書ヲ下付スルニ付テハ乘込手續別紙ノ通相定候條其旨心得ヘシ

陸 軍 省

(別紙乙號)

日本郵船株式會社並大阪商船株式會社所有汽船乘込手續

第一條

一 陸軍軍人軍屬ニシテ減價ヲ以テ日本郵船株式會社若クハ大阪商船株式會社所有船ニ搭シ各地方
ニ渡航セント欲スル者ハ別紙雛形ノ如キ乘船證券ヲ以テ證左ト爲スヘシ

第二條

一 此證券ハ陸軍省ニ於テ之ヲ製シ同副官部ヨリ各師團監督部及外國領事館ニ配賦シ監督部ニ在テ
ハ其管轄區域内ノ官衙各隊ニ分配シ置クモノトス

第三條

一 乘船證券ヲ請求セントスル者ハ陸軍省副官部、各師團監督部、各官衙各隊又ハ在外日本領事館ニ
就キ之ヲ受領シ而シテ船室等級ノ賃金十分ノ二ヲ減シ乘船切符ヲ買收スルヲ得ヘシ尤該證券ハ
乘船切符ト引換ニ之ヲ會社ニ渡スモノトス

第四條

一 陸軍省副官部各師團監督部各官衙各隊在外日本領事館ニアリテハ乘船證券ヲ請求スル者アルト
キハ證券ニ船室等級ノ區別所管官姓名番號等ヲ朱書ノ如ク填書シ廳(隊)名ヲ署シ廳(隊)印ヲ捺
シ本人ニ付與スヘシ
但乘船ノ證券ハ一名一葉宛ヲ交付シ又渡航往復スル者或ハ巡回各地ニ涉リ汽船乗換ヲ要スル
等ノ者ハ豫メ其乗船ノ度數ヲ量リ證券幾葉ヲ付與シ置クヘシ尤モ殘餘ヲ生スルトキハ追テ還
付セシムヘシ

第五條

一 水火盜難等ノ爲メ證券ヲ失ヒタルカ或ハ臨時證券ヲ要スルトキハ當該近傍陸軍ノ廳或ハ屯在軍

隊ニ請ヒ又外國ニ在リテハ日本領事館ニ就キ請求スヘシ
但證券ヲ遺失スルトキハ其券面番號ヲ速ニ其付與ノ廳及兩會社ヘ通告スヘシ
第六條
一 乘船證券ヲ請求シ切符買收ノ後事故アリテ乘船セサルカ又ハ乘船ノ地ヲ改替スルトキハ糞ニ買收スル所ノ社店ニ就テ事由ヲ陳述シ賃金及乘船證券ヲ取戻シ而シテ再ヒ之ヲ用ニル事ヲ得ヘシ
第七條
一 陸軍新兵入營ノ時聯隊區司令部所在地タル地ヘ召集シヨリ入營地迄ノ間ハ第一條ニ依リ賃金ヲ減却シ乘船スルコトヲ得ヘシ
(別紙雛形)

表		裏	
第 號	自何地至何地 (取扱者印)	此證券ヲ以テ日本郵船株式會社若クハ大阪商船株式會社ノ汽船ニ乘込ム者ハ通常賃金ノ二割ヲ減シ支拂フヲ得ヘシ	此證券ハ日本郵船株式會社大阪商船株式會社本支店ニ於テ乘船切符ヲ買入ル、トキ賃金ト共ニ渡スヘシ
陸軍省印	乘船之證 上等室官姓名	此證券ハ他人ニ譲リ渡スコトヲ禁ス	此證券事故アリテ不用トナルトキハ受取りタル所或ハ其行先ノ官衙各隊ヘ還付スヘシ
明治何年何月何日 (應) 隊名 印 國 隊	本證使用期限ハ記載ノ日ヨリ何日間トス	當分從前使用ノ證券ヲ混用ス	

曲尺四寸

○海軍省達第三十八號

臺灣島及澎湖島駐在海軍軍人軍屬給與規則施行細則第二十一條ヲ左ノ通改正ス

明治三十年四月一日

海軍大臣侯爵西鄉從道

第二十一條 規則第十四條ノ家族渡俸給ハ左ノ各廳ニ於テ之ヲ交付ス

- 一 臺灣總督府勤務ノモノハ臺灣總督府軍務局海軍部
- 二 馬公水雷敷設隊勤務ノモノハ佐世保海軍司計部

本達ハ發布ノ日ヨリ施行ス

(參照)

海軍省達第百二十九號臺灣島及澎湖島駐在海軍軍人軍屬給與規則施行細則(明治二十八年十一月三十日)抄錄
第二十一條 規則第十四條ノ家族渡俸給ハ左ノ司計部ニ於テ之ヲ交付ス但甲司計部ニ於ケル受領者ノ現住地乙司計部ヨリ交付スルヲ便トスルトキハ甲乙互ニ其ノ交付方ヲ依囑スルコトヲ得此ノ場合ニ在テハ依囑シタル司計部ヨリ本人ノ所屬長ニ之ヲ通報スヘシ
一 准士官以上候補生及文官ニ係ルモノハ海軍中央司計部
二 下士卒ニ係ルモノハ佐世保海軍司計部

○海軍省達第三十九號

通常物品出納命令官會計官吏表中第一項及第二項ヲ左ノ通改正シ衛生會議ノ一項ヲ刪除ス

明治三十年四月一日

海軍大臣侯爵西鄉從道

本省(軍令部技術會議東京)	軍法會議臨時海軍建築部	應用器具物品	經理局第三課長	×經理局第三課屬
本	省	建築用材料	經理局第三課長	×經理局第三課屬
具	參	機	務	務
械	考	物	局	局
用	用	治	第	第
治	治	器	一	一
器	器	器	課	課
器	器	器	長	長
器	器	器	×	×
器	器	器	醫	醫
器	器	器	務	務
器	器	器	局	局
器	器	器	第	第
器	器	器	一	一
器	器	器	課	課
器	器	器	屬	屬

○海軍省達第四十號

海軍省判任官配置左ノ通定ム

明治三十年四月一日

海軍大臣侯爵西郷從道

職名	官名	上等兵曹	船匠師	上等機	副	技手	録事
大臣官房					十六		
軍務局		五	一	一	二十二		十一
醫務局					五		二
經理局					四十二		五
司法部							
							三

○海軍省達第四十一號

航海日誌取扱及記載心得中左ノ通り改正ス

明治三十年四月一日

海軍大臣侯爵西郷從道

- 第二條 航海日誌ニ甲板日誌ヲ附屬ス
- 第四條 航海日誌ハ當直士官之ヲ記註シ航海中ニ在テハ當直ノ終ニ於テ甲板日誌ヨリ轉寫シ之ニ姓名ヲ自書スヘシ
- 第五條 航海日誌ハ十年間艦内ニ保存スヘキモノトス
- 第六條 艦長ハ毎月一日ヲ以テ前月分ノ航海日誌摘要報告ニ通テ作リ軍艦現狀報告ト共ニ之ヲ海軍大臣海軍軍令部長及所管長官ニ進達スヘシ
- 第九條中「原稿」ヲ「航海」ニ改ム

〔參照〕

海軍省達第三百十四號航海日誌取扱及記載心得(明治二十三年八月二十五日)抄録

第二條 航海日誌ハ左ノ三種トス

甲板日誌 原稿日誌 淨書日誌

第四條 原稿日誌ハ當直士官之ヲ記載スヘシ航海中ニ在テハ當直ノ終ニ於テ甲板日誌ヨリ轉寫シ之ニ姓名ヲ自書スヘシ

原稿日誌ハ十年間艦内ニ保存スルモノトス

第五條 淨書日誌ハ艦長原稿日誌ヨリ轉寫シ捺印ノ上艦長ニ差出シ艦長捺印ノ上之ヲ所屬鎮守府へ差出スモノトス

第六條 艦長淨書日誌ヲ差出スニハ平常ハ每三箇月遠航ノ節ハ隨著ノ後ニ於テスヘシ

第九條 航海長ハ日々原稿日誌ヲ閱シ若シ誤謬脱漏等アルヲ認メタルトキハ其時ノ當直士官ヲシテ之ヲ修正若クハ填記セシムヘシ

○海軍省達第四十二號

航海日誌中「原稿日誌淨書日誌」ノ八字ヲ總テ「航海日誌」ニ改メ甲板日誌野ノ次ニ別紙航海日誌摘要報告ノ一表ヲ加フ(別紙略ス)

明治三十年四月一日

海軍大臣侯爵西郷從道

○海軍省達第四十三號

海軍省處務細則左ノ通改ム

明治三十年四月一日

海軍大臣侯爵西郷從道

海軍省處務細則

第一章 總則

- 第一條 局長又ハ課長不在ノ爲代理ヲ要スルトキハ局長ニ在テハ大臣ヨリ課長ニ在テハ局長ヨリ特ニ代理ヲ命スルモノトス
- 局長ハ一時ノ病氣事故不在ニ際シテハ前項ノ例ニ依ラス課長ニ委任シテ便宜當務ヲ處辨セシムルコトヲ得課長亦此例ニ依ル

- 第二條 局長ハ判任官ノ分課ヲ定メ人事課長ニ報告スヘシ
- 第三條 局長課長ハ各其ノ主務ニ屬スル法規ノ疑義質問等ニ對シテハ之カ解釋ヲ與フルモノトス
- 第四條 各局課分掌事項中ニ明記セサル事件アルトキハ其ノ事ニ關係ヲ有スルコト最モ大ナル局課ノ管掌事項トシテ該局課ノ掌理ニ附シ各局課ニ全ク關係ナキ事件ハ官房ニ於テ掌理スルモノトス
- 第五條 本則ニ於テ各局ノ爲ニ規定シタル條項ハ司法部及人事課ニ、各局長ノ爲ニ規定シタル條項ハ司法部長及人事課長ニ適用ス
- 第二章 事務分課
- 第六條 大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 機密文書ニ關スルコト
 - 二 公文書類ノ接受發送ニ關スルコト
 - 三 成案文書ノ調査及起案ニ關スルコト
 - 四 大臣次官ノ官印及省印ノ管守ニ關スルコト
 - 五 統計及年報ニ關スルコト
 - 六 公文書類ノ編纂及保存ニ關スルコト
 - 七 將官會議ニ關スルコト
 - 八 各局部課ノ所掌ニ屬セサルコト
- 第七條 祕書官ハ大臣ニ專屬シテ機密事務及差使ヲ掌ル
- 第八條 參事官ハ大臣官房ニ在テ法規ニ係ル公文ノ審査及立案ヲ掌ル
- 第九條 人事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 高等武官、候補生、准士官及文官ノ進退、任免、補職、命課、增俸、分限其ノ他ノ人事ニ關スルコト

- 二 豫備後備退役高等武官、准士官及非職文官ノ人事ニ關スルコト
- 三 軍人軍屬ノ敘位、敘勳、記章、褒章及賞典ニ關スルコト
- 四 高等武官、候補生、准士官、文官ノ名簿、職員錄、停年名簿、履歷簿ニ關スルコト
- 五 高等武官、候補生、准士官ノ考課表、試用報告ニ關スルコト
- 六 武文官ノ人事ニ關スル上奏書、親裁書及諸辭令書、褒狀取扱ニ關スルコト
- 七 進級會議ニ關スルコト
- 八 拜謁、參賀、參拜、御陪食、陪宴及之ニ等シキ儀式祭典ニ關スルコト
- 九 外國旅行券ニ關スルコト
- 十 軍人軍屬ノ恩給、遺族扶助、退官賜金ニ關スルコト
- 十一 囑託者ノ身分取扱ニ關スルコト
- 十二 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
- 第十條 軍務局各課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

軍事課

- 一 鎮守府、艦隊、軍艦、其ノ他各部ノ建制及其ノ勤務ニ關スルコト
- 二 軍艦、水雷艦、運送船、通信船、工作船及病院船ノ本籍及所屬ニ關スルコト
- 三 艦隊、軍隊ノ編制、進退、役務ニ關スルコト
- 四 武文官ノ定員ニ關スルコト
- 五 演習檢閲ニ關スルコト
- 六 將校及水路官ノ補充ニ關スルコト
- 七 將校、將校生徒、准士官下士卒^{上等機關兵曹}ノ教育訓練ニ關スルコト
- 八 大學校、兵學校、砲術練習所、水雷術練習所ニ關スルコト

- 九 將校ノ教育ニ係ル雇外國人ニ關スルコト
 - 十 將校ノ外國派遣及留學ニ關スルコト
 - 十一 下士卒ノ任用進級及考課表ニ關スルコト
 - 十二 兵員ノ徵募補充及服役ニ關スルコト
 - 十三 召集令ニ關スルコト
 - 十四 軍紀風紀ニ關スルコト
 - 十五 戒嚴及徵發ニ關スルコト
 - 十六 儀式禮式ニ關スルコト
 - 十七 武文官ノ制服服裝ニ關スルコト
 - 十八 旗章ニ關スルコト
 - 十九 軍人ノ徽章ニ關スルコト
 - 二十 海上保安及水路ニ關スルコト
 - 二十一 望樓及氣象ニ關スルコト
 - 二十二 運輸通信ニ關スルコト
 - 二十三 測器ノ品種海圖ノ數額ヲ定メ及其ノ配備供給ニ關スルコト
 - 二十四 測器庫ノ構造設置存廢ニ關スルコト
 - 二十五 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
- 機關課
- 一 機關官以下ノ勤務ニ關スルコト
 - 二 機關官以下ノ教育訓練補充ニ關スルコト

- 三 機關學校及機關工練習所ニ關スルコト
 - 四 機關官ノ教育ニ係ル雇外國人ニ關スルコト
 - 五 機關官ノ外國派遣及留學ニ關スルコト
 - 六 機關ノ改造修理等ノ調査ニ關スルコト
 - 七 機關ノ使用保存ニ關スルコト
 - 八 機關構造ノ適否及其ノ改良ニ關スルコト
 - 九 艦營需品ノ品種數額ヲ定メ及其ノ配備供給並經理ニ關スルコト
 - 十 艦營需品ニ係ル原簿等ヲ調製スルコト
 - 十一 艦營需品庫、各地炭庫ノ構造、設置、存廢ニ關スルコト
 - 十二 豫備炭山ニ關スルコト
 - 十三 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
- 造船課
- 一 造船官及造船技師技手ノ教育及補充ニ關スルコト
 - 二 雜役船運送船、通信船、工作船、病院船、除クノ所屬ニ關スルコト
 - 三 軍艦及水雷艇ノ大體計畫圖案調製ニ關スルコト
 - 四 艦船ノ注文購買及其ノ契約ニ關スルコト
 - 五 艦船ノ製造修理ニ關スルコト
 - 六 造船部ノ新築、改築、工業用諸機械及其ノ費用ニ關スルコト
 - 七 艦船及造船部ノ工場、工業用物品ノ保存、廢棄、賣買ニ關スルコト
 - 八 艦船及材料ノ試験検査ニ關スルコト
 - 九 造船監督官、造船監督會計官、造船監督助手、造船監督書記ニ關スルコト

- 十 造船職工ニ關スルコト
- 十一 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
 - 兵器課
 - 一 造兵官及造兵技師技手ノ教育及補充ニ關スルコト
 - 二 兵器及屬具ノ製造、購買、修理ニ關スルコト
 - 三 兵器及屬具ノ配備供給ニ關スルコト
 - 四 艦船ノ兵裝ニ關スルコト
 - 五 兵器簿、兵器明細簿等ヲ調製スルコト
 - 六 造兵廠、兵器工場及兵器庫ノ新築、改築、存廢ニ關スルコト
 - 七 造兵監督官、造兵監督會計官、造兵監督助手、造兵監督書記ニ關スルコト
 - 八 造兵職工ニ關スルコト
 - 九 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
- 第十一條 醫務局各課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 第一課
 - 一 海軍一般ノ醫務衛生ニ關スルコト
 - 二 軍人ノ體格ニ關スルコト
 - 三 恩給ニ係ル診斷書ノ調査ニ關スルコト
 - 四 軍醫官ノ補充ニ關スルコト
 - 五 軍醫官ノ外國留學ニ關スルコト
 - 六 治療品ニ關スルコト
 - 七 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト

- 第二課
- 一 艦船、建築、被服、糧食、給水ノ衛生ニ關スルコト
- 二 病院ノ新築、改築ニ關スルコト
- 三 内外國諸港ノ風土及地方病ニ關スルコト
- 四 外國海軍ノ醫務衛生調査ニ關スルコト
- 五 軍醫官ノ教育ニ關スルコト
- 六 海軍衛生學、軍陣醫學ニ關スルコト
- 七 醫務衛生ノ統計ニ關スルコト
- 八 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
- 第十二條 經理局各課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 第一課
 - 一 豫算、總豫算及決算報告ニ關スルコト
 - 二 仕拂豫算命令ノコト
 - 三 豫備金支出ニ關スルコト
 - 四 定額繰越、過年度支出、定額戻入ニ關スルコト
 - 五 特別會計ニ關スルコト
 - 六 收入及仕拂ニ關スルコト
 - 七 本省及收入監督官ヲ置カサル東京所在各廳ニ屬スル收入ノコト
 - 八 本省及委任仕拂命令官ヲ置カサル東京所在各廳ニ屬スル經費仕拂ノコト
 - 九 機動費ノ出納ニ關スルコト
 - 十 收入總報告書ニ關スルコト

- 十一 歳入簿及歳出簿登記保管ノコト
 - 十二 金錢ノ收支監督ニ關スルコト
 - 十三 出納官吏ノ身元保證金ニ關スルコト
 - 十四 主計官ノ教育補充及外國留學ニ關スルコト
 - 十五 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
- 第二課
- 一 被服、糧食、俸給、旅費、諸手當、扶助金其ノ他金錢給與他ノ主管ニ屬スル雇員、傭人及ニ關スルコト
 - 二 被服、糧食ノ出師準備ニ關スルコト
 - 三 被服、糧食ノ出納計算書ニ關スルコト
 - 四 被服、物品及糧食品ノ出納實況監査ニ關スルコト
 - 五 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
- 第三課
- 一 通常物品ノ會計ニ關スルコト
 - 二 物品買賣貸借ニ關スルコト
 - 三 本省及省内各廳ノ通常物品取扱ニ關スルコト
 - 四 官有財産管理ニ關スルコト
 - 五 土地建物ノ取扱ニ關スルコト
 - 六 建築工事ノ計畫及施行ニ關スルコト
 - 七 建築工事請負ニ關スルコト
 - 八 東京所在各廳ノ建築工事ヲ爲スコト

- 九 本省及省内各廳ノ傭人ヲ管スルコト
 - 十 本省及省内各廳ノ運輸通信取扱及船舶車馬傭入ニ關スルコト
 - 十一 本省及省内各廳ノ用度ニ關スルコト
 - 十二 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
 - 第十三條 司法部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 海軍刑法、海軍治罪法、違警罪處分例、普通刑法、訴訟法及諸罰則ニ關スルコト
 - 二 海軍懲罰令、官吏懲戒例、海軍監獄則、軍事警察及捕獲審檢ニ關スルコト
 - 三 各軍法會議ノ裁判及檢察ニ關スルコト
 - 四 訴訟ニ關スルコト
 - 五 主理、録事、監獄官ノ補充及監獄人員ニ關スルコト
 - 六 軍法會議、監獄ノ新築、改築ニ關スルコト
 - 七 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
 - 第十四條 各局課ニ於テ調理スヘキ豫算ノ分掌ハ別ニ之ヲ定ム
- 第二章 文書取扱
- 第十五條 大臣次官又ハ本省ニ宛テ到來スル公文ハ大臣官房ニ於テ接受スルモノトス但大臣親展書類ハ祕書官ニ於テ接受ス
 - 第十六條 前條ニ依リ接受シタル公文中各局ノ主務ニ屬スルモノハ指定ノ印ヲ捺シ直ニ之ヲ各局ニ配付ス
 - 第十七條 各局課長ハ各主務ノ公文ヲ審査シ大臣次官ノ閱覽ニ供スルニ止マルモノハ供覽ノ印ヲ捺シ自己ノ認印ヲ紙端ニ捺シ其ノ閣議命令閣議令指令等ヲ照會回答ヲ要スルモノハ各其ノ案ヲ付シ局長ノ檢印ヲ受ケ之ヲ官房ニ送付スヘシ

官房ノ主務ニ屬スル事項ニ關シテハ前項ノ例ヲ準用ス

第十八條 閣議命令照會回答ヲ付シ大臣次官ノ決裁ヲ受クルニハ所定ノ野紙ヲ用ヒ局長課長主任課僚部員之ニ捺印スヘシ但關係者ハ主務者ノ次ニ列記スヘシ

第十九條 他局ニ關係アル文書ハ主務局長課長等捺印ノ後主務局ヨリ關係ノ局ニ送付シ關係局ノ主務課長ハ調査捺印シ局長ノ捺印ヲ受ケ之ヲ官房ニ送付スヘシ

官房ノ主務ニシテ他局ニ關係アルモノ亦前項ノ例ニ依ル

第二十條 官房ニ於テハ主務局ヨリ公文ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ大臣次官ノ閱覽ニ供シ又ハ決裁ヲ經テ其ノ文案ニ依リ發付ヲ要スルモノハ直ニ淨書發付ノ手續ヲ爲スヘシ但計算書類其ノ他文書ニ附屬ノ表圖又ハ別紙別冊アルトキハ主務局ニ於テ淨書校合シ官房ニ送付スルモノトス

前項閱覽及發付濟ノ書類ニシテ主務局ニ送付ヲ要スルモノハ官房ヨリ直ニ之ヲ主務局ニ送付スヘシ

人事課ノ主務ニ屬スルモノニシテ本則第九條第八第十ノ事項及第十二ノ規程其ノ他閣議指令及部外往復等ニ係ルモノヲ除クノ外ハ該課ニ於テ淨書發付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條 上申伺ニシテ當分又ハ到底詮議ニ及ヒ難キモノハ各局若クハ官房ニ於テ其ノ理由ヲ附記シ大臣次官ノ査閱ヲ經テ之ヲ差出廳ニ返却スヘシ但時宜ニ依リ該書類ハ參考トシテ主務局若クハ官房ニ留置キ其ノ事由ヲ差出廳ニ通牒スルコトアルヘシ

第二十二條 本則第三條ニ掲グル事項ニシテ重要ナルモノ又ハ一般ニ涉ルモノハ大臣又ハ次官ノ閱覽ニ供スルモノトス

第二十三條 本省公文ハ件名簿ニ登記シ以テ處分ノ終始ヲ明ナラシム

件名簿ハ官房號機密號ノ二種トシ官房ニ備置クモノトス

件名簿ニハ公文ノ接受發送月日件名 原番號アルモノハ等ヲ記入シ各一貫ノ番號ヲ附シ同時ニ該番號ヲ公文ニ附點スヘシ

第二十四條 前條ニ掲グル外本省公文ニ對シ各局ニ於テハ別ニ件名簿ヲ置カス只受領發送簿ヲ備ヘ以テ文書ノ出入ヲ明ナラシム

受領發送簿ニハ公文ノ件名番號 原番號アルモノハ及受領發送月日等ヲ記入スヘシ

第二十五條 左ニ掲グル公文ハ處分結了後直ニ官房ニ於テ編纂保存シ其ノ他ハ主務各局ニ於テ保管スヘシ

- 一 上奏案允裁案竝親裁書
- 二 法律勅令案
- 三 省令訓令告示達內令案
- 四 官房號摺物案
- 五 指令通報ニ載セタル指令案
- 六 將官會議書類
- 七 統計及年報材料

第二十六條 各局ニ於テ保管スル公文中未結了ノモノヲ除クノ外ハ毎年六月ニ於テ必ス其ノ前年分ヲ官房ニ送致スヘシ官房ニ於テハ之ヲ査閱シ編纂保存ヲ要スヘキモノハ編纂保存ス

第二十七條 各局ニ於テ處務參照ノ爲メ官房記録庫ニ在ル文書ノ閱覽ヲ要スルトキハ庫内ニ於テ之ヲ閱覽スルヲ例トス若シ各局ニ携帶スルヲ要スルモノアルトキハ必ス其ノ日ノ中ニ還付スヘシ

○陸軍第四十六號

警備隊諸兵ノ歸休兵ハ毎年四週日以内砲兵助卒ハ現役最終ノ四箇月ニ於テ三週日演習ノ爲メ召集スヘシ其時期ハ師團長之ヲ定メ教習科目ハ豫備役兵後備役兵及第一補充兵勤務演習教令第一表ニ

準ス但砲兵助卒ノ召集ハ當分之ヲ實施セス

明治三十年四月二日

陸軍大臣子爵高島鞞之助

○陸軍第四十七號

陸軍懲罰令ニ依リ處分シタル者ニシテ現役滿期又ハ召集解除ノ際其罰期中ニ在ル者ノ取扱左ノ通定ム

明治三十年四月七日

陸軍大臣子爵高島鞞之助

一現役滿期又ハ召集解除ノ際重營倉輕營倉罰期中ニ在ル者ハ其滿期若クハ解除ノ際罰文ト共ニ諸部團隊長ヨリ衛戍司令官ニ引渡シ同官ハ之ヲ衛戍監獄ニ錮セシムヘシ但衛戍監獄ナキ地ニ在テハ衛戍司令官又ハ屯田兵隊長其地ノ營倉ニ錮シ之ニ要スル費用ハ其師管ノ衛戍監獄ニ在テハ東京衛戍司令官支辨トシ滿罰歸郷旅費ハ原隊ノ費用ニ屬ス
二監獄又ハ營倉ニ錮シタル者ハ諸部團隊長ヨリ其由ヲ本籍地所管聯隊區司令官ヲ經テ市町村長屯田後備役兵村監視東京市京都市大阪市及市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ區戶長及之ニ準スヘキ者ニ通知スヘシ

○陸軍第四十八號

明治二十七年陸軍第二十三號陸軍省所管豫算事務順序中左ノ通改正ス

明治三十年四月八日

陸軍大臣子爵高島鞞之助

第十條第一項中「歳入豫定計算内譯書」ヲ「歳入豫定計算書各目明細書」ニ改ム
ル法令契約等取調書」ヲ「法令契約等取調書」ニ改ム
第十一條中「内譯書」ヲ「各目明細書」取調書ニ「歳入豫定計算内譯書」ヲ「歳入豫定計算書各目明細書」ニ改ム
第十二條中「内譯書」ヲ「各目明細書」取調書ニ「歳入豫定計算内譯書」ヲ「歳入豫定計算書各目明細書」ニ改ム

細書 第五號 歳入起因ニ關スル法令契約等取調書 乙様式ニ改ム
様式 第五號 別紙ノ通改ム (別紙略ス)

○陸軍第四十九號

將校團教育令中左ノ通改正セラル

明治三十年四月八日

陸軍大臣子爵高島鞞之助

第六項中「學科ノ未行現地上ノ講話」ノ次ハ「圖上ノ戰術實施」ノ一行ヲ加フ

〔參照〕

陸軍第八十六號將校團教育令(明治二十二年五月十七日抄録)

第六項

將校ノ教育ハ將校團長ノ責任トス其方法固ヨリ一ニシテ足ラス今其科目ノ重要ナル者ヲ掲ケルハ左ノ如シ

陸軍附屬

學科 陸軍附屬
冬季作業 講話 兵棋 地形測量 現地上ノ講話

○陸軍第五十號

將校團教育實施教令中左ノ通改正ス

明治三十年四月八日

陸軍大臣子爵高島鞞之助

第七條中「此演習終ル毎ニ」ノ七字ヲ削リ「野外演習實施表(第二書式)ヲ作り」ノ下ニ「毎年十二月上旬」ノ七字ヲ加フ
第八條 各將校團ノ大中小少尉ハ毎年冬季ニ於テ一ノ問題ニ付キ答案ヲ草ス其問題ハ軍事學上或ハ實際職務上ノ範圍内ニ於テ撰擇スルヲ要ス
第九條中「各將校團ノ長」ノ下ニ「步兵及砲兵ニ在テハ中少尉ノ問題ハ大隊長」ノ括弧及十九字ヲ加フ

セシムヘシ

第二條 部長事故アルトキ若クハ缺員中ハ特ニ代理ヲ命スルトキノ外其ノ次席ノ佐官科長事故アルトキ若クハ缺員中ハ其ノ首席ノ科僚其ノ事務ヲ代理スヘシ但水路告示及各國水路部トノ通信ハ代理者部長ノ名ヲ以テ之ヲ發スヘシ

第三條 測量科長ハ左ノ事項ヲ掌ルヘシ

一 科僚及技手ヲ部署シ測量教令ヲ下シ一方面ノ測量ニ從事セシムル事但須要ナル方面ノ測量ニハ科僚及技手ヲ指揮シ自ラ之ニ從事スルコトアルヘシ

二 測量艦ニ對スル測量教令ヲ起案スル事

三 測量艦ニ於テ使用スヘキ測量用器具等ニ關スル事

四 測量原圖ノ精査及保管ニ關スル事

五 水路記事ノ調査ニ關スル事

六 測量經費豫算ニ關スル事

七 測量ニ係ル報告統計整理ニ關スル事

第四條 測量科長ハ科僚ノ内一名ヲ指定シ科中一切ノ事務ヲ監セシメ測器其ノ他測量科ニ屬スル物品ノ保護及修覆等ヲ監督セシムヘシ

第五條 測量科長ハ技手ノ内一名ヲ指定シ測器其ノ他測量科ニ屬スル物品ノ保護及修覆等ニ從事セシムヘシ

第六條 測量科僚ハ科長ノ部署ニ從ヒ一方面ノ測量ニ從事シ測量原圖ヲ調製シ其ノ水路記事及報告書ヲ記述スヘシ

前項科員中首席ノ者ハ其ノ測量事業ヲ主管スヘシ

第七條 測量科ニ屬スル書記ハ其ノ科ノ事務ニ服ス

第八條 測量科ニ屬スル技手ハ一方面ノ測量事業ニ服ス

第九條 第五條ニ掲グル技手ノ執務時間ハ七月十一日ヨリ九月十日マテ十一月一日ヨリ翌年二月盡日マテ及其他ノ土曜日ニ於テハ一般ノ執務時間ニ一時間ヲ増加ス

第十條 圖誌科ニ左ノ五掛ヲ置ク

一 編修掛 編修及編修書記ヲ以テ之ニ充ツ

二 圖書掛 書記ヲ以テ之ニ充ツ

三 製圖掛 技手ヲ以テ之ニ充ツ

四 彫刻掛 技手ヲ以テ之ニ充ツ

五 印刷掛 技手ヲ以テ之ニ充ツ

第十一條 編修掛ハ左ノ事項ヲ掌ルヘシ

一 水路誌燈臺表其ノ他水路ニ緊要ノ書類ヲ編述翻譯若クハ改正スル事

二 水路告示ヲ起案スル事

三 内外國ヨリ送付セル水路雜誌ヲ校正スル事

第十二條 圖書掛ハ左ノ事項ヲ掌ルヘシ

一 圖誌ノ購買準備及拂下ニ關スル事

二 圖誌ヲ各領守府ニ配賦シ及新舊圖誌ヲ交換スル事

三 外國ト圖誌ヲ交換スル事

四 圖誌ヲ保管スル事

五 圖誌ノ目錄ヲ調製スル事

六 圖誌ノ經費豫算ニ關スル事

七 圖誌ニ係ル報告統計整理ニ關スル事

八 兵備品出納ニ關スル事

第十三條 製圖掛ハ左ノ事項ヲ掌ル

一 測量原圖又ハ外國ノ海圖ニ依リ海圖及航海ニ必要ナル圖類ヲ調整若クハ改正スル事

二 寫真ニ關スル事

第十四條 彫刻掛ハ銅、石、亞鉛各版ノ彫刻及版下ニ關スル事ヲ掌ル

第十五條 印刷掛ハ左ノ事項ヲ掌ル

一 銅、石、亞鉛各版ノ印刷ニ關スル事

二 活字版印刷ニ關スル事

三 鍍版ニ關スル事

四 圖書原版ヲ保存スル事

第十六條 製圖掛彫刻掛印刷掛ノ執業時間ハ第九條ニ依ル

第十七條 圖誌科長ハ其ノ科ニ屬スル技手ヲ製圖掛彫刻掛及印刷掛ニ配置スヘシ

第十八條 圖誌科僚ハ左ノ事項ヲ掌ルヘシ

一 内外諸圖誌ヲ調査シ及圖誌ノ改正ヲ監査スル事

二 製圖掛彫刻掛及印刷掛ヲ指揮スル事

三 科中一切ノ事務ヲ監督スル事

第十九條 製圖掛彫刻掛及印刷掛ノ各上席技手ハ各掛ノ長トナリ掛中ノ庶務ヲ取扱フヘシ

第二十條 會計課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌理スヘシ

一 歳入歳出ノ豫算ヲ編製スル事

二 收入支出ニ關スル事務ヲ調理スル事

三 物品ノ購買及不用品拂下ニ關スル事務ヲ整理スル事

四 部内各所修繕ニ關スル事

五 通常物品ノ出納ニ關スル一切ノ事務ヲ調理スル事

六 部内取締ニ關スル事

七 守衛使丁給仕ノ使役及監督ニ關スル事

八 通信運搬ニ關スル事

九 各科ノ主務ニ關セサル事務ヲ處理スル事

文書取扱

第二十一條 部長又ハ水陸部宛ノ書類ハ會計課ニ於テ之ヲ受領シ件名簿ニ登記シ部長ノ査閱ニ供スヘシ但部長宛親展書類ハ部長直ニ接手スルモノトス

第二十二條 部長ハ文書ヲ査閱シ其ノ主務ノ科課ニ送附スヘシ

第二十三條 科課長ハ部長ヨリ下附ノ文書ヲ審査シ即日之ヲ處辨スヘシ若シ即日處辨シ難キモノハ五日以内ニ處辨シ尙其ノ期限内ニ處辨シ難キモノハ事由ヲ附箋シ部長ノ檢印ヲ受クヘシ

第二十四條 事ノ連帶ニ涉ル文書ハ主務ノ科課ニ於テ立案シ連帶科課長ニ送附シ同科課長檢印ノ後之ヲ部長ニ出スヘシ

第二十五條 各科課ニ於テ立案スル文書ヲ發送スルニハ主務科課ニ於テ淨書シ會計課ニ送附スヘシ會計課ニ於テハ之ニ番號ヲ附シ件名ヲ簿冊ニ登記シ成ルヘク其ノ日内ニ發送シ該原案ニ番號及發送月日ヲ記入シ主務科課ニ返付スヘシ

第二十六條 諸文書ハ其ノ主務科課ニ於テ保存スヘシ但別ニ成規アルモノハ此ノ限ニアラス

第二十七條 處務參照ノ爲メ各主務科課ニ於テ保存スル文書ヲ閱覽セントスルトキハ其ノ室ニ就テ之ヲ見ルヘシ若シ必要ニ依リ他室ニ攜帶スルトキハ必ス其ノ日内ニ返付スヘシ

○陸達第五十二號

村田連發銃擬製實包ハ該銃實包ト識別ヲ明瞭ナラシムル爲メ別紙圖面ノ通藥莖ニ小孔ヲ穿テ彈丸

ノ鍍色ヲ廢ス (別紙略ス)

但シ既ニ支給ノ分ハ各其管理ノ兵器彈藥費内ヲ以テ漸次改正スヘシ

明治三十年四月十三日

陸軍大臣子爵高島綱之助

○陸軍第五十三號

陸軍工兵監護補缺トシテ來ル七月學術検査施行候條陸軍補充條例第四章第五款及同附則第百八十一條ニ依リ志願者八名取調來ル六月二十日迄ニ軍務局長ヘ送付スヘシ
但學術検査ハ左ノ方法ニ依リ施行ス

明治三十年四月十五日

陸軍大臣子爵高島綱之助

工兵監護志願者學術検査方法

一 學術検査ハ左ノ範圍内ニ於テ問題ヲ與ヘ筆記解答セシム

應問

兵要土木學

木塔ノ物料
木類及金屬

工兵操典ノ部

算術

數學

代數學

平面幾何學

平面三角學

製圖

建築圖

二 検査ハ各地共同一ノ時日ニ於テ行ハシム其時日ハ問題配賦ノトキ軍務局長ヨリ通知スルモノトス

三 問題ハ密封シテ之レヲ送付ス検査官ハ各科試験ノ始時ニ於テ之レヲ受験者ニ與ヘ受験者ヲシテ自ラ開封セシムヘシ

四 受験者ハ各問題表面ニ掲クル時間内ニ解答ヲ出スモノトス

五 解答書類ハ照數ヲ附スルニ及ハス検査終レハ即日之レヲ軍務局長ニ郵送スヘシ
但封筒上ニ工兵監護試験書類ト朱記スルモノトス

六 製圖用紙ハ各所管ニ於テ調辨スヘシ

七 受験者ハ筆墨圖引具ノ外検査場内ニ携フルヲ許サス

○陸軍第五十四號

明治二十五年陸軍第二十三號陸軍志願兵身體検査規則左ノ通改正ス

明治三十年四月二十日

陸軍大臣子爵高島綱之助

陸軍志願兵身體検査規則

第一條 陸軍志願兵身體検査ハ其身體ノ合格ト不合格トヲ判別スルモノトス此ノ検査ハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

此規則ハ陸軍士官候補生並諸生徒ノ身體検査ニ適用ス

第二條 志願者一日ノ検査人員ハ醫官一名ニ付概ネ四十名トス

第三條 志願者ノ身長ヲ定ムルコト左ノ如シ但別ニ規定スル所アルモノハ此限ニ非ス

滿十三歲以上 四尺五寸以上

滿十四歲以上 四尺六寸以上

滿十五歲以上 四尺七寸以上

滿十六歲以上 四尺八寸以上

滿十七歲以上 四尺九寸以上

滿十八歲以上 五尺以上

第四條 志願者ノ體格ヲ區別スルコト左ノ如シ

一 甲種 身體強健ナルモノ

二 乙種 身體甲種ニ亞クモノ

三 丙種 前二項ニ該ラサルモノ

第五條 前條ノ甲種乙種ヲ合格トシ丙種ヲ不合格トス

五十 剩趾若クハ趾ノ著大ナル彎曲

備考

明治何年何月何日

官氏名印

第二式 用紙美濃紙半葉

府縣國郡市町村住族職某男(兄弟戸主等)

體格檢査表

某地検査場検査官	要摘	運動	閉節	言語	長身	位等	氏名	何某	何年何箇月	
							力視			一般
官氏名印										

本表用紙ハ之ヲ要スル部隊ニ於テ調製スヘシ

○陸達第五十五號
 明治三十年經理學校ニ入校セシムヘキ監督學生ノ人員ハ五名軍吏學生ノ人員ハ六十名ニシテ其試驗格例左ノ通定ム但入校時期ハ追テ之ヲ定ム
 明治三十年四月二十日
 監督學生入學試驗格例
 筆記試驗
 陸軍大臣子爵高島綱之助

陸軍會計經理	化學	物理學	數學	外國語學	文論說
	非金屬元素、金屬元素並其普通ノ化合物		比例(單復)開平、開立、代數、幾何(立體)三角(平面)三角(弧)三角	英、佛、獨、魯、清ノ内歐(漢)文和譯、和文歐(漢)譯	

口述試驗
 陸軍官制、官規、編制
 但時宜ニ依リ本試驗ノ外筆記試驗ト同一ノ試驗ヲ行フコトアルヘシ
 軍吏學生入學試驗格例
 筆記試驗

陸軍會計經理	文論說	簿記學	數學	外國語學
		理論及例式、商用簿記學原論、勝村榮之助著	四則比例(單復)、開平、開立、代數(一次方程式)、幾何(平面)	英、佛、獨、魯、清ノ内歐(漢)文和譯

○宮内省達甲第三號
 大喪使ヲ廢ス
 明治三十年四月二十一日

宮内大臣伯爵土方久元

○海軍省達第四十六號

海軍文官ニシテ部内轉勤轉任ノ際其俸給ノ本省費ト他ノ費項ニ跨ルトキハ辭令書ノ日附ヲ以テ區分シ前廳ニ於テ其當日マテノ俸給ヲ支給スヘシ
木達ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

明治二十五年官房第二六六二號ハ本達施行ノ日ヨリ廢止ス

明治三十年四月二十三日

海軍大臣侯爵西郷從道

○海軍省達第四十七號

明治十八年^{十二月}丙第六十六號陸海軍喇叭譜同目次同區分表中ニ左ノ追加ス(追加略ス)
明治三十年四月二十三日

海軍大臣侯爵西郷從道

○陸達第五十六號

明治二十九年陸達第八十二號中第八項要塞砲兵射擊學校學生ハ毎年二月及九月トアルヲ本年ニ限リ九月ヲ七月トス

明治三十年四月二十七日

陸軍大臣子爵高島綱之助

〔參照〕

明治二十九年^{五月}陸達第八十二號ハ校園學生及生徒入學時期ノ件ナリ

○陸達第五十七號

明治十八年達乙第五百五十四號陸海軍喇叭譜同喇叭譜目次同喇叭譜所用區分表中別紙ノ追加ス(別紙略ス)

明治三十年四月二十八日

陸軍大臣子爵高島綱之助

○宮内省達甲第四號

皇太后宮職ヲ廢ス

明治三十年四月三十日

奉 勅

宮内大臣伯爵土方久元

○海軍省達第四十八號

明治二十九年^{六月}達第六十二號軍艦射擊用彈丸年額表備考第五項中「炸裂ノ成否ヲ報告スヘシ」ヲ「無煙火藥ヲ用フル大砲ニ在テハ同種ノ裝藥ヲ用ヒ榴彈炸裂ノ成否火藥燃燒ノ模様等ヲ報告スヘシ」ニ改ム

明治三十年五月四日

海軍大臣侯爵西郷從道

○海軍省達第四十九號

臺灣總督府軍務局海軍部ニ於テ使役スル雇員備人ハ雇員備人規則及雇員備人給與規則ニ據ラス單ニ雇員及備人トシ經費豫算定額内ニテ雇員ハ月給參拾圓以內、備人ハ日給八拾錢以內ヲ以テ適宜備役スルコトヲ得

明治三十年五月四日

海軍大臣侯爵西郷從道

○陸達第五十八號

朝鮮及威海衛ヘ派遣ノ軍人軍屬ニシテ傷痍疾病ニ罹リ内地ヘ轉送スヘキモノハ明治二十九年陸達第五百五十九號ニ準シ取扱フヘシ

明治三十年五月十二日

陸軍大臣子爵高島綱之助

〔參照〕

明治二十九年^{十一月}陸達第五百五十九號ハ臺灣守備隊陸軍醫務兵隊其他臺灣陸軍官衛附將校以下軍人軍屬ニシテ傷痍疾病ニ罹リ臺灣衛戍病院ニ於テ治療ヲ受ケタル者内地ヘ轉送スヘキモノ、取扱方ナリ

○海軍省達第五十號

明治十九年丙第十五號ヲ廢ス

明治三十年五月十三日

海軍大臣侯爵西郷從道

〔參照〕

明治十九年十月第十五號八海軍砲隊操式海軍拳銃操法ナリ

○陸軍第五十九號

明治二十七年陸軍第四十四號中「千住製絨所」ノ下ニ「臺灣總督府軍務局陸軍部第三課」ノ十四字ヲ追加ス

明治二十年五月十四日

陸軍大臣子爵高島綱之助

〔參照〕

陸軍第四十四號(明治二十七年五月二十一日)

陸軍省所管歳入歳出外現金出納計算ノ検査及責任解除ヲ會計検査院法第十六條ニ據リ明治二十六年度以降會計検査院ヨリ當省ニ委託セリ仍テ本省ニ係ルモノハ經理局第三課被服廠ニ係ルモノハ經理局第二課其他ハ當該各監督部各砲兵工廠及千住製絨所ニ委任ス

○陸軍第六十號

村田連發銃實包ニハ紙塞ヲ廢シ綿塞ヲ使用スヘシ

明治三十年五月十四日

陸軍大臣子爵高島綱之助

○海軍省第五十一號

停年計算規則中左ノ通改正追加ス

明治三十年五月十四日

海軍大臣侯爵西郷從道

第六條第五中ノ割註「高等武官ニ在」ヲ削リ同條第六ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

七 第一豫備艦乘組中ノ日數ノ四分ノ一ニ當ル日數

第七條第一中ノ「艦」ノ字ヲ削リ左ノ但書ヲ加フ

但第一豫備艦乘組中ノ日數ハ其ノ四分ノ三ニ當ル日數

〔參照〕

海軍省陸軍第八號停年計算規則(明治二十九年二月十九日)抄録

第六條 左ニ掲クル日數ハ海上勤務ニ算入ス

五 水雷隊攻撃部及水雷艇隊ニ在リテ勤務中ノ日數

第七條 左ニ掲クル日數ハ海上勤務ニ算入セス

一 高等武官ニ在テハ豫備艦艇若クハ非役艦乘組中ノ日數

○海軍省第五十二號

雇員備人規則左ノ通改正ス

海軍大臣侯爵西郷從道

雇員備人規則

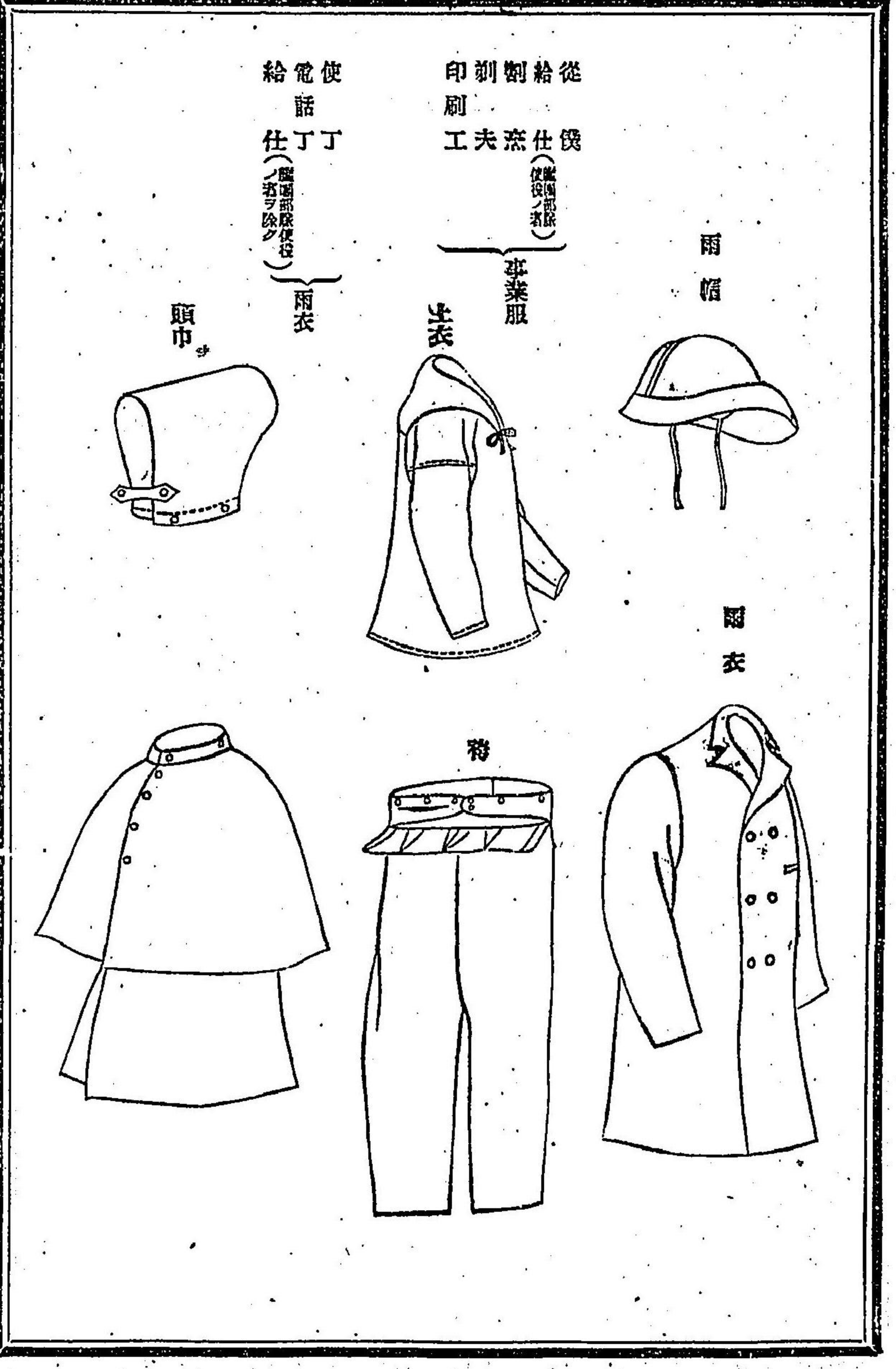
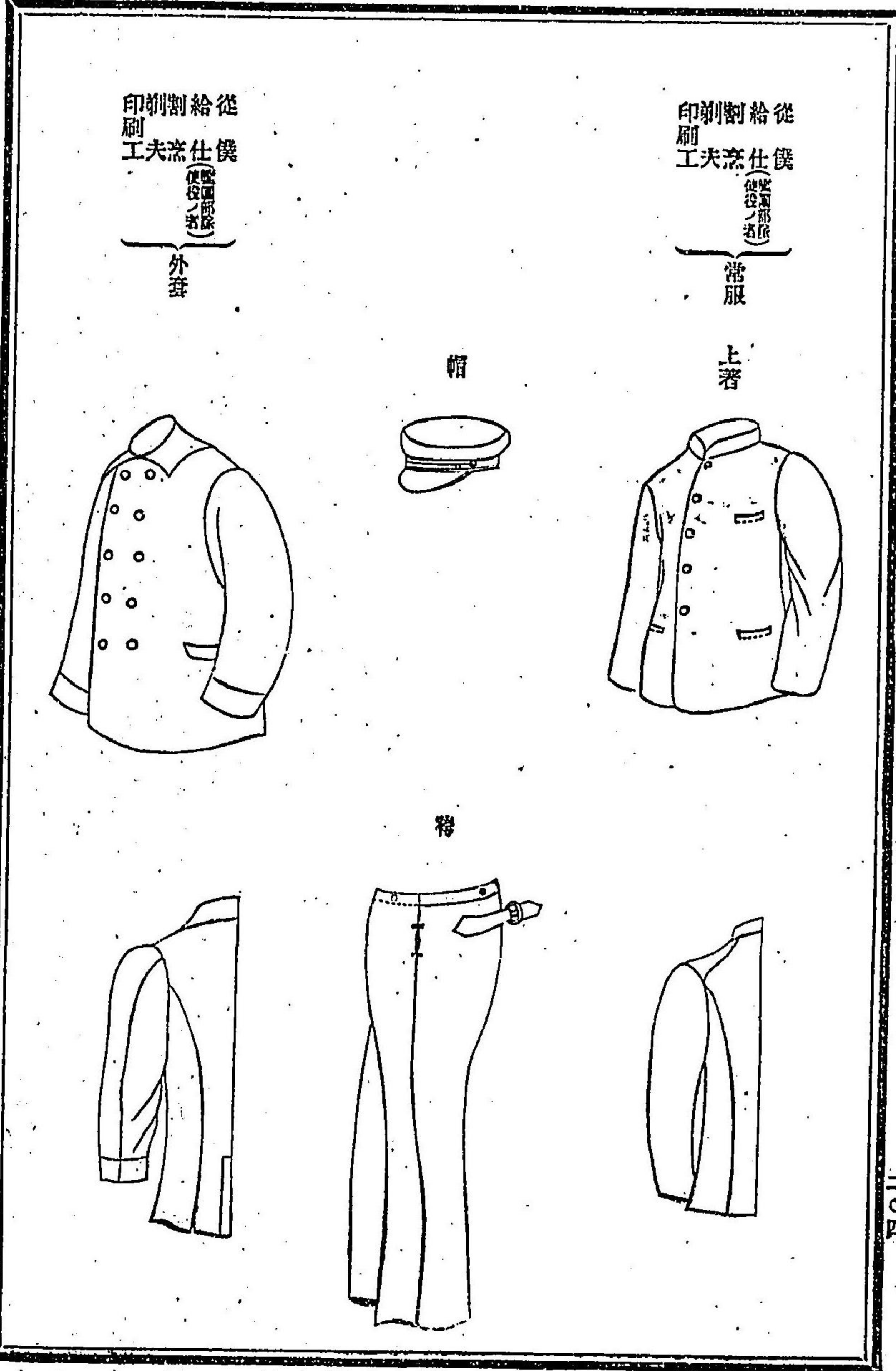
第一條 雇員備人ハ此ノ規則ニ依リ豫算定額内ニ於テ使役スルモノトス

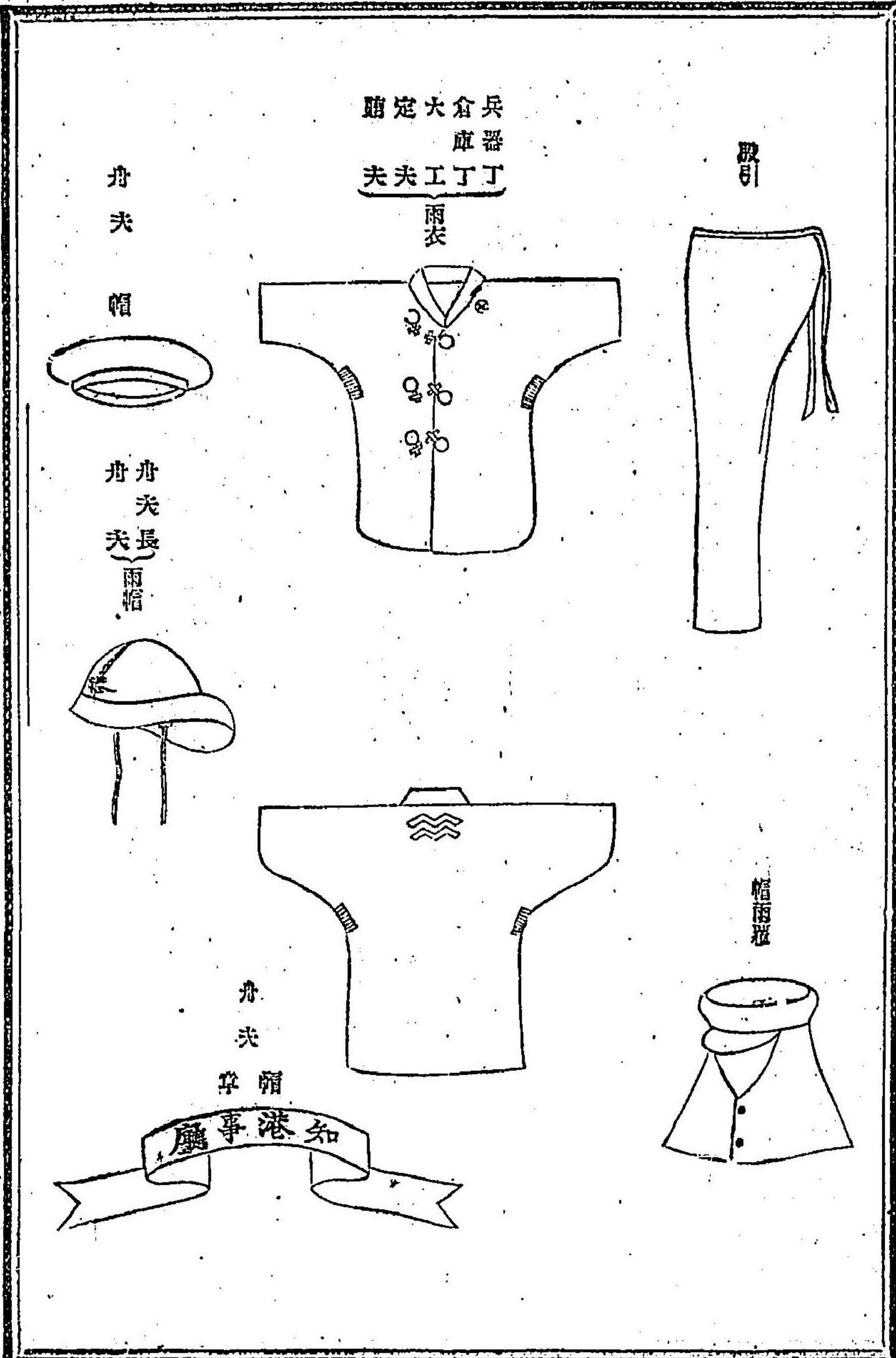
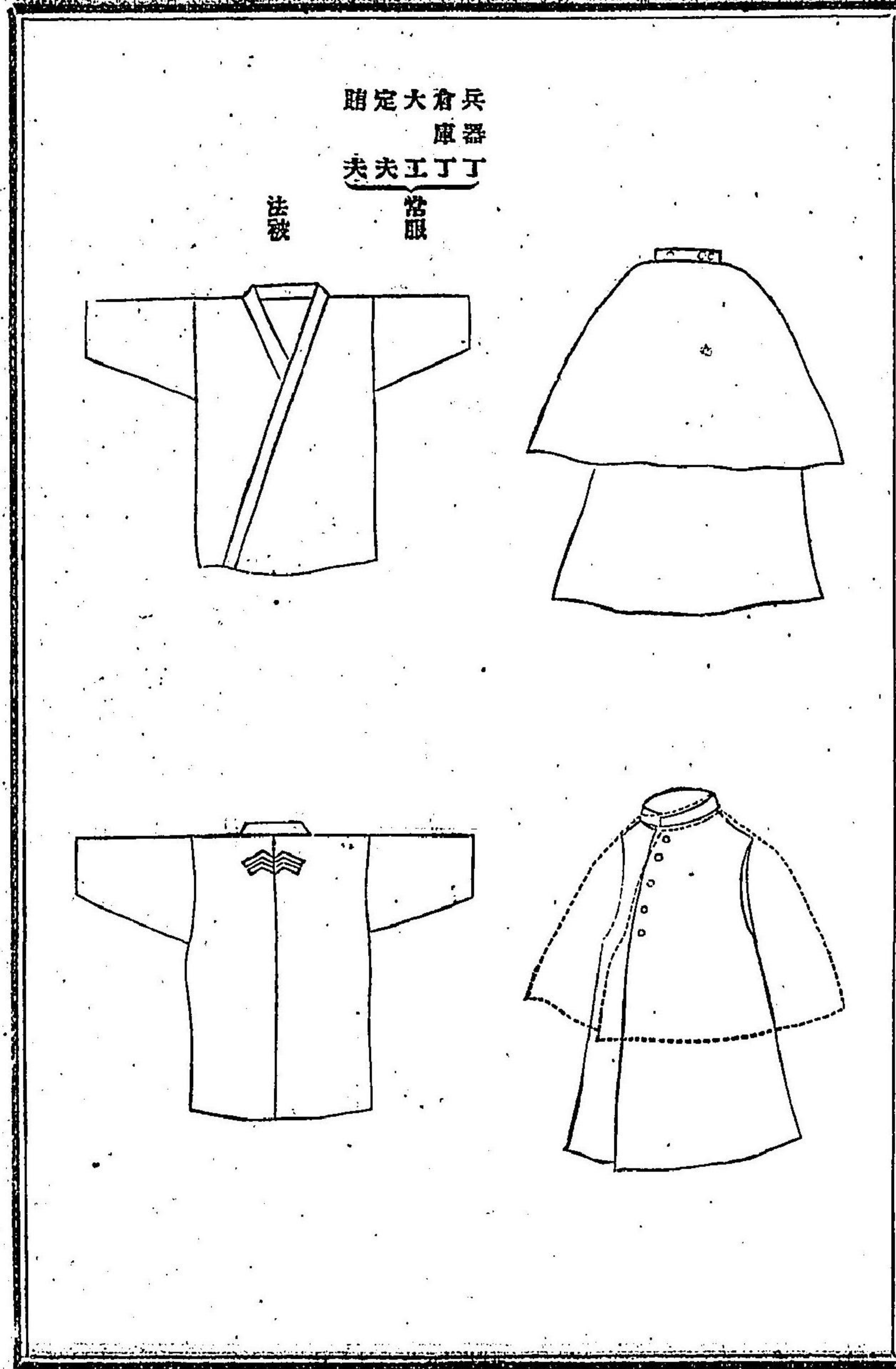
第二條 雇員ノ職名及使役場所定限左ノ如シ

職名	使役場所及定限
砲	
海圖彫刻手	水路部
海圖印刷工	同
縫手	機織製衣糧庫、吳衣糧庫
縫包手	機織製衣糧庫
縫包器械手	同
縫包手	同
衛生	造兵廠造船部、兵器工場
技生	本省(軍令部)技術會議、諸學校、臨時建築部、同支部、水路部、測器廠、武庫、水雷庫、建築科、新原操所
器械	本省、諸學校、水路部、測器廠、病院
守衛	

第三條 備人ノ職名及使役場所定限左ノ如シ

職名	使役場所及定限
海圖彫刻手	水路部
海圖印刷工	同
縫手	機織製衣糧庫、吳衣糧庫
縫包手	機織製衣糧庫
縫包器械手	同
縫包手	同





〔參照〕

明治三十二年二月海軍省達第三百九十號ハ傭人被服規則ナリ

○陸軍第六十一號

明治二十九年陸軍第五十二號臺灣島及澎湖島駐衛陸軍部隊給與規則第五表及明治三十年陸軍第二十七號威海衛駐衛陸軍部隊給與規則第五表中革製雜糞ノ名稱ノ畫内「憲兵下士上等兵」ヲ「憲兵下副官上等伍長下士上等兵」ニ改正ス

明治三十年五月二十一日

陸軍大臣子爵高島綱之助

○陸軍第六十二號

明治二十九年陸軍第五十一號第四項中「野戰砲兵隊」ノ下ニ「砲兵會議、砲兵方面本署、師團司令部所在地砲兵方面支署、臺灣武庫、臺灣兵器修理所、砲兵工廠」ノ三十九字及「野戰砲兵射擊學校」ノ下ニ「砲兵工科學校」ノ六字ヲ追加ス

明治三十年五月二十一日

陸軍大臣子爵高島綱之助

〔參照〕

陸軍第五十一號(明治二十九年十月十五日)抄録

陸軍乘馬飼養條例第一條乘馬本分者中左ニ列記スル者ハ當分乘馬ヲ飼養セシメス

四 第五項砲兵科士官中野戰砲兵隊、士官學校生徒隊、教導團砲兵生徒隊、野戰砲兵射擊學校附ニ非サル者

○陸軍第六十三號

陸軍軍人軍屬出張取扱規則左ノ通定ス

明治三十年五月二十二日

陸軍大臣子爵高島綱之助

陸軍軍人軍屬出張取扱規則

第一條 軍人軍屬内國ニ於テ出張ヲ要スルコトアルトキハ特ニ規定アルモノ、外總テ本規則ニ依リ取扱フモノトス

第二條 軍隊ニ服務スル者ノ出張ハ師團長、臺灣守備混成旅團長、警備隊司令官、憲兵司令官、臺灣憲兵隊司令官、憲兵隊長之ヲ命ス

第三條 陸軍省、參謀本部、監軍部、東京防禦總督部、都督部ニ服務スル者及陸軍大臣並參謀總長ニ直屬ノ官衙ニ服務スル者ノ出張ハ各其ノ長官之ヲ命ス

前項外ノ官衙ニ服務スル者ノ出張ハ該官衙所屬ノ長官之ヲ命シ又ハ所屬長官ノ認可ヲ得テ其ノ長官之ヲ命ス

但要塞司令部及要塞所在地砲、工兵方面支署ニ服務スル者其ノ所轄要塞内ノ出張ハ認可ヲ受クルヲ要セス

第四條 學校ニ服務スル者ノ出張ハ該學校所屬ノ長官之ヲ命シ又ハ所屬長官ノ認可ヲ得テ校團長之ヲ命ス

但學生及生徒教育ノ爲メ之ヲ引率シ若クハ之ト共ニスル出張ハ認可ヲ受クルヲ要セス

第五條 第二條及第三條第一項ノ長官ニシテ管區ヲ有スル者其ノ所轄區域外ニ出張ヲ命スルノ要アルトキハ東京防禦總督、都督及師團長ハ陸軍大臣其ノ他ノ者ハ所屬長官(臺灣ニ職ヲ奉ス)ノ認可ヲ得テ之ヲ命ス

第六條 第二條及第三條第一項ノ長官出張ヲ要スルコトアルトキハ參謀總長、監軍ハ其ノ出張及歸著ヲ陸軍大臣ニ移牒シ東京防禦總督、都督及師團長ハ陸軍大臣其ノ他ノ者ハ各所屬長官ノ認可ヲ請フヘシ

但東京防禦總督、師團長、臺灣守備混成旅團長、警備隊司令官及憲兵隊長ハ其ノ所轄區域内ニ限リ三週間以内ノ出張ハ認可ヲ受クルヲ要セス其ノ出張及歸著ヲ所屬長官(東京防禦總督、都督及師團長ハ陸軍大臣)ニ報告スヘシ

第七條 事變ニ際シ事急ニシテ本規則ニ依ル能ハサルトキハ便宜決行ノ後報告スルコトヲ得

- 二 乙類 上川 根室 厚岸 雨龍 陸奥 秋田 山形 宮城 岩手 青森 弘前 津軽 函館
- 三 丙類 瀧川 沼貝 室蘭
- 四 丁類 篠路 新琴似

○海軍省達第五十七號

自今水雷艇ニ伊東海軍機關少監意匠ニ係ル魚形水雷發射管不凍裝置ヲ採用ス

明治三十年五月二十八日

海軍大臣侯爵西郷從道

○海軍省達第五十八號

明治二十四年達第百八十四號貸與品表中乾麵包袋ノ一廉ヲ削除ス

明治三十年五月二十八日

海軍大臣侯爵西郷從道

○海軍省達第五十九號

禮砲條例第三十八條中同條例第三十二條ノ表ニ準スル儀ハ單ニ禮砲ノ數ニ止マリ從テ同條例第四章ニ依リ行フ禮砲ハ總テ期限回数ニ制限ナク毎回施行スル儀ト心得ヘシ

明治三十年五月二十八日

海軍大臣侯爵西郷從道

○陸軍第六十九號

陸軍地方幼年學校附下士ハ當分ノ内明治二十四年陸軍第四百號ノ年限ニ係ハラズ採用スルコトヲ得

明治三十年五月三十一日

陸軍大臣子爵高島綱之助

〔參照〕

陸軍第四百號(明治二十四年七月二十日)
各兵科 陸軍 陸軍附下士 陸軍及附下士 陸軍外ニ採用スルニハ 教導團出身ノ者ハ初任ノ日ヨリ 四箇年上等兵出身ノ者ハ入營ノ日ヨリ五箇年ヲ過キタル者ノ内ヨリ採用ス可シ

○陸軍第七十號

明治二十二年陸軍第百八十五號陸軍部内傳染病豫防細則左ノ通改正ス

明治三十年五月三十一日

陸軍大臣子爵高島綱之助

陸軍部内傳染病豫防細則

第一條 本細則ハ陸軍部内傳染病豫防規則ニ據リ之ヲ定ム但本細則ニ於テ單ニ規則ト稱スルハ陸軍部内傳染病豫防規則ヲ謂フ

第二條 部隊附醫官ハ部隊ニ於テ傳染病發生シタルトキハ之ヲ部隊長ニ申告シ適當ノ處置ヲ施スヘシ但急ヲ要スル場合ニハ之ヲ處置シタル後ニ申告スルコトヲ得

第三條 規則第三條ノ場合ニ於テ軍醫部長 師團司令官 師團司令部所在地外ニハ豫防實施上ニ就キ所在地醫官ヲ會シテ意見ヲ徵シ成ルヘク均一ノ處置ヲナサシムヘシ

第四條 軍醫部長ハ其部隊ニ傳染病發生シ又ハ其近傍地方ニ傳染病流行ノ兆アルトキハ他ノ部隊ニ之ヲ通牒シ師團司令官所在地外ノ部隊ニ於テ同様ノ事實アルトキハ該部隊ヨリ其近傍ノ部隊ニ之ヲ通牒スヘシ

第五條 部隊又ハ其近傍ニ於テ痘瘡病者アルトキハ臨時ニ種痘ヲ施シ他ノ傳染病者アルトキハ各其性ニ應シテ清潔法、消毒法等ヲ嚴施シ外來人ハ一定ノ所ニ停マラシメ其便所ハ別ニ之ヲ設クルコトアルヘシ

第六條 軍醫部長ハ部隊ニ於テ傳染病發生シタルトキハ其病者竝治癒死亡ノ員數ヲ地方廳ニ通知スヘシ又地方ニ於テ該病發生流行スルトキハ地方廳ニ照會シテ病者ノ住所員數等ニ關スル通報ヲ受クヘシ但師團司令官所在地外ニ在テハ該地部隊ニ於テ其取扱ヲナスヘシ

第七條 規則第六條ノ病者表ハ軍醫部長ニ於テ其病性及流行ノ景況ニ應シ日報又ハ週報ニ製セシ

第八條 軍醫部長ハ前條ノ報告ニ據リ其病者並治癒死亡ノ員數ヲ醫務局長ニ申報スヘシ

第九條 部隊附醫官ハ其部隊ニ於テ傳染病終熄シタルトキハ其初發ヨリ病者ノ員數並發病ノ原由、轉歸、傳播ノ景況及實行シタル清潔法、消毒法及治療法ヲ詳記シテ當該軍醫部長ニ報告シ軍醫部長ハ其報告ニ依リ流行紀事ヲ編纂シテ醫務局長ニ申報スヘシ

第十條 規則第四條ノ豫防委員中一名乃至二名ハ衛生部上長官、士官ヲ以テ之ニ充テ又軍吏一名ヲ委員中ニ加フルコトアルヘシ

第十一條 避病院ノ場所ハ成ルヘク泉源、河流、水道ノ近傍、交通頻繁ナル地區、颯風ノ上方ヲ避ケ運搬ト給與トニ便ナル處ヲ撰ビ地方官若クハ市町村長ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第十二條 避病院ノ病室ハ疑似症、輕症、重症及快復期ノ四室ニ區別シ又院内ニハ醫務室、藥室、看護人室、消毒室、浴室、屍室及庖厨ヲ設クヘシ但地方ノ傳染病院ヲ借用シタルトキ及傳染病者少數ノ場合ニ在テハ便宜之ヲ區別スヘシ

第十三條 避病院ニハ醫官ノ許可ヲ得サル者ハ一切立入ラシムヘカラス但病者ノ親戚ニシテ面會ヲ請フモノニハ心得方ヲ示シタル後時間ヲ限リ之ヲ許スヘシ

第十四條 避病院附職員ハ屢、交代セシメサルヲ要ス

第十五條 傳染病者ヲ取扱フヘキ醫官、看護長、看護手及看護人ニハ避病衣ヲ貸與ス

第十六條 規則第八條ニ於ケル病者感染ノ疑アルモノヲ隔離所ニ停留セシムル日數ハ其流行地又ハ有毒船舶有毒汽車若クハ有毒室ヲ離レタル日ヨリ起算シテ概ネ六日間トス

前項定限ノ日數ハ其病性ニ應シ醫官ニ於テ伸縮スルコトヲ得

第十七條 清潔法ノ要項ハ左ノ如シ

一 傳染病者ヲ發シタル室及病者汚染ノ疑アル場所ニ消毒法ヲ施シタル後掃除ヲ行ヒ其塵芥ハ

之ヲ燒却スヘシ

二 溝渠ノ流利ヲ務メ必要ト認ムルトキハ之ヲ浚渫スヘシ

三 疑ハシキ便所又ハ芥溜ハ消毒法ヲ施シタル後掃除セシムヘシ

四 右ノ汚泥塵芥類ハ豫テ撰定シアル場所ニ之ヲ棄テ散逸セサランコトヲ務ムヘシ

五 必要ノ場合ニハ井戸浚ヲ爲シ芥溜便所等ノ修理改造ヲ營ムヘシ

第十八條 消毒法ハ左ノ四種トス

一 燒却

二 蒸汽消毒

三 煮沸消毒

四 藥物消毒

第十九條 燒却ニ適スルモノハ左ノ如シ

一 傳染病者若クハ屍骸ニ用ヒタル蒲團ノ藁、病衣ノ綿、布片等廉價ナルモノ又ハ燒却ニ由ルニ非レハ完全ノ消毒ヲ期シ難キモノ

二 傳染病者ノ吐瀉物其他ノ排泄物

第二十條 蒸汽消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

一 被服、寢具、密掛、敷物等

二 硝子器、陶器、磁器其他金屬製品、木製品ノ類ニシテ汽熱ニ堪フルモノ

第二十一條 蒸汽消毒ヲ施行スルニ當リ左ノ各項ニ注意スヘシ

一 革製品、護謨製品、糊附品、膠附品、塗物、毛皮、象牙、鼈甲、角ノ類ハ蒸汽消毒ヲ避クヘシ

二 被服中ニ彈丸、火藥、燐寸等爆發又ハ發火シ易キ物品ヲ納レアルトキハ先ツ之ヲ取出シ然後蒸汽消毒ニ附スヘシ

三 蒸汽消毒ハ流走蒸汽ヲ用ヒ消毒時間ハ攝氏百度以上ニ達シテヨリ三十分以上トス
第二十二條 煮沸消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ但煮沸時間ハ沸騰後三十分以上トス

一 飲食器、襦袢、敷布、包布、枕覆、枕皮、蒲團皮、金錢場合ニ依リテハ外科器械類
二 其他蒸汽消毒ニ適スルモノ

第二十三條 藥物消毒ニ供スル藥劑ハ左ノ四類トス

- 一 石炭酸水(二十倍) 結晶石炭酸五分、水九十分
- 二 昇汞水(千倍) 昇汞一分、鹽酸十分、水九百八十九分
- 三 格魯兒石灰水(二十倍) 格魯兒石灰五分、水九十五分
- 四 石灰乳(十倍) 煨製石灰一分、水九分

煨製石灰末 煨製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末トナシタルモノ
石灰 石灰乳、煨製石灰末ニ代用スルトキハ其倍量ヲ用フ

但格魯兒石灰水、石灰乳及煨製石灰末ハ用ニ臨ミテ新ニ之ヲ製スヘシ

第二十四條 前條諸藥ノ用法ハ左ノ如シ

- 一 石炭酸水ハ各種物件ノ消毒ニ適ス但使用ノ際ハ左ノ諸點ニ注意スヘシ
イ 成ルヘク加温シタルモノヲ用フヘシ
- ロ 吐瀉物其他ノ排泄物ニハ同容量ヲ加ヘ善ク攪拌スヘシ
- ハ 器具、室内等ヲ消毒スルニハ、擦拭又ハ撒布スヘシ
- ニ 手足等ヲ消毒スルニハ洗滌シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗淨スヘシ
- ホ 外科器械、衣類等ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘサルモノヲ用ヒ十二時間以上浸漬シ然後清水ヲ以テ更ニ洗フヘシ

昇汞水ハ手指、牀板、戸扉、陶器、硝子器及木製器具ノ消毒ニ適シ金屬製品、吐瀉物其他ノ排泄物ノ消毒ニハ適セス飲食器其他飲食物、飲料水ニ混シ易キ場所及疊敷物ノ消毒ニハ用フヘカラス
格魯兒石灰水、石灰乳 使用毎ニ煨製石灰末及石灰ハ吐瀉物其他ノ排泄物、溝渠、芥溜、床下等ノ消毒ニ適ス吐瀉物其他ノ排泄物ヲ消毒スルニハ少クモ其容量ノ五十分一ヲ投シ石炭酸ハ之善ク攪拌スヘシ溝渠、芥溜ニ對スル量ハ之ニ準シ床下ニ在テハ其全面ニ撒布スヘシ
第二十五條 消毒法ノ應用ハ左ノ如シ

一 病者

傳染病者治愈シタルトキハ先ツ爪ヲ切り法ノ如ク手指ヲ消毒シ加温昇汞水ヲ以テ全身ヲ拭ヒ然後全身浴ヲ行ヒ石炭酸ニテ善ク垢ヲ去リ衣服ヲ更メシムヘシ但場合ニ依リテハ温濕布ヲ以テ拭淨シ入浴ニ代フルモ妨ケナシ

二 屍骸

傳染病者ノ屍骸ハ其被服ニ昇汞水若クハ石炭酸水ヲ充分ニ撒布シ又ハ昇汞水若クハ石炭酸水ニテ浸シタル布ヲ以テ包ムヘシ

三 傳染病者ニ接シ其他病者ニ觸接シタルモノ

右ハ其都度手指ヲ消毒シ必要ナルトキハ衣服ヲモ消毒シ且入浴スヘシ但病室内ニ用ヒタル避病衣ハ室外ニ出ル毎ニ必ス脱スヘシ

四 病者、屍骸等ノ運搬具

傳染病者、其屍骸等ノ用ニ供シタル運搬具ハ使用後毎回昇汞水若クハ石炭酸水ヲ以テ擦拭スヘシ

五 便所、浴槽、芥溜、溝渠等

傳染病者ノ吐瀉物其他排泄物ノ入りタル便所ノ糞尿壺ニハ格魯兒石灰水若クハ石灰乳、煨

製石灰末ヲ投シ善ク攪拌スヘシ但便房ハ石炭酸水若クハ昇汞水ヲ以テ消毒シタル後直ニ使用スルコトヲ得

傳染病者ノ入りタル浴槽ノ水ニハ昇汞水ヲ加ヘテ浴槽ノ水千分ニ付昇汞約一分以上ト爲シ善ク攪和シタル後傾瀉スヘシ

病者混入ノ疑アル芥溜ニハ格魯兒石灰水若クハ石灰乳ヲ灌キ其塵芥ハ燒却スヘシ

病者混入ノ疑アル溝渠ニハ石灰又ハ水灰ヲ投入シテ強亞爾加里性トナスヘシ

吐瀉物等ノ爲メ汚染シタル地點ニハ格魯兒石灰水若クハ石灰乳ヲ灌クヘシ

被服 履具 器具等 傳染病者ノ用ヒタルモ其病室ニ在リタ

右ハ其種類ニ應シ第十九條以下ノ消毒法ヲ適用スヘシ

第二十一條第一ニ掲ケタル物品ノ類ハ石鹼ヲ以テ洗ヒ又ハ石炭酸水ヲ以テ拭淨シ若クハ之ヲ撤布スヘシ

第十八條ニ掲ケタル各種消毒法ヲ施行スルコト能ハサルモノハ日光ニ曝シ乾燥セシムヘシ

病者ノ居室

石炭酸水若クハ昇汞水ヲ以テ室内各部ヲ拭淨スヘシ消毒後ハ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ乾燥セシムヘシ

八 汽車

傳染病者若クハ其屍骸ヲ入レタル車室ノ消毒ハ前項第七ニ準スヘシ

傳染病者ノ吐瀉物其他ノ排泄物ハ前諸條ニ照シ適宜消毒スヘシ

車室ニ屬スル便房ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ

九 船舶

傳染病者若クハ其屍骸ヲ載セタル船舶ノ消毒ハ前二項第七ニ準シ若クハ其蒸汽ヲ利用シテ

消毒ヲ行フヘシ

船底水ニハ其容量二百分一ノ煨製石灰末ヲ加ヘ十二時間以上ヲ經タル後汲出サシムヘシ

第二十六條 傳染病者ノ屍骸ハ成ルヘク火葬スヘシ

第二十七條 前條ノ火葬ハ地方ノ火葬場ニ於テシ其設ケナキ地ニ在テハ部隊長ヨリ地方官若クハ市町村長ニ協議シ便宜取扱フヘシ

○陸軍第七十一號

明治三十年陸軍第三十三號第一行及第二行中「新發田」ノ三字ヲ削除シ「札幌ニ至ル」ノ下ニ「及新發田ヨリ各地」(東京、袋井、村岡、府中、下志津、佐倉)ニ又ハ各地(上)ヨリ新發田ニ至ル」ノ四十六字竝括弧ヲ追加ス

明治三十年五月三十一日

陸軍大臣子爵高島綱之助

〔參照〕

明治三十年五月三日陸軍第三十三號ハ陸軍章程表中改正ノ件ナリ

○海軍省達第六十號

軍艦職員勤務令別冊ノ通定ム

軍艦職員條例ハ本達施行ノ日ヨリ廢ス

明治三十年五月三十一日

海軍大臣侯爵西鄉從道

(別冊)

軍艦職員勤務令目錄

綱領

第一章 艦長

艦内整理

戰闘
外交
人事
教育
紀律
賞罰
當直
航海
機關
醫務
會計
需品
雜件

第二章 副長及以下諸將校

副長
航海長
砲術長
水雷長
大尉分隊長
當直士官
少尉

副直士官

第三章 機關長及機關士

機關長
大機關士分隊長
當直機關士
少機關士
副直機關士

第四章 軍醫長及軍醫
軍醫長
軍醫

第五章 主計長及主計
主計長

第六章 准士官
主計
掌砲長
掌水雷長
掌帆長
上等兵曹
船匠師
軍樂師
上等機關兵曹

上等筆記

第七章 下士卒

軍艦職員勤務令

綱領

一 本令ノ目的ハ軍艦ノ職員ヲシテ各其ノ職責ヲ盡シ其ノ職權ヲ行フニ於テ各其ノ憑據スル所ヲ知ラシムルニ在リ

二 軍艦職員ノ第一目的トスヘキハ其ノ艦ヲシテ任務ヲ全フセシムルニ在リ此ノ目的ヲ遂行センニハ相互ニ和協贊同シ亦誠以テ其ノ職務ニ任シ忠實以テ其ノ艦ニ奉スルニ在リ

三 將校ハ軍隊ノ頭腦ニシテ又其ノ防衛劑ナリ上官ハ職務ノ内外ヲ問ハス下級者ノ指針ナリ軍人ハ法令規則ノ外ニ於テ部下ヲ統御スルノ徳ヲ有セサルヘカラス一艦ノ乗員ヲ以テ單ニ軍政上ノ結合ニ過キサルモノト爲ストキハ軍艦ハ唯形而下ノ死物タルニ終ラン抑モ軍艦本來ノ面目ハ闘ニ臨ミ國敵ヲ挫クノミニ限ラス亦平時ニ在リテ帝國ノ公益ヲ保護シ文明ノ光輝ヲ増進シ海上ノ護法者トナリ一般船舶ノ模範トナリ海軍軍人ノ教場トナラサルヘカラスモナリ軍艦ノ任務ハ外ニ對シ複雑ナルコト此ノ如ク而シテ内ニ在リテハ其ノ乗員ノ爲メニ名譽ノ城壁ニシテ亦平生居住ノ家タリ故ニ乗員ハ日夕相親ミ相敬シ猶老幼夫妻一家ニ在ルカ如クナラサルヘカラス是レ殊ニ之ガ職員ノ上班ニ列スルモノハ最モ考慮スヘキ所ニシテ軍紀風紀ノ實行ニ微妙ナル運用ヲ要スル所以ナリ而シテ此ノ點ニ於テ法ノ形ハ未ナリ其ノ精神ハ本ナリ故ニ上ノ下ニ對スル宜シク恩威併ヒ行ハレテ下ノ上ヲ見ルコト子弟ノ父兄ニ於ケルカ如ク徒弟ノ嚴師ニ對スルカ如クナラサルヘカラス彼ノ少壯血氣ノ蠢動モスレハ常道ノ外ニ於テ已ニ成人ノ智能アルモノヲ屈セシメントスルカ如キ或ハ局量偏小ニシテ小事ノ爲メニ反目シ爲メニ公務ノ圓滑ヲ妨ケ一艦ノ和氣

ヲ壞ルカ如キ或ハ職務ヲ行フニ當リ互ニ其ノ本ヲ忘レテ其ノ末ヲ攻ムルカ如キハ各自最モ慎ムヘキコトナリトス

四 凡ソ下士卒ノ軍艦ニ於ルヤ猶人民ノ國家ニ於ルカ如シ人民個々ノ元氣昂ラサレハ國家ハ其ノ威嚴ヲ保ツコト能ハス軍艦ノ下士卒タルモノ其ノ元氣ノ弛張ハ軍艦ノ威嚴ノ振不振ニ係ルコト極メテ大ナルコトヲ銘記シ造次頓沛此ノ心ヲ失ハサランコトヲ要ス

五 本令規定スル所數百條言微細ノ境ニ入ルモノ多シト雖之ヲ閱讀實行スル者平易ノ心ヲ以テ平易ニ之ヲ解釋シ其ノ本領ノ存スル所ニ留意セサルヘカラス複雑ナル文字ノ如キハ唯異種特色ノ人ヲ適合スル爲メニ設ケタル規約ニ過キサルヲ以テ是カ爲メニ事ノ緩急本末ヲ顛倒セサルヲ要ス

今二三ノ例ヲ擧ケ所謂留意スヘキ本領ナルモノヲ左ニ示ス

- (甲) 同等ノ機械ヲ以テ闘ヒ而シテ他ニ勝ツハ人ノ力ナリ人カノ大本ハ忠君愛國ノ精神ナリ軍事教育ノ主眼ハ技術ト共ニ此ノ大本ヲ養成スルニ在リ
 - (乙) 衝突豫防ノ第一義ハ嚴密ナル見張ヲ爲スニ在リ
 - (丙) 險惡ナル天候ニ打勝ツヘキ方法ハ毎二十二分ノ豫防ヲ爲スニ在リ
 - (丁) 水路ノ安全ニ關シテハ頼ムヘキモノハ圖誌ナリト雖實際ノ過失ハ多ク圖誌ノ妄信ニ由來ス而シテ又自己ノ所信ノ動搖スルトキハ是レ宜シク止ルヘキ時期ナリトス
 - (戊) 各種ノ障礙ニ應スルノ準備ハ自ラ障礙ヲ遠クルノ道ナリ
- 六 艦長ハ一艦ノ主宰者ナリ事ニ臨ミ勇猛ナル決斷ヲ要スル場合ノ如キ殆ント無限ノ權力ヲ有ス
- 七 副長ノ任ハ規定ニ依リ特ニ取除カレタルコトノ外總テノ點ニ於テ艦長ヲ補佐スルニ在リ故ニ副長ハ直接ニ艦内行政ノ衝ニ當リ親ラ百般ノ事務ヲ處理セサルヘカラス
- 八 一艦ノ獨立ハ艦内各支體ノ獨立ヲ基礎トシ艦全體ノ活動ハ艦内各支體ノ活動ニ因ル故ニ各職員ハ皆當サニ其ノ盡スヘキ職分ヲ守リ賦與セラレタル權限ヲ重シ勇往直進苟モ他ヲ侵サス又他

ノ爲メニ侵サレザルヲ要ス
軍紀ハ軍隊ノ生命ナリ各支體ノ獨立ヲ保護シ各支體ノ活動ヲ齊一ナラシメ之ヲシテ能ク大局ノ獨立及活動ノ素因タラシムルモノハ軍紀ナリ軍紀確守ノ責ハ上ハ艦長ヨリ下一卒ニ至ル迄皆齊シク之ヲ有ス確實ナル命令ト服従トハ嚴肅ナル軍紀ノ下ニノミ存スルモノナリ
九軍艦ハ海軍兵制上基本軍隊ノ標準ナリ從テ本令ニ定ムル所ハ普ク部内ノ基本軍隊ニ適用スヘキモノナリトス

第一章 艦長

(艦内整理)

(艦内整理ノ四字ハ原欄外ニ標記セルモノ今括弧ヲ施シテ本文中ニ置ク以下倣之)

第一條 艦長ハ其ノ艦ノ構造上ノ要素戰闘上ノ能力及航海海上ノ性質等ヲ詳知シ船體機關兵裝船具等ニ故障ナク乘員彈藥衣糧需品及其ノ他ノ兵備品ニ缺乏ナク常ニ之ヲ整頓充備シテ緩急事ニ應スルニ支障ナカラシムルヲ要ス若シ艦其ノ役務ニ適セサルコトヲ發見スルトキハ速ニ之ヲ所管長官ニ報告シ修補充實ノ方法ヲ行フヘシ

第二條 艦長ハ制定ノ式ニ基キ戰闘防火防水衝突及運用等ニ係ル諸般ノ部署ヲ定メ之ニ對シ銳意乘員ヲ訓練シテ精練ノ度ニ達セシムヘシ

第三條 艦長ハ其ノ艦ノ内規ヲ制定シ所管長官ノ承認ヲ經テ之ヲ施行スヘシ

第四條 艦長ハ將校及相當官立ニ准士官ノ部署表、下士卒ノ當直表、日課表、乘員ニ必要ナル法規ノ拔萃及船體、導管、防水區劃等ノ圖ヲ便宜ノ所ニ掲示シ乘員ヲシテ日常之ヲ看ルニ便ニセシムヘシ

第五條 艦長ハ戰闘部署ノ區分ニ基キ部下下士卒ヲ數箇ノ分隊ニ編成スヘシ

第六條 艦長ハ艦内通達簿ヲ製シ處要ノ命令、傳達及告知等ヲ記載シ關係者ヲシテ之ヲ詳知セシ

ムヘシ

第七條 艦長ハ常ニ艦橋命令簿ヲ艦橋ニ備ヘ置キ當直士官ニ與フヘキ針路、速力其ノ他航海碇泊ニ限ラス必要ナル命令及注意ヲ記載スヘシ

第八條 艦長ハ船體、汽關、兵裝、船具、彈藥、衣糧及需品等ノ守護保存ニ注意スヘシ

第九條 艦長ハ兵器其ノ他兵備品及艦内移動物ヲ積載貯藏スルニハ必ス所定ノ位置ニ於テシ猥リニ之ヲ變換スヘカラス若シ吃水其ノ他船體ノ鈞合上其ノ位置ノ變更ヲ要スルトキハ意見ヲ具シ之ヲ所管長官ニ上申スヘシ

第十條 艦長ハ各主務者ヲ從ヘ時々艦ノ内外諸部ヲ點檢スヘシ

第十一條 艦長ハ毎年一回汽機迴轉ノ數ニ對スル速力ノ變化、舵ノ角度ニ對スル迴轉圈ノ變化及艦ノ惰力ヲ實驗シ艦隊運動程式附録ニ掲ケタル速力表、舵柄表及惰力表ヲ調製シ之ヲ所管長官ニ報告シ又他諸艦ノ速力表及舵柄表ヲ一冊子ニ合編シ置クヘシ

第十二條 艦長ハ内外國軍艦ノ楹頭角度表ヲ調製シ之ヲ艦内ニ備フヘシ此ノ表ハ帝國海軍將校ニアラサレハ決シテ之ヲ閱見セシムヘカラス

(戰術)

第十三條 艦長ハ其ノ艦ノ兵器使用上種々ノ場合ニ於テ最大ナル效果ヲ奏セシムル如ク其ノ艦ヲ運用スルコトニ就キ十分ナル研究ヲ爲スヘシ

第十四條 艦長ハ好機アル毎ニ海上標的或ハ浮標等ヲ以テ敵艦ニ擬シ之ヲ衝突シ其ノ他適宜ノ方法手段ニ依リ艦船運用上ノ技術ヲ實地ニ研究練習スヘシ而シテ又部下將校ヲシテ之ヲ習熟セシムルコトヲ努ムヘシ

第十五條 艦長ハ其ノ艦ノ戰術準備ヲ行フトキハ諸部ノ裝置ニ成ルヘク副裝置ヲ設ケ一ノ裝置破壞セラルルハ、尚他ノ裝置ニ依リ緊急ノ場合ニ應ジ得ヘキ方法ヲ立ツヘシ

第十六條 艦長ハ戰艦操練等ヲ施行スルニハ之ヲ始ムルニ先テ時々士官以上ヲ會シ施行セントスル所ノ操練ニ關スル考察ヲ豫告シ操練實施中ハ勉メテ實際ニ適切ナル場合ヲ想像シ諸般ノ事ニ就キ各研究訓練習熟ヲ爲サシメ操練終了後再ヒ士官以上ヲ會シ必ス操練ノ成績ヲ講評シ且各自ノ意見ヲ陳述セシメ以テ操練ノ方法ヲ改良スルノ資ニ供スヘシ

第十七條 艦長ハ其ノ艦ノ戰艦準備ヲ行フニ際シ豫メ上甲板ニ於ケル羅盤ノ位置及必要ノ數ヲ定メ所要以外ノモノヲ艦内最モ安全ナル場所ニ移スヘシ

第十八條 艦長戰時ニ於テハ特ニ左ノ諸項ヲ遵守スヘシ

- 一 戰艦ノ前後及其ノ他必要ナル時機ニ於テ乗員ヲ集メ之ヲシテ秘密ニ關スル事件ノ外ハ司令長官ノ戰略訓令及己ノ意志畫策ヲ會得セシムルコト又秘密ノ事件ニシテ乗員ニ告知スヘカラサルモノト雖己ニ代ルヘキ將校ニハ之ヲ了知セシムルコト
- 二 國際法ニ關スル事項ハ豫メ其ノ要點ヲ知悉シ臨機事ヲ處スヘキ胸算ヲ作スヘキコト但シ特別ノ訓令ニ對シ國際法上意見アルトキハ一應之ヲ述フルコトヲ得ルモ強テ自己ノ意見ヲ主張スルコトヲ得ス
- 三 戰艦後ハ成ルヘク速ニ海軍演習令ニ定メタル演習記ニ準シ報告書ヲ作り之ヲ所管長官ニ呈出スヘシ又乗員ノ行爲死傷者及拔群ノ偉功ヲ奏シタル者ノ氏名需品糧食彈藥ノ消費並ニ船體毀損ノ狀況ヲ司令長官司令官若クハ先任艦長ニ報告シ且一層ノ熱心ヲ以テ兵氣ヲ鼓舞スヘキコト
- 四 船體毀損ノ度甚シク到底之ヲ救護スルコト能ハスト認ムルトキハ乗員ノ必要書類小兵器彈藥需品糧食其ノ他救護シ得ベキ物品ヲ他ニ移シ艦ヲ其ノ所ニ破壞沈没セシムルコトヲ得但シ其ノ詳細ヲ司令長官司令官若クハ先任艦長ニ報告スヘシ

五 戰艦後再ヒ交戦ノ準備ヲ爲サンカ爲メ速ニ諸般ノ事物ヲ整頓セシムルコト

六 勉メテ賞罰ヲ明カニスル爲メ交戦中ハ特ニ善ク乗員ノ動作ニ注意スヘキコト

七 司令長官司令官若クハ先任艦長ノ命令又ハ許可アルニアラサレハ決シテ戰列ヲ離ルルコトヲ得ス然レトモ事急ニシテ許可ヲ待ツノ違ナキトキハ速ニ獨斷專行シ機會ノ許ス限リ速ニ再ヒ戰列中ニ歸入スヘキコト

八 司令長官司令官若クハ先任艦長ノ命令又ハ許可アルニアラサレハ我軍ノ艦船ヲ救助シ或ハ敵艦ヲ追撃シ或ハ捕獲艦船ヲ警備シ或ハ他艦船ヲ臨檢搜索引致センカ爲メ擅ニ戰列中ヨリ離ルルコトヲ得ス

九 夜間或ハ濃霧ノ時又ハ艦ノ位置ニ依リ信號ヲ識別シ得サル時ニ限リ艦長ハ時機ニ從ヒ獨斷專行スルコトヲ得

十 士官一名ヲ選定シ交戦中ハ終始己ノ傍ニ在リテ本艦ノ運動自己ノ命令其ノ他本艦交戦ニ關スル實況ヲ筆記セシムルコト

十一 徵發ヲ行フハ實際戰爭上ノ必要ニ出ルモノ、以外ニ渉ルヘカラサルコト

十二 如何ナル場合ト雖我旗章ヲ掲ルコトナク又ハ他國ノ旗章ヲ掲ケテ交戦スヘカラサルコト

十三 捕虜ヲ虐待セシムヘカラサルコト然レトモ叛逆ヲ企テ又ハ逃走セサル如ク看守ヲ嚴ニシ若シ事情止ムヲ得サルトキハ責任ヲ負ヒ適當ノ處分ヲ爲スコトヲ得

十四 中立國ノ權利ヲ傷害セサルコトニ注意スヘキコト

十五 帝國ノ加入セル赤十字條約ヲ遵守スヘキコト

第十九條 艦長ハ帝國領海ニ於テ密獵ヲ爲シ又ハ帝國ノ法規ヲ破ルル所ノ船舶ヲ發見シタルトキハ現行犯ニ限リ直ニ之ヲ逮捕シ適當ノ處分ヲ爲スヘシ

(外交)

艦長ハ前項ノ船舶帝國領海ヲ脱シ外洋ニ逃ル、トキハ之ヲ追フテ逮捕スルコトヲ得
 第二十條 艦長ハ海賊(國際法上)ヲ發見シタルトキハ直ニ逮捕シテ便宜ノ港ニ引致シ電信ヲ以テ之ヲ海軍大臣ニ申報シ其ノ指令ヲ待テ之ヲ處分スヘシ
 第二十一條 艦長本邦内ニ於テ外國軍艦ト出會セシトキハ適宜相當ノ便宜ヲ與フヘシ
 第二十二條 艦長ハ事國際上ノ問題ニ關スルモノハ殊ニ慎重ヲ旨トシ必ス命令規則及條約ノ範圍内ニ於テ處斷シ若シ其ノ範圍外ニ涉ルモノアルトキハ上長指揮官同所ニ在ラサル場合ニ於テハ直接ニ海軍大臣ノ指令ヲ請フヘシ

(人事)

第二十三條 艦長ハ部下准士官以上ノ履歷書ヲ保管整理シ本人轉職退艦スルトキハ直ニ之ヲ其ノ新所屬長ニ移スヘシ
 第二十四條 艦長ハ卒以下ヲ他ニ轉勤セシムルコトヲ得但シ其ノ都度所管長官ニ報告スヘシ
 第二十五條 艦長ハ部下諸員ノ才幹、性行及技能ヲ察知シ常ニ其ノ勤務ノ現況ニ注意シ時々尉官勤務日誌及機關士勤務録等ヲ檢シ尙ホ對策及試問等ノ手段ヲ用ヒ又部下諸員ノ作レル考課表ヲ熟讀シ諸員ノ人ト爲リヲ詳知スヘシ
 第二十六條 艦長ハ下士以上ノ任用進級ヲ具申シ及卒ノ進級ヲ決行スルニハ極メテ綿密ニ各自ノ才幹、性行、技能、停年、功勞等ノ諸點ヲ考慮シ勉メテ其ノ當ヲ得ルコトニ注意スヘシ
 第二十七條 艦長ハ少尉ニ航海長附屬ヲ命シタルトキ及之ヲ變更シタルトキハ海軍大臣ニ報告スヘシ
 第二十八條 艦長ハ乗組主計ヲシテ主計長ノ職務ヲ代理若クハ執行セシムルトキハ其ノ都度之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ
 職務代理若クハ執行ヲ解キタルトキ亦同シ

第二十九條 艦長ハ其ノ艦ニ砲術長ヲ置カレサルトキハ水雷長ヲシテ若シ水雷長ヲモ置カレサルカ若クハ水雷長ヲ置カル、モ分隊長ヲ兼ヌルトキハ專任大尉分隊長中先任者ヲシテ砲術長ノ職務ヲ執行セシメ又水雷長ヲ置カレサルトキハ砲術長及大尉分隊長中兼職ナキ適任者ヲシテ水雷長ノ職務ヲ執行セシムヘシ

第三十條 艦長ハ必要ニ從ヒ部下諸員ニ職務ノ分擔及掛ヲ命シ銳意其ノ職務ヲ履行セシムヘシ
 第三十一條 艦長ハ部下ニ訪問使ヲ命スルニハ本章第四十八條及第四十九條ニ依リ碇泊中當直士官ノ任ニ當ルヘキ者ヨリスヘシ

第三十二條 艦長ハ刑事ノ嫌疑アル變死者アルトキハ速ニ主理若クハ海軍檢察官ヲシテ臨檢セシムヘシ但シ主理若クハ海軍檢察官ノ臨檢ナキ死體ハ成ルヘク水火葬セサルコトニ注意スヘシ

(教育)

第三十三條 艦長ハ部下ノ精神教育上ニ最モ意ヲ用ヒ之カ爲メニ左ニ列記スル事項ノ類ヲ時々施行スヘシ
 一 明治十五年一月四日ノ勅諭ヲ奉讀衍義シ厚ク聖旨ヲ奉體セシムルコト
 二 皇國ノ國體及歴史上ノ講話ヲ爲シ忠君愛國ノ精神ヲ涵養スルコト
 三 軍艦ノ國家ニ對シ負フヘキ任務及其ノ國際上ノ地位ニ關スル講話ヲ爲シ以テ自艦ノ回護心及自敬心ヲ發揮セシムルコト
 四 旗章ノ性質及能力ニ關スル講話ヲ爲シ以テ之ニ對スル敬畏心ヲ發揮セシメ死ニ至ル迄之ヲ仰キ之ヲ守護スルノ決心ヲ爲サシムルコト
 五 善良ナル士氣ヲ全艦ニ確有セシメ軍人ノ龜鑑タルヘキ史談ヲ爲シ各人ノ勇氣ヲ振作スルコト
 六 戰役中本艦ノ爲シタル功績ヲ各人ノ心肝ニ銘刻セシメ本艦ノ名譽ヲ重スルノ念慮ヲ發揮セ

シムルコト

第三十四條 艦長ハ下士卒ニ海軍業務ノ教育ヲ授クヘシ又讀書算術等ヲ解セサル者ニハ併テ之ヲ修得セシムヘシ

第三十五條 艦長ハ練習ノ爲メ其ノ艦ニ五等卒乘艦スルトキハ部下高等武官中ニ教育主任者ヲ定メ又部下准士官以下ニ教員ヲ命シ該教育規則ニ從ヒ其ノ教育ヲ施行スヘシ

第三十六條 艦長ハ航行中朝直ニ當リシ尉官ヲシテ羅針ノ自差若クハ其ノ日ノ正午ノ經緯度ヲ測定セシメ自己ノ查閱ヲ受ケシムヘシ

第三十七條 艦長ハ戰時艦隊ノ通信報告等ハ殆ント皆信號ニ依ラサルヘカラサルコトヲ銘記シ之ヲ習得スル爲メ平時伺通信報告等ハ勉メテ之ニ依ラシメ又常ニ信號法ノ演習ヲ爲サシメ殊ニ夜中信號法ニ熟練セシムヘシ

第三十八條 艦長ハ當直士官ヲシテ航日誌ヲ教令ノ如ク精密ニ記載セシムルコトハ該士官ヲシテ艦務一般ノコトニ注意ヲ促シ且海上一般ノコトニ關シ自然ニ實驗學識ヲ増サシムルモノタルコトヲ銘記シ其ノ勵行ヲ監督スヘシ

第三十九條 艦隊運動ノ施行アルトキハ艦長ハ各將校ヲ上甲板ニ呼集シ適宜ノ場所ヨリ之ヲ目撃セシムヘシ

第四十條 艦長ハ部下ノ軍紀風紀ヲ維持スルコトニ注意シ又所定ノ法規ニ從ヒ敬禮ヲ施行セシムヘシ

第四十一條 艦長ハ乘員ヲシテ海軍諸法規ヲ服膺セシメ又命令訓示ヲ遵守セシムヘシ

第四十二條 艦長ハ其ノ艦港灣船渠等ニ在ルトキハ乘員ヲシテ各其ノ規則ヲ遵守セシムヘシ

第四十三條 艦長ハ部下高等武官中其ノ行爲刑法若クハ懲罰令ノ正條ニ觸レサルモ永ク之ヲ不問セシムヘシ

第四十四條 艦長ハ賞罰ヲ明ニシ勉メテ其ノ當ヲ得ルコトニ注意スヘシ

第四十五條 艦長ハ懲罰簿ヲ保管シ部下軍人軍屬ニ科シタル懲罰ノ宣告全文及必要ニ應シ其ノ理由ヲ記載スヘシ

第四十六條 艦長ハ其ノ艦ニ犯罪者自首スルトキハ一旦之ヲ受理シ而シテ後之ニ對シ定規ノ處置ヲ施シ若クハ之ヲ海軍檢察官ニ移スヘシ

第四十七條 艦長ハ航海長砲術長少佐ナルトキハ碇泊中之ニ當直勤務ヲ爲サシメサルヲ例トス但シ必要ノ場合ニ在リテハ此ノ限ニアラス

第四十八條 艦長ハ當直士官ノ任ニ當ルヘキ者航海中二名以下ナル場合及碇泊中五名以下ナル場合ニ於テハ少尉ニ當直士官ノ勤務ヲ爲サシムルコトヲ得但シ航海中ニ於テハ當直士官ノ任ニ當ルヘキ者ノ全數ヲ三名ヨリ超過セシムヘカラス碇泊中ニ於テハ其ノ全數ヲ六名ヨリ超過セシムヘカラサルモノトス

第四十九條 艦長ハ碇泊中當直士官ノ任ニ當ルヘキ者少尉ヲ合シ三名以下ナルトキハ尉官ノ監視ヲ以テ少尉候補生及上等兵曹ヲシテ當直士官ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當直士官ノ任ニ當ルヘキ者ノ全數ヲ四名ヨリ超過セシムヘカラス又少尉候補生及上等兵曹ニハ夜間ノミ當直ヲ爲サシムルモノニシテ尉官航日誌ニ署名シ且其ノ責ニ任スルモノトス

第五十條 艦長ハ當直機關士ノ任ニ當ルヘキ者航海中二名以下ナル場合及碇泊中二名以下ナル場合ニ於テハ少機關士ニ當直機關士ノ勤務ヲ爲サシムルコトヲ得但シ航海中ニ於テハ當直機關士ノ任ニ當ルヘキ者ノ全數ヲ三名ヨリ超過セシムヘカラス又碇泊中ニ於テハ其ノ全數ヲ二名ヨ

ニ附スルトキハ其ノ艦ノ軍紀風紀ヲ害スト認ムル者アルトキハ速ニ之ヲ所管長官ニ具狀スヘシ

(懲罰)

第四十四條 艦長ハ賞罰ヲ明ニシ勉メテ其ノ當ヲ得ルコトニ注意スヘシ

第四十五條 艦長ハ懲罰簿ヲ保管シ部下軍人軍屬ニ科シタル懲罰ノ宣告全文及必要ニ應シ其ノ理由ヲ記載スヘシ

第四十六條 艦長ハ其ノ艦ニ犯罪者自首スルトキハ一旦之ヲ受理シ而シテ後之ニ對シ定規ノ處置ヲ施シ若クハ之ヲ海軍檢察官ニ移スヘシ

第四十七條 艦長ハ航海長砲術長少佐ナルトキハ碇泊中之ニ當直勤務ヲ爲サシメサルヲ例トス但シ必要ノ場合ニ在リテハ此ノ限ニアラス

第四十八條 艦長ハ當直士官ノ任ニ當ルヘキ者航海中二名以下ナル場合及碇泊中五名以下ナル場合ニ於テハ少尉ニ當直士官ノ勤務ヲ爲サシムルコトヲ得但シ航海中ニ於テハ當直士官ノ任ニ當ルヘキ者ノ全數ヲ三名ヨリ超過セシムヘカラス碇泊中ニ於テハ其ノ全數ヲ六名ヨリ超過セシムヘカラサルモノトス

第四十九條 艦長ハ碇泊中當直士官ノ任ニ當ルヘキ者少尉ヲ合シ三名以下ナルトキハ尉官ノ監視ヲ以テ少尉候補生及上等兵曹ヲシテ當直士官ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當直士官ノ任ニ當ルヘキ者ノ全數ヲ四名ヨリ超過セシムヘカラス又少尉候補生及上等兵曹ニハ夜間ノミ當直ヲ爲サシムルモノニシテ尉官航日誌ニ署名シ且其ノ責ニ任スルモノトス

第五十條 艦長ハ當直機關士ノ任ニ當ルヘキ者航海中二名以下ナル場合及碇泊中二名以下ナル場合ニ於テハ少機關士ニ當直機關士ノ勤務ヲ爲サシムルコトヲ得但シ航海中ニ於テハ當直機關士ノ任ニ當ルヘキ者ノ全數ヲ三名ヨリ超過セシムヘカラス又碇泊中ニ於テハ其ノ全數ヲ二名ヨ

リ超過セシムヘカラスルモノトス

第五十一條 艦長ハ航海中當直機關士ノ任ニ當ルヘキ者少機關士ヲ合シ二名以下ナルトキハ機關士ノ監視ヲ以テ少機關士候補生及上等機關兵曹ヲシテ當直機關士ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當直機關士ノ任ニ當ルヘキ者ノ全數ヲ三名ヨリ超過セシムヘカラス又少機關士候補生及上等機關兵曹ニハ白晝ノミ當直ヲ爲サシムルモノニシテ機關士機關日誌ニ署名シ且其ノ責ニ任スルモノトス

第五十二條 艦長ハ航海中ハ航海長ヲシテ當直勤務ヲ爲サシメサルモノトス又拔錨前及投錨後若干時間其ノ當直勤務ヲ免スルコトヲ得

第五十三條 艦長ハ實地練習ノ爲メ當直士官ノ監視ヲ以テ白晝ノミ少尉及少尉候補生ニ當直士官ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當直士官航海日誌ニ署名シ且其ノ責ニ任スルモノトス

第五十四條 艦長ハ實地練習ノ爲メ當直機關士ノ監視ヲ以テ白晝ノミ少機關士及少機關士候補生ニ當直機關士ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當直機關士機關日誌ニ署名シ且其ノ責ニ任スルモノトス

第五十五條 艦長ハ實地練習ノ爲メ副直士官ノ監視ヲ以テ少尉候補生ニ副直士官ノ職務ヲ執ラシメ又副直機關士ノ監視ヲ以テ少機關士候補生ニ副直機關士ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ副直士官若クハ副直機關士其ノ責ニ任スルモノトス

(航海)

第五十六條 艦長ハ海圖若クハ水路誌ノ差異又ハ圖誌上ニ記載ナキ暗礁島嶼等ヲ發見シ若クハ未測ノ港灣ニ至リシトキハ成ルヘク其ノ實測ヲ施シ略圖ヲ調製シテ之ヲ水路部ニ通報シ要スルトキハ所管長官ニ報告スヘシ

第五十七條 艦長ハ針路ヲ變換シ若クハ速力ヲ増減スルトキハ之ヲ當直士官及航海長ニ通知シ然ル後施行スヘシ但シ危急ノ場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第五十八條 艦長ハ其ノ針路ヲ變セントスルニ臨ミテハ必ス己ノ命令又ハ許可ヲ待タシメ何人タリトモ之ニ放任スヘカラス但シ危急ノ場合ニ迫リ相當ノ手順ヲ經ルノ違ナク副長航海長若クハ當直士官ノ獨斷專行ヲ要スル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第五十九條 艦長ハ當直士官ノ職權内ニ屬スル事件ヲ自行ハントスルトキハ當直士官ニ通知シ然ル後施行スヘシ但シ危急ノ場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第六十條 艦長ハ其ノ艦ノ出入港、狹小ナル水路ノ通過及艦隊陣形變換等ノトキハ必ス自ラ其ノ艦ノ運用ヲ掌ルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ艦長ハ機關室ニ之ヲ豫報スヘシ

第六十一條 艦長ハ軍事上實驗スヘキ急迫ナル必要アルカ若クハ所管長官ノ特許アルニアラサレハ萬已ムヲ得サル場合ノ外自艦ト同大以上ノ船舶ノ航過セル實跡ニ乏シキ水道等ヲ航通スヘカラス

艦長ハ陸地若クハ淺灘ノ近傍ヲ航行シ又ハ其航路稍不安ナリト認ムルトキハ投錨ノ準備及諸般ノ準備ヲ爲シ又水路嚮導者ノ有無ニ拘ラス必ス測鉛ヲ投シ精密ニ深淺ヲ測定シ充分戒心ヲ加フヘシ

第六十二條 艦長ハ其ノ艦編隊航行中ハ司令長官司令官又ハ先任艦長ノ示定セル位置ヲ保守スルコトニ熱心注意スヘシ其ノ投錨スルニ方リ錨地ヲ示サレタルトキ亦同シ

第六十三條 艦長ハ左ニ列記スル事項ノ如キ場合ニハ直ニ信號ニテ司令長官司令官若クハ先任艦長ニ報告シ許可ヲ待タスシテ自艦ノ位置ヲ變スルコトヲ得但シ其ノ事項ニシテ延テ後續艦ニ危険ヲ及ボスモノナルトキハ適宜警戒ヲ與フヘシ

- 一 指定サレタル針路ニ當リ突然岩礁淺灘其ノ他危險物アルヲ發見セシトキ
- 二 機關舵具ニ故障ヲ生シ若クハ火災等ノ災害ヲ生シタルトキ
- 三 本艦又ハ前續諸艦中ニ入水者アリタルトキ
- 四 衝突ヲ避ケル爲メ適當ノ處置ヲ爲ストキ
- 五 非常ノ暴風雨雪霧等ニ際會シ陣形亂レ其ノ位置ニ就クコト危險ナルトキ
- 六 指示セラレタル錨地ニ關シ俄ニ或ル故障ヲ見出シタルトキ
- 第六十四條 艦長ハ其ノ艦編隊航行中ト雖獨立航行中ニ於ケルカ如ク艦ノ所在ヲ測定セシムヘシ
- 第六十五條 艦長ハ水路嚮導區内若クハ航路不明又ハ危險ト認ムル場所ニ於テハ水路嚮導者ヲ備役スルコトヲ得
- 第六十六條 艦長ハ水路嚮導者ヲ備役スルトキニ於テモ嚴重ニ之ヲ監視シ危險ト認ムル場所ニ其ノ艦ヲ運行セシムヘカラス
- 第六十七條 艦長ハ錨前及投錨後直ニ前後及中央ノ吃水ヲ視定シ且之ヲ航泊日誌ニ記註セシムヘシ
- 第六十八條 艦長ハ航海中常ニ權限其ノ他必要ノ場所ニ見張人ヲ出シ以テ航路ノ見張ヲ怠ラサルコトニ注意シ殊ニ夜間ニ在リテハ一層見張ヲ嚴重ニスヘシ
- 第六十九條 艦長ハ海上衝突豫防法ヲ遵守シ且一般船舶ニ於テ之ヲ勵行セサルモノアルヲ發見スルトキハ事實ヲ具シテ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ
- 第七十條 艦長ハ其ノ艦他艦船ト衝突シタルトキハ當直士官其ノ他適當ト認ムル職員ヨリ衝突ニ關スル事實ノ顛末就中左ニ列記スル事項ノ明細書ヲ徹シ己ノ報告ト共ニ之ヲ所管長官ニ進達スヘシ擱岸坐礁等ノ場合モ亦之ニ準ス
- 前項ノ場合ニ於テハ艦長ハ各士官ヲシテ彼我ノ理否曲直ヲ研究スルコトニ勉メシムヘシト雖乘

- 一 衝突ノ時刻及場所
- 二 對手艦船名及其ノ國籍並ニ艦船長及所有者ノ氏名
- 三 風向及風力衝突ノ前後必要ト認ムル時
- 四 天候ノ模様右同
- 五 潮流ノ方向及速力右同
- 六 我艦碇泊シ居リシカ又ハ航海中ナリシカ若シ航海中ナラハ我艦ノ針路及速力及到著目的地衝突前ニ就キタル針路及速力及到著目的地
- 七 始メテ對手艦船ヲ發見シタル時刻
- 八 我艦ニ於テ表示シタル燈火及信號ノ現況
- 九 始メテ對手艦船ヲ發見シタルトキ其ノ距離及方位
- 十 始メテ對手艦船ヲ發見シタルトキ其ノ燈火ノ現況
- 十一 前項ノ外衝突前ニ於テ目撃シタル對手艦船ノ燈火信號及運用ノ現況
- 十二 衝突ヲ避ケル爲メ我艦ニ於テ施シタル處置及其ノ時刻
- 十三 彼我艦船ノ始メテ相觸レタル部分
- 十四 衝突後彼我兩船ノ施シタル處置
- 十五 彼我艦船ニ水路嚮導者ノ有無
- 十六 彼我艦船損害ノ狀況
- 第七十一條 艦長ハ未精測ノ地ニ投錨スルカ若クハ錨地ノ不安ヲ認ムルトキハ其ノ艦ノ周圍凡ソ三鏈以上ノ水深及底質ヲ測定シ且之ヲ航泊日誌ニ記註セシムヘシ
- 第七十二條 艦長ハ火藥取扱ヲ表示スル赤旗若クハ赤燈ヲ檣頭ニ掲クル艦船ノ近傍ヲ通過スルト

キハ成ルヘク其ノ風下方ヲ航行シ又該艦船ニ接シテ碇泊中禮砲ヲ爲ストキハ危害ヲ及ボサ、ル
コトニ注意スヘシ

(機關)

第七十三條 艦長ハ其ノ艦ノ經濟速力ヲ試定シ又毎三箇月ニ一回高速力試驗ヲ施行スヘシ若シ之
ヲ施行スル能ハサルトキハ其ノ理由ヲ具シ所管長官ノ許可ヲ受クルヲ要ス

第七十四條 艦長ハ機關ノ修理保存等ニ關シ機關長ヨリ意見ヲ提出シ必要ト認ムルモ其ノ艦役務
ノ都合等ニ依リ之ヲ實施スル能ハサルトキハ機關長ヲシテ其ノ詳細ヲ機關日誌ニ記註セシムヘ
シ

第七十五條 艦長ハ止ムヲ得サル場合ニアラサレハ濕氣ヲ含有スル石炭ヲ搭載セシムヘカラス又
時々炭庫ノ溫度ヲ測知シ自燃豫防ニ注意スヘシ

第七十六條 艦長ハ特令アルカ又ハ非常ノ場合ニアラサレハ成ルヘク石炭ヲ満載セス常ニ石炭ノ
上面ト甲板下面トノ間ニ充分ノ空隙ヲ存シ置クコトニ注意スヘシ

(醫務)

第七十七條 艦長ハ醫務衛生ノ事ヲ監督シ乗員ノ健康ヲ保持スルコトニ注意スヘシ

第七十八條 艦長ハ其ノ艦外國ニ派遣セラレ、トキハ最近鎮守府軍醫長或ハ所在檢疫官ヨリ健康
證書ヲ領收スヘシ

第七十九條 艦長ハ艦内ニ傳染病患者發生シ蔓延ノ虞アルトキハ速ニ所管長官及所在先任海軍將
校ニ報告シ速ニ善後策ヲ施スヘシ但シ其ノ員數モ併セ報スルモノトス

(會計)

第八十條 艦長ハ會計給與ニ係ル一切ノ事務ヲ監督シ又金櫃保安ノ方法ヲ確定スヘシ

第八十一條 艦長ハ會計法規ニ違反セル事ヲ主計長ニ命スルコトヲ得ス若シ其ノ法規ニ關シ疑義

アルトキハ其ノ筋ニ照會シ回答ヲ得テ之ヲ處理スヘシ

第八十二條 艦長ハ主計長ニ於テ金櫃ノ開閉ヲ要スルトキハ必ス之ニ立會ヒ其ノ開鎖ヲ執行セシ
ムヘシ

第八十三條 艦長ハ毎月一回以上臨時ニ會計諸帳簿證據書類及金櫃現在金額ヲ檢查シ現金ト帳簿
ト符合セサルトキハ直ニ之ヲ所管長官及鎮守府監督部長ニ報告スヘシ

第八十四條 艦長ハ豫算外ノ費途ヲ要スルトキハ其ノ概算書ニ理由ヲ具シ所管長官ニ具申スヘシ
(醫品)

第八十五條 艦長ハ諸需用品ヲ節約スルコトヲ勉メ就中石炭及油等ノ使用ニ注意シ裝帆艦ニ在リ
テハ成ルヘク帆ヲ用ヒ殊ニ錨地變換等ノ場合ニ於テハ帆力若クハ錨力ヲ藉リ已ムヲ得サルニア
ラサレハ汽力ヲ用フヘカラス

艦長ハ毎月一回各主管者ノ各物品出納諸帳簿及現品等ヲ檢查シ其ノ整頓完備ニ注意スヘシ

第八十六條 艦長ハ規程ニ依ルノ外所管長官ノ許可アルニアラサレハ軍需品ヲ陸上ニ貯藏スルコ
トヲ得ス但シ非常ノ場合ニ際シテハ此ノ限ニアラスト雖事後速ニ其ノ詳細ヲ所管長官ニ報告ス
ヘシ

第八十七條 艦長ハ艦船ニ需品、衣糧ノ供給ヲ得ルコトニ關シ實驗上現行方法ノ改良又ハ新設ヲ
必要ト認ムルトキハ其ノ實驗ノ景況ト改良若クハ新設ノ方案ヲ所管長官ニ具申スヘシ

第八十八條 艦長ハ所管長官ノ認可ヲ得ルニアラサレハ軍需品ヲ購買シ又船隻職工ヲ雇ヒ若クハ
地所倉庫等ヲ借ルコトヲ得ス但シ外國ニ在ルトキ若クハ至急ヲ要スルトキハ便宜處分スルコト
ヲ得此ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ詳細ヲ所管長官ニ報告スヘシ
(雜件)

第八十九條 艦長ハ祝日祭日日曜日及其ノ他ノ公暇日ニ於テハ必要猶豫スヘカラサル事業ニアラ

サレハ乗員ヲシテ之ニ從事セシムヘカラス

第九十條 艦長ハ上甲板ニ於テ乗員ノ喫煙所ヲ定メ諸艙庫、室内、下甲板等ハ勿論一切定所外ニ於テ喫煙セシメサルコトニ注意スヘシ但シ將官室、艦長室、參謀長室ハ此ノ限ニアラス又士官室ハ朝食後ヨリ初夜巡檢用意マテハ特別ノ場合ニ於テハ喫煙ヲ許スコトヲ得

第九十一條 艦長ハ艦内ニ於テ裸火ヲ使用セシムヘカラス又彈藥庫ハ勿論其ノ他諸艙庫ニ點燈スルニハ摺附木ヲ嚴禁シ必ス安全ナル提燈ヲ以テセシムルコトニ注意スヘシ

第九十二條 艦長ハ艦内ニ於テ安全摺附木ノ外他ノ種類ノ摺附木ヲ用ヒシムヘカラス

第九十三條 艦長ハ何人ヲ問ハス所管長官ノ命令若クハ許可ナクシテ其ノ艦ニ便乗セシムルコトヲ得ス然レトモ已ムヲ得サル場合ニ於テハ責任ヲ負ヒテ便乗セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ速ニ所管長官ニ報告シ事後允許ヲ請フヘシ

第九十四條 艦長ハ如何ナル場合ト雖便乗人ヲシテ乗員ノ職務ニ容喙干涉セシメサルコトニ注意シ又成ルヘク乗員ノ私室ヲ貸與スヘカラス

第九十五條 艦長ハ公務ノ外何等ノ場合ニ拘ラス乗員ノ半數以上ヲシテ一時ニ艦ヲ離レシムヘカラス

第九十六條 艦長ハ副長ト同時ニ艦ヲ離ルヘカラス但シ已ムヲ得サル場合ニハ此ノ限ニアラスト雖其ノ艦ノ保安ニ任セシムルニ適當ナル少佐若クハ大尉ヲシテ必ス在艦セシムヘシ

第九十七條 艦長ハ總員ヲ要スル操練事業ニ於テハ其ノ號令ヲ掌ルヘシ但シ適宜副長ヲシテ代リテ之ヲ掌ラシムルコトヲ得

第九十八條 艦長ハ戰鬪及諸操練ノ際航海長、砲術長、水雷長ヲシテ自己ニ代リ航路、砲銃若クハ水雷ノ使用ニ關スル指揮號令ヲ掌ラシムルコトヲ得

第九十九條 艦長ハ定所外ニ於テ砲銃射擊及陸上操練等ヲ施行セントスルトキハ土地沿岸ノ景況ヲ察シ人民ノ營業ニ關スルト認メ又ハ危險ノ疑アルトキハ豫メ地方廳若クハ市郡役所等ニ協議スヘシ又前記ノ患ナキトキト雖勉メテ之ヲ通知スルヲ要ス碇泊中及人口稠密ナル地ノ沿岸ニ於テ夜間砲銃發射演習ヲ爲ストキモ亦此ノ手續ヲ施行スヘシ

第一百條 艦長ハ砲銃水雷運用等ノ操法ニ於テハ定制ノ式ニ從フヘシ但シ改正ノ必要ヲ認ムルトキハ意見ヲ所管長官ニ具申スヘシ

第一百一條 艦長ハ艦ノ外部ニ顯ル、動作ニ關シテハ其ノ艦所屬ノ如何ヲ問ハス現在同所ニ在ル司令長官司令官若クハ先任艦長ヲ許可ヲ得テ施行シ又己ノ奉スル特別任務ニ妨ナキ限り其ノ命令ニ遵フヲ通則トス

第一百二條 艦長ハ其ノ艦所屬ノ如何ヲ問ハス同所ニ在ル司令長官司令官若クハ先任艦長ノ命令若クハ許可ヲ得サレハ艦ノ外部ニ顯ル、動作假令ハ檣桁ノ上下、帆ノ展疊、水雷艇及大艇ノ出入、錨ノ増減、錨鎖ノ伸縮、汽罐ノ點火、埋火及消火、錨地變換等ヲ行フコトヲ得スト雖艦ノ保安上ニ關シ至急ヲ要スル場合ニハ獨斷專行スルコトヲ得

第一百三條 艦長ハ將旗若クハ代將旗ノ現存セサル所ニ於テ二艦以上ノ先任艦長タルトキハ第一百條及第一百二條ノ標準ニ基キ後任艦長ヲ指揮命令スヘシ

第一百四條 艦長ハ彈藥庫、水雷藥庫及之ニ準スル各庫竝ニ此等各庫ノ漲水竽ノ鍵ヲ保管シ其ノ他艦内ノ公鑰ハ副長若クハ各主管者ヲシテ之ヲ保管セシムヘシ

第一百五條 艦長ハ己ノ許可ナクシテ彈藥庫、水雷藥庫及之ニ準スル各庫竝ニ其ノ漲水竽ヲ開カシムヘカラス而シテ彈藥庫、水雷藥庫及之ニ準スル各庫ヲ開クトキハ之ヲ當直士官ニ通告シ適當ノ警戒ヲ爲サシムヘシ

第一百六條 艦長ハ水雷長ヨリ魚形水雷縱舵ノ改正ヲ申出ルトキハ其ノ事實ヲ審查シ事重大ニシテ其ノ艦ニテ施行シ能ハサルモノト認ムルトキハ所管長官ニ具申スヘシ若シ事平易ニシテ其ノ艦

ニテ施行シ得ヘシト認ムルトキハ之ヲ改正セシムヘシ但シ其ノ艦ニテ改正シタル場合ニ於テハ其ノ都度之ヲ關係ノ水雷庫ニ通知スヘシ

第一百七條 艦長ハ非常ノ場合ニアラサレハ天候異常ノ時若クハ夜陰ヲ冒シ彈藥水雷等ヲ搭載シ若クハ揚陸セシムヘカラス而シテ火藥綿火藥ヲ取扱フトキハ其ノ間白晝ナレハ赤旗夜間ナレハ赤燈ヲ前橋頭ニ掲揚セシムヘシ運搬船舟ニ於テ亦同シ

第一百八條 艦長ハ其ノ艦ヲ入渠セシムルトキハ船渠ノ規則ニ依リ禁セラレタル爆發性物件ヲ艦外ニ移シ又重物ヲ卸シテ成ルヘク艦ヲ輕ムルコトヲ計リ入渠中ハ成ルヘク激震ヲ船體ニ與ヘサルコトニ注意シ又特別ノ防火法及避雷針使用法ヲ設クヘシ

第一百九條 艦長ハ毎三箇月ニ一回鋪鋪鎖揚鋪機圓材靜索帆網端舟端舟揚卸裝置垂架器乘架器其ノ他船具及物品ヲ検査シ又必要ト認ムルトキハ時々之ヲ検査シ常ニ有效ニ保存スルコトニ注意スヘシ

前項検査ノ結果ハ之ヲ航泊日誌ニ記註セシムヘシ

第一百十條 艦長ハ己ノ許可ナクシテ危險可燃物ヲ艦内ニ搭載セシムヘカラス總テ危險物ハ己ノ示定セル場所ノ外限リニ之ヲ置カシメサルコトニ注意スヘシ但シ通常此等危險物ヲ取扱フニハ白晝上甲板若クハ砲甲板ニ於テシ船庫下甲板等ニ於テセサルヲ例トスヘシ

第一百十一條 艦長ハ危險可燃物貯藏所内ニハ燈火ヲ用ヒサルヲ通則トス然レトモ止ムヲ得サルトキハ安全燈ヲ用ヒシムヘシ

第一百十二條 艦長ハ定期ニ航泊日誌、機關日誌又ハ每週信號日誌ヲ查閱シ之ニ捺印スヘシ其ノ際若シ誤謬脫漏等アルコトヲ認メタルトキハ其ノ時ノ當直士官又ハ當直機關士ヲシテ之ヲ修正若クハ填記セシムヘシ

第一百十三條 艦長ハ每週砲術日誌、水雷術日誌、醫事日誌及經線儀比較表ヲ查閱シ之ニ捺印スヘシ

若シ誤謬脫漏等アルコトヲ認メタルトキハ各主任者ヲシテ之ヲ修正若クハ填記セシムヘシ

第一百十四條 艦長ハ定期ノ諸報告ノ進達ハ毫モ之ヲ遲延スヘカラス若シ實際已ムヲ得サル事故アリテ進達期日ヲ失ストキハ一々其ノ理由ヲ該報告書ニ附記スヘシ

第一百十五條 艦長ハ己ノ命令又ハ許可ナクシテ信號ヲ爲サシムヘカラス但シ他艦船ニ切迫ノ危難ヲ警報スルトキ及事輕易ニシテ當直士官ノ權内ニ屬スルトキハ此ノ限ニアラス

第一百十六條 艦長ハ課程操練ノ外臨時實地諸操練ヲ施行スヘシ但シ同港或ハ近港ニ司令長官司官若クハ先任艦長アルトキハ先ツ其ノ許可ヲ受クヘシ

第一百十七條 艦長ハ部下乗員ノ服制ハ成規ニ適合シ且正當ニ裝著スルコトニ注意シ若シ之ニ違フモノアルトキハ之ヲ矯正スヘシ

第一百十八條 艦長ハ其ノ艦禮砲ヲ施行スルトキハ艦ノ外容ヲ正シ且艦ノ外部ニ顯ハルハ人員ヲシテ聊モ不體裁ノ點ナカラシメ敬意ヲ表スル實ヲ失ハサルコトニ注意スヘシ

第一百十九條 艦長ハ其ノ艦遠隔ノ地ニ派遣中他艦ト出會セシトキハ之ニ就キ又歸著セシトキハ海軍官廳、旗艦若クハ先任艦長ノ艦ニ就キ海軍ノ諸法令規則水路誌及海圖等ヲ照合シ其ノ改正増補ヲ爲スヘシ

第一百二十條 艦長ハ艦隊運動及信號法ニ關シテ得タル新知識及新實驗ニシテ斯術ノ進歩上有益ナリト認ムルモノアルトキハ順序ヲ經テ之ヲ軍令部長ニ報告スヘシ

第一百二十一條 艦長ハ砲術若クハ水雷術上ニ於テ得タル新知識及新實驗ニシテ斯術ノ進歩上有益ナリト認ムルモノアルトキハ順序ヲ經テ之ヲ海軍大臣ニ報告シ又砲術練習所長若クハ水雷術練習所長ニ通牒スヘシ

第一百二十二條 艦長ハ機關、砲煩若クハ水雷ノ公試ヲ施行スルトキハ其ノ都度之ヲ機關學校長、砲術練習所長若クハ水雷術練習所長ニ通知シ公試ノ始末ハ所管長官ニ報告スルト共ニ機關學校

長、砲術練習所長若クハ水雷術練習所長ニ通牒スヘシ

第二百二十三條 艦長ハ秘密圖書ヲ嚴重ニ保管シ帝國海軍高等武官ニアラサレハ決シテ之ヲ閱視セシムヘカラス

第二百二十四條 艦長ハ軍機上必要ト認ムルトキハ乗員ニ己ノ閱覽ヲ經スシテ一切ノ私信ヲ發送スルコトヲ禁シ又陸上及他艦船ト往來交通スルコトヲ禁スルヲ得

第二百二十五條 艦長ハ本邦ニ於ケル島嶼等隔絶シタル地方ニ回航ノ際急劇ノ事變アリ鎮定ノ爲ノ兵力ヲ用フルヲ必要ト認ムル場合ニ於テハ地方官ト合議シ便宜事ニ從フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ成ルヘク速ニ海軍大臣、軍令部長及所管長官ニ報告スヘシ

第二百二十六條 艦長遭難ノ艦船ヲ發見シタルトキハ之ヲ救助スヘシ又陸地ニ火災アルトキハ便宜ニ從ヒ消防ノ處置ヲ施スヘシ

第二百二十七條 艦長ハ其ノ艦遭難ニ瀕シ全ク之ヲ維持救護スルノ術盡キタルトキハ必ス先ツ乗員ノ生命ヲ救助シ續テ緊要ノ書類器具物品ヲ保護シ殊ニ秘密ニ係ル書類ハ自ラ之ヲ保護シ己ムヲ得サルトキハ臨機ノ處置ヲ施シ以テ他見ヲ防止スヘシ

第二百二十八條 艦長ハ其ノ艦擱岸坐礁衝突火災等ノ變ニ遭ヒ若クハ汽機、汽罐、兵裝、船具等ニ重大ナル毀損ヲ生シ或ハ之ヲ亡失シタルトキハ其ノ理由及之ニ對シ施シタル臨機ノ處置等ヲ具シ速ニ之ヲ所管長官ニ報告スヘシ

第二百二十九條 艦長ハ艦内最大ノ端艇ハ艦内最重ノ錨ノ運搬ニ堪フルヤ否ヤ又艦内ノ備砲艇ハ能ク其ノ砲ノ實用ニ堪フルヤ否ヤヲ確認シ置クヘシ但シ此等ノ必要ヲ見ル場合ニ通常遭遇スヘキ海面ノ狀況ヲ顧慮スルヲ要ス

第二百三十條 艦長ハ艦ニ裝載スル所ノ舟艇ハ乘組總員ヲ載スルニ堪フルヤ否ヤヲ確認シ若シ其ノ堪ヘサルコトヲ認ムルトキハ之ヲ所管長官ニ報告シ且ツ艦内ノ浮泛物ヲ以テ之ヲ補足スヘキ

計畫ヲ設クヘシ

第二百三十一條 艦長ハ艦ノ保安上又ハ急遽發航ノ場合ニ於テ己ムヲ得サルトキハ錨鎖ヲ解脫スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ詳細ヲ所管長官ニ報告スヘシ但シ錨鎖ノ解脫離斷ヲ行フトキハ捨錨ノ所在ヲ明瞭ナラシムルコトニ注意スヘシ

第二百三十二條 艦長ハ艦ノ保安上又ハ臨時必要ノ場合ニ迫リ所在前任官ノ指揮ヲ受クル違ナキトキハ泊地ヲ變シ若クハ所定外ノ場所ニ航行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ理由ヲ所管長官ニ報告スヘシ

第二百三十三條 艦長ハ部下諸員ヨリ出ス所ノ上申、報告、意見及其ノ他ノ文書ハ必ス順序ニ依リ且總テ一旦副長ヲ經由セシムヘシ但シ檢察具申書等ノ如ク別ニ定規アルモノハ此ノ限ニアラス

第二百三十四條 艦長ハ其ノ艦修理ヲ要スルトキハ出來得ル限り其ノ乗員ヲシテ之ニ從事セシメ成ルヘク他ノ力ヲ藉ラサルコトニ注意スヘシ

第二百三十五條 艦長ハ其ノ艦修理改造等ノ爲メ軍港若クハ要港ニ入ルトキハ速ニ其ノ司令長官若クハ司令官ニ報告シ検査ヲ受クヘシ又船渠ノ出入ハ其ノ都度之ヲ所管長官ニ報告スヘシ

第二百三十六條 艦長軍港若クハ要港ニ到ルトキハ速ニ其ノ司令長官若クハ司令官ニ己ノ奉スル命令及來意ハ此ノ限ニアルモノヲ陳述シ且艦内ノ狀況ヲ申述スヘシ

第二百三十七條 艦長ハ旅費ノ豫算定額以內ニ於テ部下諸員ニ旅行ヲ命スルコトヲ得

第二百三十八條 艦長其ノ職ヲ退クトキハ達、訓令等ニシテ未タ施行セサルモノ及從來己ノ執レル方針等ヲ明瞭ニ後任者ニ引繼キ又直接保管ノ諸物件其ノ他ノ受授ヲ爲シ會計諸帳簿及金櫃現在金額ノ受授ハ自ラ之ニ立會ヒ主計長ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第二百三十九條 艦長ハ其ノ艦豫備トナリ該艦ニ將校ヲ置カレサルトキハ特ニ規定スルモノノ外總テ艦務ヲ豫備艦部長ニ引繼キ其ノ就役ノ場合ニ於テハ豫備艦部長ヨリ引繼ヲ受クヘシ

第四百十條 測量艦ノ艦長ハ其ノ艦ノ乗員ヲ指揮シ指定地ノ測量ニ従事スヘシ
第四百十一條 測量艦ノ艦長ハ其ノ調製セル圖書ハ之ヲ水路部長ニ送附シ指定地ノ測量ヲ終リメ
ルトキハ其ノ旨所管長官ニ報告スヘシ

第四百十二條 測量艦ノ艦長ハ適用シ得ル限り本章第一條乃至第三十九條ノ規定ニ依ルヘシ
第四百十三條 水雷母艦ノ艦長ハ附屬水雷敷設隊水雷艇隊ノコトニ關シテハ水雷團職員勤務令ニ
掲クル團長ノ職務ノ條項ヲ適用スヘシ

第四百十四條 水雷母艦ノ艦長ハ適用シ得ル限り本章第一條乃至第三十九條ノ規程ニ依ルヘシ
第四百十五條 豫備艦ノ艦長ハ其ノ艦ノ就役準備ノ整頓ヲ監督シ改造修理ノ迅速適當ニ執行セラ
ルヤヲ監視スヘシ

第四百十六條 豫備艦ノ艦長ハ適用シ得ル限り本章第一條乃至第三十九條ノ規程ニ依ルヘシ
第二章 副長及以下諸將校

(副長)

第一條 副長ハ常ニ人員、船體、機裝、兵裝、機關及諸物品其ノ他艦内一切ノ現状ヲ熟知シ之カ充實保
存ヲ監視シ缺乏不完全ノ點ナカラシムルコトニ注意スヘシ

第二條 副長ハ艦内諸部ヲ整頓シ之ヲ清潔ニ保テ尙水軍艦タルニ適當ナル外見ヲ具備セシメ又艦
内ノ動作ニ注意シ有形無形百般ノ事物凡テ一般船舶ノ模範タルノ實ヲ舉ケ又一艦ノ經濟ニ注意
シ需品等ノ節約ヲ努メ常ニ物品ノ出納及整理ヲ監視スヘシ

第三條 副長ハ戰闘、防火、防水、陸戰、運用其ノ他一切ノ部署ヲ熟知シ常ニ其ノ適否ヲ考查シ制定若
クハ改正ヲ要スルトキハ意見ヲ具シテ艦長ニ呈出スヘシ

第四條 副長ハ其ノ艦ノ内規ヲ熟知シ常ニ其ノ適否ヲ考查シ改正ヲ要スルトキハ意見ヲ具シテ艦
長ニ呈出スヘシ

第五條 副長ハ戰闘中常ニ艦長ノ耳目ノ及ハサル方面ノ全般ニ注意シ時々下層諸甲板ヲ巡視シ其
ノ結果ヲ艦長ニ報告シ艦長ヲシテ常ニ後顧ノ患ナカラシムルコトヲ努メ又之ト同時ニ斷ヘス艦
長ノ舉措ニ注意シ其ノ意思ト將サニ爲サントスル企望トヲ洞察スルコトヲ努メ何時ト雖直ニ艦
長ニ代リ其ノ艦ヲ督シ艦長ノ企望ヲ遂行スル準備アルヲ要ス

第六條 副長ハ戰闘後乗員ニ關スル事項、消耗兵器ノ消費並ニ兵器、船體及其ノ附屬物毀損ノ報告
ヲ經メ之ヲ艦長ニ呈出シ且ツ敏速ニ艦内ヲ整頓シ人員物品ヲ充實填足シ第二ノ戰闘ニ應スル準
備ヲ爲スヘシ

第七條 副長ハ艦内諸員ノ才幹、性行、伎能ヲ察知シ機關長及分隊長ノ調製セル考課表ヲ査閱スヘ
シ

第八條 副長ハ艦長ノ命ヲ承ケ下士卒ノ教育ヲ統理シ其ノ機關長軍醫長若クハ主計長ノ管スヘキ
特科ハ該諸官ト交渉シ悉ク其ノ方法ヲ定メ艦長ノ許可ヲ得テ之ヲ施行シ各將校及同相當官ヲシ
テ各其ノ主務ニ應シ各科ヲ分任セシムヘシ

第九條 副長ハ定則命令ノ執行ニ任シ諸事滯滞ナキコトヲ期スヘシ
第十條 副長ハ課業ニ係ル事ヲ擔任スヘシ

第十一條 副長ハ艦内諸員服務ノ現況ニ注意シ時々其ノ勉否ヲ艦長ニ具申スヘシ
第十二條 副長ハ艦長ノ命アルトキハ總員ヲ要スル操練事業ノ號令ヲ掌ルヘシ
第十三條 副長ハ艦長其ノ部下兵員物品其ノ他艦内諸部ニ關シ點檢ヲ行フトキハ常ニ之ニ隨從ス
ヘシ

第十四條 副長ハ艦長事故アリテ其ノ代理ヲ爲ストキハ代理中其ノ許可ヲ得スシテ艦長ノ定メタ
ル例規ヲ變更スヘカラス
第十五條 副長ハ兵員ノ乘艦スル者アルトキハ直ニ其ノ部署及職務ヲ指示シ之ヲ部署表ニ記入ス

- 第十六條 副長ハ兵員乗艦ノ際之ニ交附スヘキ部署票ヲ常ニ準備スヘシ
- 第十七條 副長ハ兵員ノ乗艦スル者アルトキハ成ルヘク速ニ衣囊手箱釣床小銃拳銃等ヲ交附セシムルコトヲ努ムヘシ
- 第十八條 副長ハ兵員ノ乗艦スル者アルトキハ之ヲシテ成ルヘク速ニ諸般ノ部署ヲ知ラシムルコトヲ努ムヘシ
- 第十九條 副長ハ毎日數回時刻ヲ定メ又臨時ニ屢々艦内ヲ巡檢シ諸部ノ整頓、清潔、器具ノ準備及直員ノ勸怠、下士卒食卓ノ紀律、諸規則及内規ノ勵行等ヲ視察スヘシ
- 第二十條 副長ハ其ノ艦ノ乗員ヨリ出セル諸文書及意見書等ハ速ニ之ヲ處理シ要スルトキハ意見ヲ附シ之ヲ艦長ニ呈出スヘシ
- 第二十一條 副長ハ艦長ト同時ニ其ノ艦ヲ離ルヘカラス但シ艦長ノ特許アルトキハ此ノ限ニアラス
- 第二十二條 副長ハ艦内警察ノ事ヲ擔任シ又服裝及敬禮ヲ正當確實ニ執行セシムルコトヲ監掌スヘシ
- 第二十三條 副長ハ分隊長ヲシテ時々下士卒ノ釣床被服及手箱等ヲ己ノ點檢ニ供セシメ其ノ清潔及保存ノ適否竝ニ記號ヲ明瞭正當ナルヤヲ檢スヘシ
- 第二十四條 副長ハ當直士官ノ職權内ニ屬スル事件ヲ自ラ行ハントスルトキハ當直士官ニ通知シ然ル後施行スヘシ但シ危急ノ場合ニ於テハ此ノ限ニアラス
- 第二十五條 副長ハ砲銃、水雷、運用等ノ操法ニ就キ其ノ便否ヲ考査シ改正ヲ要スルトキハ意見ヲ具シテ艦長ニ呈出スヘシ
- 第二十六條 副長ハ碇泊中竝ニ航海中ニ於テ必要ノ諸端舟ハ直ニ卸揚シ或ハ差遣シ得ルカ如ク常

- ニ準備整頓スルコトニ注意スヘシ
- 第二十七條 副長ハ航海準備ノ爲メ閉鎖セル砲門及舷窓ハ艦長若クハ己ノ命令又ハ許可ナクシテ開啓セシムヘカラス
- 第二十八條 副長ハ其ノ艦ノ出港前乗員ハ悉ク在艦スルヤ又乗員外ノ者乗艦シ居ラサルヤヲ調査シ之ヲ艦長ニ報告スヘシ
- 第二十九條 副長ハ其ノ艦他船ト衝突セントシ或ハ淺灘岩礁ニ接スル等其ノ他急遽ノ場合ニ際會シ艦長艦橋ニ在ラサルトキハ臨機ノ處置ヲ施シ速ニ之ヲ艦長ニ報告スヘシ
- 第三十條 副長ハ其ノ艦遭難ニ際シ速ニ救護ノ策ナキニ至リ艦長若シ其ノ乗員及物品等ヲ他ニ移スコトヲ命スルトキハ事ノ輕重ヲ熟考シ順序ヲ定メテ敏活靜肅ニ之ヲ執行シ後命ヲ待ツヘシ
- 第三十一條 副長其ノ職ヲ退クトキハ諸作業ノ現況向來ノ設計竝ニ從來己ノ執レル方針等ヲ明瞭ニ新任者ニ引繼キ共ニ之ヲ艦長ニ報告スヘシ
- 第三十二條 副長ハ甲板掛ヲ命セラレタル少尉ヲシテ船體及其ノ附屬物、各甲板、複底(機關長管ヲ除)其ノ他諸器具ノ保存整頓清潔等ニ關シ自己ヲ輔佐セシムヘシ
- 第三十三條 副長ハ艦長ノ爲スヘキ艦ノ内外百般ノ事務ハ力ノ及フ限り常ニ之ヲ考査シ一朝必要ニ際會スルトキハ速ニ艦長ニ代リテ之ヲ處理スルノ準備アルヲ要ス
- 第三十四條 測量艦ノ副長ハ艦長ノ指示ヲ承ケ部下諸員ヲ指揮シ指定地ノ測量ニ從事スヘシ
- 第三十五條 測量艦ノ副長ハ適用シ得ル限り本章第一條乃至第三十三條ノ規程ニ依ルヘシ
- 第三十六條 水雷母艦ノ副長ハ附屬水雷敷隊水雷艇隊ノコトニ關シテハ人員ノ配置、軍需品ノ配給、會計給與及醫務衛生等ノ施行ヲ監督シ毫モ遲滞ナカラシムルコトヲ努ムヘシ
- 第三十七條 水雷母艦ノ副長ハ適用シ得ル限り本章第一條乃至第三十三條ノ規程ニ依ルヘシ
- 第三十八條 豫備艦ノ副長ハ其ノ艦ノ就役準備ヲ整頓シ改造修理ヲ迅速適當ニ施行スルコトニ注

意スヘシ

第三十九條 豫備艦ノ副長ハ適用シ得ル限リ本章第一條乃至第三十三條ノ規程ニ依ルヘシ

(航海長)

第四十條 航海長ハ時々經線儀及諸測器ノ差ヲ測定シ羅針ノ自差ヲ正シ又海圖水路誌ノ改正増補ハ遺漏ナク之ヲ記入シ信號器具、潛水器具及主管ノ測器竝ニ圖書ヲ整備シ常ニ實用ニ支障ナカラシムヘシ

第四十一條 航海長ハ先任大尉分隊長ノ立會ヲ得テ時々錨、錨鎖及其ノ屬具竝ニ帆及綱等ヲ調査シ之ヲ艦長ニ報告スヘシ

第四十二條 航海長ハ舵機ヲ整備シ常ニ實用ニ支障ナカラシムヘシ但シ汽力水力其ノ他機械裝置ノ部ノ整理ハ機關長ニ屬スト雖航海長ハ能ク其ノ現狀ニ注意シ機關長ト交渉シテ常ニ之ヲシテ實用ニ支障ナカラシムルコトヲ努ムヘシ

第四十三條 航海長ハ汽罐用外ノ清水ノ配給貯藏ヲ管シ水罐ノ現狀ヲ熟知シ之ヲ整備セシムヘシ

第四十四條 航海長ハ主管ノ兵備品ヲ整備シ常ニ實用ニ支障ナカラシムヘシ

第四十五條 航海長ハ常ニ遲滞ナク己ノ主管ニ屬スル諸帳簿ヲ整理スヘシ

第四十六條 航海長ハ艦長ノ指示ヲ承ケ速力表、惰力表、舵柄表及檣頭角度表ヲ調製シ常ニ實用ニ支障ナカラシムヘシ

第四十七條 航海長ハ航泊日誌及信號日誌ヲ保管スヘシ

第四十八條 航海長ハ艦長ノ指示ヲ承ケ航路ヲ選定シ意見ヲ具シ艦長ニ呈出スヘシ若シ艦長之ヲ用ヒスシテ他ノ航路ヲ取り航海長之ニ同意ヲ表セサルトキハ艦長ニ申告シ其ノ意見ノ概略ヲ航泊日誌ニ記註スヘシ

第四十九條 航海長ハ航海中常ニ其ノ艦ノ位置ヲ熟知シ又港灣ヲ出入シ狭小ナル水路其ノ他特ニ

注意ヲ要スヘキ場所ヲ航行スルトキ若クハ屢々針路ノ變換ヲ要スヘキ水上ニ在ルトキハ艦橋ヲ離去スヘカラス又水路嚮導者ヲ備役スルトキハ之ヲ監視シ若シ其ノ取ル所ノ針路ノ危險ナルヲ認メ又ハ其ノ技能ノ拙劣ナルヲ認ムルトキハ直ニ之ヲ艦長ニ具狀スヘシ

第五十條 航海長ハ海圖若クハ水路誌ノ差異又ハ圖誌上ニ記載ナキ岩礁淺灘島嶼及水路ニ關スル事項ヲ發見シ若クハ未測ノ港灣ニ到ルトキハ艦長ノ指揮ヲ受ケ成ルヘク其ノ實測ヲ行ヒ必要ニ應ジ略圖及報告書等ヲ調製シ之ヲ艦長ニ呈出スヘシ

第五十一條 航海長ハ其ノ艦投錨シタルトキハ其ノ錨ノ位置ヲ精細ニ測定シ錨地ノ深淺ノ現狀及底質等ト共ニ之ヲ航泊日誌ニ記註スヘシ

第五十二條 航海長ハ艦長ノ指示ヲ承ケ第一章第六十七條及第七十一條ノ事ヲ管掌スヘシ

第五十三條 航海長ハ航海中針路ノ變換若クハ速力ノ増減ヲ要スルトキハ之ヲ艦長ニ報告スヘシ但シ危險ナル場合ニ切迫シ報告ノ違ナキトキハ之ヲ避クル爲メ必要ナル針路ノ變換若クハ速力ノ増減等ヲ當直士官ニ指示シ或ハ自ラ所要ノ手段ヲ實行スルコトヲ得

第五十四條 航海長艦長ノ命ニ依リ針路ノ變換若クハ速力ノ増減ヲ行フトキハ之ヲ當直士官ニ通知シ然ル後施行スヘシ但シ危急ノ場合ニ在リテハ此ノ限ニアラス

第五十五條 航海長ハ自己ノ主管ニ屬スル艙内貯積ノ現況ヲ熟知シ常ニ之ヲ清潔乾燥ニ保チ且整備セシムヘシ

第五十六條 航海長ハ其ノ艦ノ航海上ノ性質ヲ詳知シ其ノ釣合上他ノ主管ニ屬スル艙内貯積ノ方法ニ關シ意見アルトキハ之ヲ其ノ主管者ニ告知シ其ノ積換ヘテ請求スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テ兩者ノ意見衝突スルトキハ之ヲ艦長ニ具申スヘシ

第五十七條 航海長ハ船體釣合上物品ノ移動積換ヘテ決行セントスルトキハ先ツ艦長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十八條 航海長ハ艦長艦内ノ倉庫ヲ點檢スルトキハ之ニ隨從スヘシ

第五十九條 航海長ハ艦長ノ命アルトキハ戰闘中速力及轉舵ニ關スル號令ヲ掌ルヘシ

第六十條 航海長ハ戰闘後速ニ其ノ主管ニ係ル圖書測器及物品ノ缺損ヲ調査シ之ヲ副長ニ報告シ且全力ヲ盡シテ之ヲ修補シ以テ第二ノ戰闘ニ應スル準備ヲ爲スヘシ

第六十一條 航海長ハ氣象航海及水路ニ關スル諸報告ヲ調製シ之ヲ艦長ニ呈出スヘシ

前項ノ報告ニシテ直ニ世上ニ公示セラルヘキ性質ノモノハ特ニ迅速ヲ旨トシ且艦長ノ名ト自己ノ名トヲ記載シ責任ヲ明ニスヘシ

第六十二條 航海長ハ下士卒ノ教育ヲ分任シ又信號法及轉舵法ニ關シ關係部員ノ熟達練習ヲ圖リ信號部員及按針部員等ノ職務ヲ監督シ其ノ行狀技能ヲ詳知シ又下士卒ノ勳陟進退ニ關シテハ其ノ議ニ參與スルモノトス

第六十三條 航海長ハ現行信號書、信號法及信號部員按針部員ノ教育法ニ關シ意見アルトキハ案ヲ具シ之ヲ艦長ニ呈出スヘシ

第六十四條 航海長ハ時々潛水器ノ實用ヲ試ミ乘員中該器ノ使用ニ適スルモノヲ督勵シ其ノ技ヲ練習セシムヘシ

第六十五條 旗艦ノ航海長艦隊條例第二十一條ニ依リ命ヲ承クルトキハ艦隊職員勤務令中航海長ノ職務ニ關スル事項ノ全部若クハ一部ヲ執行スヘシ

第六十六條 航海長其ノ職ヲ退クトキハ在職中經驗シタル其ノ艦ノ特性及主管ニ屬スル兵備品ノ狀況其ノ他必要ノ事件ヲ新任者ニ引繼キ共ニ之ヲ艦長ニ報告スヘシ

第六十七條 測量艦ノ航海長ハ艦長ノ指示ヲ承ケ指定地ノ測量ニ從事スヘシ

第六十八條 測量艦ノ航海長ハ適用シ得ル限り本章第四十條乃至第六十六條ノ規程ニ依ルヘシ

第六十九條 水雷母艦ノ航海長ハ附屬水雷敷設隊水雷艇隊ニ主管兵備品ヲ敏活正確ニ配給スルコトヲ掌ルヘシ

第七十條 水雷母艦ノ航海長ハ適用シ得ル限り本章第四十條乃至第六十六條ノ規程ニ依ルヘシ

第七十一條 豫備艦ノ航海長ハ主管ノ物品ヲ整頓シ常ニ就役準備ノ迅速正確ニ行ハルコトニ注意スヘシ

第七十二條 豫備艦ノ航海長ハ適用シ得ル限り本章第四十條乃至第六十六條ノ規程ニ依ルヘシ

(砲術長)

第七十三條 砲術長ハ左ニ列記スル兵器物品ヲ整頓シ常ニ之ヲ清潔有效ニ保チ實用ニ支障ナカラシムヘシ但シ汽力水力若クハ電氣力ヲ用フル砲ノ俯仰、砲架砲塔ノ旋回裝置ノ整理ハ機關長ニ屬ス

砲煩及砲架

携帶武器

大小彈藥

大砲方位盤

距離測定器

砲具及屬具

砲煩用試驗器具

前項ニ關シテハ砲術長ハ各兵器ヲ指揮スル將校ト交渉スヘシ又電氣ヲ應用セル砲煩用器具ハ水雷長ノ主管ニ屬シ又兵器及附屬裝置中機械裝置ノ部ノ整理ハ機關長ノ責任ニ屬スト雖砲術長ハ能ク其ノ現狀ニ注意シ水雷長及機關長ト交渉シテ常ニ之ヲシテ實用ニ支障ナカラシムルコトヲ努ムヘシ

第七十四條 砲術長ハ主管兵器ノ效力ヲ熟知シ種々ノ場合テ於ニ最大ナル效果ヲ奏セシムルコトヲ掌ルヘシ

ニ就キ十分ナル研究ヲ爲スヘシ

第七十五條 砲術長ハ主管ノ需品ヲ整頓シ常ニ實用ニ支障ナカラシムヘシ

第七十六條 砲術長ハ常ニ遲滞ナク己ノ主管ニ屬スル需品ニ關スル諸帳簿ヲ整理スヘシ

第七十七條 砲術長ハ時々揚彈藥裝置及運搬裝置ヲ檢シ常ニ實用ニ支障ナカラシムヘシ但其ノ

汽力水力若クハ電氣力ヲ用フル裝置ノ整理ハ機關長ニ屬ス

第七十八條 砲術長ハ時々火藥ノ現況ヲ檢査シ常ニ實用ニ支障ナカラシムヘシ若シ變質等ノ兆候

ヲ認ムルトキハ速ニ之ヲ艦長ニ報告スヘシ

砲術長ハ常ニ空放藥及禮砲藥ヲ準備シ急遽ノ需用ニ應セシムヘシ

第七十九條 砲術長ハ砲銃ノ火藥庫及彈丸庫ヲ整頓シ常ニ之ヲ清潔乾燥ニ保チ晴朝ノ天候ニハ時

時送風ヲ爲シ及溫度ヲ過昇セシメサルコトニ注意シ且規定ノ時日毎ニ庫内ノ溫度及濕氣ヲ測定

スヘシ

第八十條 砲術長ハ砲銃火藥庫及彈丸庫ノ注水管竝ニ排水管ヲ有效ニ保存スルコトニ注意シ其

ノ艦入渠スルトキハ機關長ノ立會ヲ得テ注水試驗ヲ行フヘシ

第八十一條 砲術長ハ砲銃火藥庫及彈丸庫ヲ開クトキハ能ク之ヲ監督シ不慮ノ過失ヲ生セサルコ

トニ注意スヘシ

第八十二條 砲術長ハ己ノ主管ニ屬スル器具、需品貯積ノ現況ヲ熟知シ常ニ之ヲ清潔乾燥ニ保チ

且整頓セシムヘシ

第八十三條 砲術長ハ艦長ノ命アルトキハ戰闘中砲銃ノ使用ニ關スル號令ヲ掌ルヘシ

第八十四條 砲術長ハ戰闘後速ニ其ノ主管ニ係ル兵器彈藥及物品ノ缺損ヲ調査シ之ヲ副長ニ報告

シ且全力ヲ盡シテ之ヲ修補シ以テ第二ノ戰闘ニ應スル準備ヲ爲スヘシ

第八十五條 砲術長ハ砲術上ニ關スル諸報告ヲ調製シ之ヲ艦長ニ呈出スヘシ

第八十六條 砲術長ハ砲術ニ關スル部署ヲ熟知シ常ニ其ノ便否ヲ考査シ制定若クハ改正ヲ要スル

トキハ意見ヲ具シ之ヲ艦長ニ呈出スヘシ

第八十七條 砲術長ハ艦長、砲術長主管ノ兵器及倉庫ヲ點檢スル時ハ之ニ隨從スヘシ

第八十八條 砲術長ハ砲彈發射ノ後ハ能ク臍中ヲ檢査シ之ヲ艦長ニ報告スヘシ

第八十九條 砲術長ハ其ノ艦動搖傾斜甚シキトキハ砲彈ノ繫止ニ關シ充分ノ注意ヲ爲スヘシ

第九十條 砲術長ハ主管ノ兵器ヲ新設修理改造スルトキハ常ニ其ノ工事ニ注意シ適當ナラサル

コトヲ認ムルトキハ之ヲ艦長ニ報告スヘシ

第九十一條 砲術長ハ砲術ノ熟達練習ヲ圖リ下士卒ノ教育ヲ分任シ掌砲長砲術教員以下砲術ニ關

スル部署ニ於ケル諸員ノ職務ヲ監督シ其ノ行狀技能ヲ詳知シ又下士卒ノ勳陞進退ニ關シテハ其

ノ職ニ參與スルモノトス

第九十二條 砲術長ハ砲術ニ關スル操式及規定ノ嚴格適切ニ行ハル、ヤ否ヤヲ監督シ若シ之ニ關

シ改正ノ必要ヲ認ムルトキハ案ヲ具シテ艦長ニ呈出スヘシ

砲術長ハ砲術ニ關スル事ニ就キ意見アルトキハ之ヲ艦長ニ呈出スヘシ

第九十三條 砲術長ハ水雷長ヲ置カサル艦ニ在リテ艦長ノ命アルトキハ水雷長ノ職務ヲ執行スヘ

シ

第九十四條 砲術長其ノ職ヲ退クトキハ主管ニ屬スル兵器需品其ノ他必要ノ事件ヲ新任者ニ引繼

キ共ニ之ヲ艦長ニ報告スヘシ

第九十五條 水雷母艦ノ砲術長ハ附屬水雷敷設隊水雷艇隊ニ主管兵備品ヲ敏活正確ニ配給スルコ

トヲ掌ルヘシ

第九十六條 水雷母艦ノ砲術長ハ適用シ得ル限り本章第七十三條乃至第九十四條ノ規程ニ依ルヘ

第九十七條 豫備艦ノ砲術長ハ主管ノ物品ヲ整頓シ常ニ就役準備ノ迅速正確ニ行ハルコトニ注意スヘシ

第九十八條 豫備艦ノ砲術長ハ適用シ得ル限り本章第七十三條乃至第九十四條ノ規程ニ依ルヘシ

(水雷長)

第九十九條 水雷長ハ左ニ列記スル兵器物品ヲ整頓シ常ニ之ヲ清潔有效ニ保チ實用ニ支障ナカラシムヘシ但シ魚形水雷及其ノ發射機等ノ機械裝置ノ整理ハ機關長ニ屬ス

諸水雷

諸發射機

探海電燈

電燈電路

電纜電線

諸電池及流動電氣ノ諸電路

水雷方位盤

夜中照準器

流動電氣器具

電氣的通信裝置

避雷針

水雷用具及屬具(魚形水雷機械部)

水雷用試驗器具

前項ニ關シテハ水雷長ハ各兵器ヲ指揮スル將校ト交渉スヘシ又兵器及附屬裝置中機械裝置ノ部ノ整理ハ機關長ノ責任ニ屬スト雖水雷長ハ能ク其ノ現状ニ注意シ機關長ト交渉シテ常ニ之ヲシ

テ實用ニ支障ナカラシムルコトヲ努ムヘシ

第一百條 水雷長ハ主管兵器ノ效力ヲ熟知シ種々ノ場合ニ於テ最大ナル效果ヲ奏セシムルコトニ就キ十分ナル研究ヲ爲スヘシ

第一百一條 水雷長ハ主管ノ需品ヲ整頓シ常ニ實用ニ支障ナカラシムヘシ

第一百二條 水雷長ハ常ニ遲滞ナク自己ノ主管ニ屬スル需品ニ關スル諸帳簿ヲ整理スヘシ

第一百三條 水雷長ハ水雷曳揚及運搬裝置ヲ檢シ常ニ實用ニ支障ナカラシムヘシ但シ汽力、水力若クハ電氣力ヲ用フル裝置ノ整理ハ機關長ニ屬ス

第一百四條 水雷長ハ時々水雷裝藥ノ現況ヲ檢査シ常ニ實用ニ支障ナカラシムヘシ

第一百五條 水雷長ハ水雷藥庫ヲ整頓シ常ニ之ヲ清潔乾燥ニ保チ晴朗ノ天候ニハ時々送風ヲ爲シ又

溫度ヲ過昇セシメサルコトニ注意シ且規定ノ時日毎ニ庫内ノ溫度及濕氣ヲ測定スヘシ

第一百六條 水雷長ハ水雷藥庫ノ注水管竝ニ排水管ヲ有效ニ保存スルコトニ注意シ其ノ艦入渠スルトキハ機關長ノ立會ヲ得テ注水試驗ヲ行フヘシ

第一百七條 水雷長ハ水雷藥庫ヲ開クトキハ能ク之ヲ監視シ不慮ノ過失ヲ生セサルコトニ注意スヘシ

第一百八條 水雷長ハ己ノ主管ニ屬スル器具需品貯積ノ現況ヲ熟知シ常ニ之ヲ清潔乾燥ニ保チ且整頓セシムヘシ

第一百九條 水雷長ハ艦長、水雷長、主管ノ兵器及倉庫ヲ點檢スル時ハ之ニ隨從スヘシ

第一百十條 水雷長ハ艦長ノ命アルトキハ戰闘中水雷ノ使用ニ關スル號令ヲ掌ルヘシ

第一百十一條 水雷長ハ戰闘後速ニ其ノ主管ニ係ル兵器裝藥及物品ノ缺損ヲ調査シ之ヲ副長ニ報告シ且全力ヲ盡シテ之ヲ修補シ以テ第二ノ戰闘ニ應スル準備ヲ爲スヘシ

第一百十二條 水雷長ハ水雷術上ニ關スル諸報告ヲ調整シ之ヲ艦長ニ呈出スヘシ

- 第百十三條 水雷長ハ水雷術ニ關スル部署ヲ熟知シ常ニ其ノ便否ヲ考査シ制定若クハ改正ヲ要スルトキハ意見ヲ具シ艦長ニ呈出スヘシ
- 第百十四條 水雷長ハ水雷ノ屈曲度表ヲ調製シ常ニ實用ニ支障ナカラシムヘシ
- 第百十五條 水雷長ハ魚形水雷縱舵ノ改正ヲ要スルトキハ之ヲ艦長ニ具申スヘシ
- 第百十六條 水雷長ハ魚形水雷ヲ發射スルトキハ一回毎ニ補機分擔機關士ノ立會ヲ得テ調整善良ナリトノ通知ヲ得タル後ニアラザレハ續テ之ヲ發射スヘカラス
- 第百十七條 水雷長ハ魚形水雷發射毎ニ其ノ進路ニ注意シ各水雷特有ノ性質ヲ研究スヘシ
- 第百十八條 水雷長ハ時々發射管及發射框ノ臍中ヲ檢シ異狀アルトキハ之ヲ艦長ニ報告スヘシ
- 第百十九條 水雷長ハ主管ノ兵器ヲ新設修理改造スルトキハ常ニ其ノ工事ニ注意シ適當ナラサルコトヲ認ムルトキハ直ニ之ヲ艦長ニ報告スヘシ
- 第百二十條 水雷長ハ水雷術ノ熟達練習ヲ圖リ下士卒ノ教育ヲ分任シ掌水雷長水雷術教員以下水雷ニ關スル部署諸員ノ職務ヲ監督シ其ノ行狀技能ヲ詳知シ又下士卒ノ黜陟進退ニ關シテハ其ノ職ニ參與スルモノトス
- 第百二十一條 水雷長ハ水雷術ニ關スル操式及規程ノ嚴格適切ニ行ハル、ヤ否ヤヲ監督シ若シ之ニ關シ改正ノ必要ヲ認ムルトキハ案ヲ具シテ艦長ニ呈出スヘシ
- 水雷長ハ水雷術ニ關スル事ニ就キ意見アルトキハ之ヲ艦長ニ呈出スヘシ
- 第百二十二條 水雷長ハ其ノ艦ニ水雷艇ヲ裝載スルトキハ該艇長ノ職務ヲ監督シ又其ノ技術ノ發達ヲ圖ルヘシ
- 第百二十三條 水雷長ハ砲術長ヲ置カサル艦ニ在リテ艦長ノ命アルトキハ砲術長ノ職務ヲ執行スヘシ
- 第百二十四條 水雷長其ノ職ヲ退クトキハ主管ニ屬スル兵器需品其ノ他必要ノ事件ヲ新任者ニ引

- 繼キ共ニ之ヲ艦長ニ報告スヘシ
- 第百二十五條 水雷母艦ノ水雷長ハ附屬水雷敷設隊水雷艇隊ニ主管兵備品ヲ敏活正確ニ配給スルコトヲ掌ルヘシ
- 第百二十六條 水雷母艦ノ水雷長ハ適用シ得ル限り本章第九十九條乃至第百二十四條ノ規程ニ依ルヘシ
- 第百二十七條 豫備艦ノ水雷長ハ主管ノ物品ヲ整頓シ常ニ就役準備ノ迅速正確ニ行ハル、コトニ注意スヘシ
- 第百二十八條 豫備艦ノ水雷長ハ適用シ得ル限り本章第九十九條乃至第百二十四條ノ規程ニ依ルヘシ
- (大尉分隊長)
- 第百二十九條 大尉分隊長ハ部下隊員ヲ統御シ之ヲ誘掖督勵シ其ノ職務ヲ誠實勇敢ニ施行セシメ且其ノ性質行狀技能等ヲ熟知シ又隊員ニ係ル事務ヲ掌理シ其ノ黜陟進退ニ關シテハ案ヲ具シテ艦長ニ呈出シ且其ノ職ニ參與スルモノトス
- 第百三十條 大尉分隊長ハ戰闘防火防水陸戰運用其ノ他各部署ノ長ト爲リ部署員ヲ指揮訓練シ其ノ要具ヲ整頓シ常ニ實用ニ支障ナカラシムヘシ
- 第百三十一條 大尉分隊長ハ其ノ令下ニ屬スル兵器ヲ整頓シ其ノ現況ヲ熟知シ手入掃除ヲ監督シ之ヲ良好ニ保存シ常ニ實用ニ支障ナカラシムルヲ要ス若シ其ノ故障ヲ發見シタルトキハ之ヲ主管者ニ通知スヘシ
- 第百三十二條 大尉分隊長ハ其ノ令下ニ屬スル兵器ノ豫備具ノ所在ノ場所ヲ詳知シ且其ノ隊員ヲシテ之ヲ知了セシメ機ニ臨ミ遺算ナキヲ期スヘシ
- 第百三十三條 大尉分隊長ハ戰闘後部下隊員ノ行爲、死傷者及拔群ノ偉功ヲ奏シタル者ノ氏名及

其ノ事績ヲ副長ニ報告シ又其ノ令下ニ屬スル兵器及屬具ノ毀損ノ狀況ヲ各主管者ニ通知シ且之
ト協力シテ修補ノ手段ヲ盡スヘシ

第三百二十四條 大尉分隊長ハ下士卒新ニ其ノ部下ニ編入セラル、トキハ速ニ其ノ部署ニ應スル諸
般ノ任務ヲ教ヘ又之ニ服膺スヘキ要旨ヲ訓示スヘシ

第三百二十五條 大尉分隊長ハ部下下士卒ノ人事ニ關スル書類ヲ保管整理スヘシ

第三百二十六條 大尉分隊長ハ隊員ノ服裝敬禮等ニ注意シ又其ノ乘艦退艦ノ際及其ノ他時々釣床被
服手箱等ヲ點檢シ常ニ之ヲ清潔正確ニ保存セシメ其ノ記號ヲ明瞭ナラシムヘシ

第三百二十七條 大尉分隊長ハ下士卒ノ教育ヲ分任スヘシ

第三百二十八條 先任大尉分隊長ハ運用術ノ熟達練習ヲ圖リ運用術ノ教授ヲ分掌スヘシ

第三百二十九條 先任大尉分隊長ハ錨、錨鎖及其ノ屬具並ニ帆及綱等ニ關シ其ノ取付及使用ノ便否
ヲ考査シ意見アルトキハ之ヲ艦長ニ具申シ又其ノ保存ヲ監視シ時々航海長ト共ニ之ヲ檢査スヘ
シ

第四百十條 專任大尉分隊長中先任者ハ砲術長及水雷長ヲ置カサル艦ニ在リテハ砲術長ノ職務
ヲ執行スヘシ

第四百十一條 大尉分隊長ハ水雷長ヲ置カサル艦ニ在リテ艦長ノ命アルトキハ水雷長ノ職務ヲ執
行スヘシ

第四百十二條 大尉分隊長其ノ職ヲ退クトキハ隊員ニ關スル事項並ニ令下ニ屬スル兵器其ノ他必
要ノ事件ヲ新任者ニ引繼キ共ニ之ヲ艦長ニ報告スヘシ

第四百十三條 測量艦ノ大尉分隊長ハ艦長ノ指示ヲ承ケ指定地ノ測量ニ從事スヘシ

第四百十四條 測量艦ノ大尉分隊長ハ適用シ得ル限り本章第二百二十九條乃至第四百十二條ノ規程
ニ依ルヘシ

(當直士官)

第四百十五條 當直士官ハ專ラ其ノ艦ノ安全ヲ保ツコトニ注意シ艦内ノ百事總テ急遽ノ需用ニ應
スルノ準備アラシムルヲ要ス

第四百十六條 當直士官ハ艦ノ内外全般ノ現況ニ注意シ諸物件ヲ整頓シ内ニ在リテハ定期命令ノ
執行ヲ掌リ外ニ對シテハ艦ノ外見ヲ具備セシメ總テ兵員ノ動作ヲシテ聊モ情容アラシムヘカラ
ス

第四百十七條 當直士官ハ四方ニ注目シ他艦船ノ進退、岩礁、陸地等其ノ他重要ノ件ヲ發見シタル
トキハ速ニ之ヲ艦長及副長ニ報告シ又航海長ニ通知スヘシ

第四百十八條 當直士官ハ副直士官以下當番者ノ職務ヲ監督シ嚴密ニ之ヲ執行セシムヘシ

第四百十九條 當直士官ハ艦内ノ諸事業ヲ監督シ正確ニ之ヲ執行セシムヘシ

第四百五十條 當直士官ハ當直艇員ヲ指揮シ當直中ノ諸事件ヲ處理シ又航海日誌ノ記註ヲ掌ルヘ
シ

當直士官ハ兩舷直及其ノ以上ノ兵員ヲ要スル事業ト雖將校ノ配置ヲ要セサルモノハ副長ノ許可
ヲ經テ自ラ之ヲ處理スルコトヲ得

第四百五十一條 當直士官ハ艦外ニ發露スル事業ハ成ルヘク旗艦或ハ先任艦長ノ艦ニ準シ施行スル
コトニ注意スヘシ

第四百五十二條 當直士官ハ航海中艦長、副長若クハ航海長其ノ艦ノ運用ヲ掌ルトキノ外其ノ艦ノ
運用ヲ掌ルヘシ

第四百五十三條 當直士官ハ針路ノ變換、速力ノ増減、錨數ノ増減、錨鎖ノ伸縮、端舟ノ上下及其ノ發
差、圓材ノ出入等其ノ他重要ノ件ニ關シテハ必ス艦長ノ命ヲ待ツヘシ但シ急遽ニシテ艦長ノ指
揮ヲ受クル違ナキトキハ適宜之ヲ處置シ同時ニ艦長及副長ニ報告スヘシ

第五百四十四條 當直士官ハ速力ノ増減、針路ノ變換ニ付航海長ノ指示ヲ受ケ之ヲ適當ト認メサル
トキハ其ノ理由ヲ開陳スルコトヲ得但シ航海長自ラ號令ヲ下ストキハ其ノ行爲ニ干渉スルコト
ヲ得ス

第五百五十五條 當直士官ハ艦長ノ命令若クハ許可ヲ受クルニアラサレハ信號ヲ爲スヘカラス但シ
他艦船ニ切迫ノ危難ヲ警報スルトキ若クハ豫メ自己限リ施行シ得ヘキ委任ヲ受ケタル事項及手
旗信號ハ此ノ限ニアラス

第五百五十六條 當直士官ハ碇泊中荒天ノ時ニハ測鉛ヲ投下シ置キ又陸上ニ著シキ目標ヲ視定シ錨
及錨鎖ニ變動ナキヤ否ヤニ注意シ殊ニ晴雨計ノ昇降ニ注意スヘシ

第五百五十七條 當直士官ハ雷鳴ノトキハ避雷針ヲ備フヘシ

第五百五十八條 當直士官ハ人員ノ出入、物品ノ積卸ヲ監視スヘシ

第五百五十九條 當直士官ハ外來文書ヲ受領スルトキハ公文ハ悉ク之ヲ主計長ニ致シ私信ハ衛兵伍
長ヲシテ遺失ナク之ヲ配付セシムヘシ

第五百六十條 當直士官ハ己ノ命令若クハ許可ナクシテ小蒸汽船及端舟ヲ發差セシムヘカラス

第五百六十一條 當直士官ハ各甲板ノ清潔、通風、乾燥ニ注意シ兵員ヲシテ成ルヘク身體被服ヲ濡サ
シメサルコトヲ圖リ又定所外ニ沾濕物ヲ置カシムヘカラス

第五百六十二條 當直士官ハ航海中ニ在リテハ救助艇及救難浮標ノ降下ニ支障ナカラシメ又救助艇
員及其ノ要具ヲ整頓シ常ニ急速ノ使用ニ支障ナカラシムヘシ

第五百六十三條 當直士官ハ夜間ハ舷燈、檣燈、艦尾燈其ノ他衝突豫防法ニ依リ點スヘキ諸燈ノ適當
ニ點燈輝映スルヤニ注意スヘシ

第五百六十四條 當直士官ハ夜間長巡見後ヨリ拂曉ニ至ル間副直士官若クハ當直少尉候補生及衛兵
伍長ヲシテ碇泊中ハ每一時、航海中ハ每一十分ニ各甲板ヲ巡視セシメ火災ノ兆候其ノ他一般ニ

異狀ナキヤ否ヤヲ報告セシムヘシ

第五百六十五條 當直士官ハ航海中ハ常ニ艦橋ニ在ルモノトス而シテ副長航海長若クハ當直士官ト
爲ルヘキ資格ヲ有スル者ノ交代ヲ得ルニアラサレハ之ヲ離去スヘカラス

第五百六十六條 當直士官ハ兵員ノ上陸及歸艦ニ際シテハ之ヲ整列シ必要ノ件ヲ口達シ又服裝其ノ
他携帶品等ニ就キ不都合ノ有無ヲ點檢スヘシ

第五百六十七條 航海中當直士官ハ遺漏ナク左ニ記載スル報告ヲ受クルコトニ注意スヘシ

一 各部ノ長ヨリハ當直人員調終ルノ後受持部分ヲ巡視シ索具其ノ他ニ故障ナキヤ否ヤノ報告

二 救助艇ノ長ヨリハ艇員ノ整列終ルノ後其ノ艇ノ故障ナキヤ否ヤノ報告

三 救助艇ノ「フオール」ヲ守ル者ヨリハ當直人員調終ルノ後其ノ故障ナキヤ否ヤノ報告

四 掌砲長屬ヨリハ人員調終ルノ後及艦ノ動搖甚シキトキニ於テハ一時間毎ニ大砲其ノ他砲具
ニ故障ナキヤ否ヤノ報告

五 掌水雷長屬ヨリハ人員調終ルノ後及艦ノ動搖甚シキトキニ於テハ一時間毎ニ水雷發射管其
ノ他要具ニ故障ナキヤ否ヤノ報告

六 船匠部員ヨリハ當直人員調終ルノ後及艦ノ動搖甚シキトキハ一時間毎ニ船水ノ検査ヲ爲シ
タル報告

七 當直少尉候補生及衛兵伍長ヨリハ艦内巡視ノ報告

第五百六十八條 航海中當直士官ハ特ニ左ノ事項ニ注意スヘシ

- 一 海圖ニ於ケル本艦ノ位置
- 二 旗艦並ニ前續艦後續艦ニ對スル本艦ノ位置及陣形
- 三 前項ニ記スル諸艦ノ速力
- 四 本艦ノ針路

- 五 本艦ノ速力
 - 六 現用汽罐ノ數
 - 七 現用フル帆ノ數
 - 八 機關回轉ノ數
 - 九 舵(ウエザールヘルム)ノ現狀(或ハリーヘルム)
 - 十 目ニ見フル物件
 - 十一 見出スヘキモノ及見失ハントスルモノ
 - 十二 海底ノ深淺
 - 十三 豫期スル所ノ天候
 - 十四 砲門及舷窓ノ現狀(開或ハ閉)
 - 十五 防水扉ノ現狀(開或ハ閉)
 - 十六 天候ノ如何ニ論ナク晴雨計ノ經過及現狀
 - 十七 大砲錨其ノ他重物ノ繫止諸圓材諸帆端舟ノ現狀及故障ノ有無
 - 十八 救助艇ヲ下スニ障碍トナルヘキモノ、有無
 - 十九 機關室通信機ハ正當ナルヤ
 - 二十 霧中雲天及濛雨ノトキハ汽笛並ニ其ノ他ノ霧中信號ノ準備アルヤ
 - 二十一 號燈信號用小銃號火等ノ準備宜シキヤ
 - 二十二 舷燈汽燈艦尾燈速力燈其ノ他ノ燈火ニ關スル狀態
 - 二十三 原因不明ノ音響ノ有無
- 第百六十九條 航海中當直士官當直ヲ受繼クトキハ左ニ掲クル諸項ハ怠リナク履行スヘシ
- 一 艦橋命令簿ニ就テ特ニ命令セラレタルコトヲ詳悉スルコト

- 二 前續艦及後續艦ニ對シテ後レツ、アルヤ進ミツ、アルヤ又艦隊ニ於テ正當ナル位置ニ在ルヤ
- 三 本艦ハ正當ナル針路ニ進ミツ、アルヤヲ認メ又接針手ハ與ヘラレタル針路ヲ知了スルヤ確ムルコト
- 四 天明ニハ殊ニ注意シテ眼界ノ及フ限り四方ヲ見廻シ當直中ハ屢「ホライゾン」ヲ見廻スコト
- 五 港灣海峽等ノ航進中測鉛ヲ使用スルトキハ測鉛手ノ報スル深サ正シキヤ否ニ注目スルコト
- 六 砲門舷窓等安全ナルヤニ注意スルコト
- 七 天候ノ模様ニ應シテ晴雨計ヲ注視スルコト
- 八 救助艇ノ「フオール」ハ能ク捌キアルヤヲ認メ該艇員及端舟卸シ方ニ從事スヘキ人員ヲ調査スルコト
- 九 機關室通信機正當ニシテ諸燈火ハ能ク光ヲ放ツヤニ注目シ霧中又ハ雪天等ニ在リテハ汽笛「サイレン」其ノ他ノ霧中信號ヲ準備スルコト
- 十 號燈ハ總テ正當ニシテ小銃(信號)及號火ノ準備宜シク發光信號燈ハ迅速ニ點火スルヲ得ルコト
- 十一 見張り當番並ニ衝突豫防法ニ依リ點シタル諸燈ヲ巡見報告セシムルコト
- 十二 展帆ノ鈞合宜キヲ得ルヤニ注意スルコト
- 十三 風上ノ「リフト」及「ツラス」ヲ緊張スルコト
- 十四 諸索具ハ能ク之ヲ捌キ各部ノ長ヲシテ報告セシムルコト
- 十五 時々艀水ノ有無多少ヲ檢セシムルコト
- 十六 諸砲ノ固縛セラレアルヤヲ檢セシムルコト
- 十七 巡見(少尉候補生及衛兵)ノ結果並ニ番兵異常ノ有無ノ報告ヲ得ルコト
- 十八 救助浮子番兵ハ浮子使用法及之ニ關スル命令ヲ熟知スルヤ否ヤニ注意スルコト

第七十條 尉官ハ其ノ艦ニ裝載セル水雷艇掛ヲ命セラレタルトキハ之ヲ水雷艇長ト稱シ艦長ノ命ヲ承ケ艇員ヲ指揮訓練シ船體及屬具兵器物品一切ヲ整備シ其ノ出航ニ際シテハ之ニ乘組ミ其ノ指揮ヲ掌ルヘシ

第七十一條 尉官ハ衛兵司令ヲ命セラレタルトキハ副長ノ命ヲ承ケ其ノ規則ニ依リ服務シ艦内警察ノ事ニ關シ副長ヲ輔佐スヘシ

(少尉)

七十二條 少尉ハ航海長、砲術長、水雷長若クハ大尉分隊長ニ屬シ其ノ命ヲ承ケ各其ノ長ノ職務ヲ輔佐シ又關係部員ノ黜陟進退ニ關シテハ其ノ職ニ參與スルモノトス

七十三條 少尉ハ甲板掛ヲ命セラレタルトキハ副長ノ命ヲ承ケ船體及其ノ附屬物、各甲板、複底(機關長管理ノ部分ヲ除ク)其ノ他諸器具ノ保存ニ注意シ諸部ヲ整頓シ之ヲ清潔ニ保チ又軍艦タルニ適當ナル外見ヲ具備セシムルコトヲ掌リ定則命令ノ違犯者アルヲ知ルトキハ之ヲ制止シ若クハ之ヲ副長、當直士官又ハ關係ノ分隊士官ニ告知スヘシ

七十四條 少尉ハ小蒸汽船若クハ端舟掛ヲ命セラレタルトキハ副長ノ命ヲ承ケ之ヲ清潔有效ニ保チ其ノ屬具ヲ整頓シ常ニ實用ニ支障ナカラシムヘシ

(副直士官)

七十五條 測量艦ノ少尉ハ艦長ノ指示ヲ承ケ指定地ノ測量ニ從事スヘシ

七十六條 測量艦ノ少尉ハ適用シ得ル限り本章第七十一條乃至第七十四條ノ規程ニ依ルヘシ

七十七條 副直士官ハ當直士官ノ命令ヲ實行スルコトヲ注意スヘシ

七十八條 副直士官ハ當直士官ノ職權内ニ屬スル事物ノ正確ニ處理セラル、コトニ注意スヘシ

七十九條 副直士官ハ四方ニ注目シ他艦船ノ進退、暗礁、陸地等其ノ他重要ノ件ヲ發見シタルトキハ速ニ之ヲ當直士官ニ報告スヘシ

八十條 副直士官ハ航海中ハ常ニ所定ノ位置ニ在ルモノトス而シテ適當ノ交代ヲ得ルニアラサレハ之ヲ離去スヘカラス

第三章 機關長及機關士

(機關長)

第一條 機關長ハ左ニ掲グル船體、機關、兵器及此等ニ屬スル諸裝置ヲ管理シ常ニ之ヲ清潔有效ニ保チ實用ニ支障ナカラシムヘシ

一 機關室及炭庫ニ接スル複底

二 本艦及本艦ニ裝載セル水雷艇及小蒸汽船ノ主機關並ニ其ノ裝置

三 副機關一切

四 機關用及汽動諸唧筒並ニ之ニ屬スル管、弁、嘴

五 蒸餾器、蒸化器、濾水器及製氷機

六 推進機及其ノ附屬裝置

七 汽力、水力若クハ電氣力ヲ用フル砲ノ俯仰、砲架、砲塔ノ旋回及揚彈藥裝置

八 換氣機及其ノ用具

九 汽力、水力若クハ電氣力ヲ用フル揚錨機、操舵機及起重機ノ機械裝置及其ノ用具

十 消火機及之ニ連絡スル管、弁、嘴

十一 排水機及之ニ連絡スル管、弁、嘴

十二 電氣的ノモノ、外一切ノ通信器械

十三 魚形水雷ノ機關及機械的裝置並ニ其ノ用具

- 十四 空氣壓縮機、氣蓄器、分離器及其ノ用具並ニ裝氣柱
 - 十五 電動機、發電機及之ニ要スル諸測器並ニ發電機、本電路燈、電動機間ノ電路
 - 十六 白熱電燈
 - 十七 機關工場、水雷工場、兵器工場、鍛冶工場ニ在ル一切ノ機械及裝置
 - 十八 罐水補給用貯水裝置
 - 十九 炭庫及搬炭ニ關スル裝置
 - 二十 機關室及炭庫内ニ裝備シタル防水戸及阻水弁
 - 二十一 前諸項ニ附屬スル豫備器具
- 機關長ハ前項ノ兵器及諸機械中他ノ主管ニ屬スルモノ、件ニ關シテハ該主管者ト交渉スヘシ
- 第二條 機關長ハ左ニ掲クル船體機關兵器及其ノ裝置ヲ監視シ其ノ故障ヲ認ムルトキハ之ヲ艦長ニ報告シ其ノ主管者ト協議シテ之ヲ修理シ其ノ艦内ニ於テ修理シ能ハサルモノハ之ヲ艦長ニ具申スヘシ
- 一 船體ノ鋼鐵部及機關室及炭庫ニ接スル部以外ノ複底
 - 二 砲架、水雷發射機及其ノ機械的裝置
 - 三 彈藥庫及水雷藥庫ノ注水裝置
 - 四 機關室及炭庫外ニ裝備シタル防水戸、阻水弁、唧筒及之ニ附屬スル管、弁、嘴
- 第三條 機關長ハ其ノ管理及監視ニ關スル事項ヲ本艦ノ主機、汽罐及補機ノ三部ニ分チ大機關士ヲシテ之ヲ分擔セシメ船體及兵器ニ關聯スル事項及其ノ他ノ雜件ハ補機分擔ノ大機關士ノ分擔ニ附屬セシムヘシ
- 第四條 機關長ハ其ノ管理ニ屬スル機關及兵器ノ製式來歴用法及能力ヲ知悉シ且之ニ關スル記錄ヲ保管シ之ヲ繼續登記スヘシ

- 第五條 機關長ハ機關部ニ關スル課業ニ係ルコトヲ擔任シ豫メ副長ニ交渉シテ之ヲ行フヘシ
- 第六條 機關長ハ其ノ主管ニ屬スル需品ヲ保護整理シ常ニ需用ニ支障ナカラシムヘシ
- 第七條 機關長ハ其ノ主管ニ屬スル需品ノ帳簿ヲ整理スヘシ
- 第八條 機關長ハ機關部員及鍛冶部員ヲ統轄シ其ノ勲陞進退ニ關シテハ其ノ議ニ參與スルモノトス
- 第九條 機關長ハ常ニ部下各員ノ戰闘、防火、防水等ノ部署ノ適否ヲ考察シ之ニ對シ部下ヲ訓練シ又別ニ部下士卒ノ當直表ヲ調製シテ定所ニ掲示シ且常ニ之ヲ整理スヘシ
- 第十條 機關長ハ部下機關士及准士官ノ勤務ヲ監督シ機關士勤務錄ヲ査閱シ其ノ人ト爲リテ詳細シ屢ノ所要ノ注意ヲ與ヘ其ノ學術技藝ヲ發達セシムルコトヲ圖ルヘシ
- 第十一條 機關長ハ部下士卒ノ勤怠ヲ監督シ部下分隊長ノ調製セル考課表ヲ査閱シ又平生部下諸員ノ行爲ニ注意シ其ノ性行伎倆ヲ詳知スヘシ
- 第十二條 機關長ハ部下士卒ノ教育ヲ掌リ機關ニ關スル業務及工業ノ事ニ關シテハ其ノ方法ヲ定メ普通學及武科ノ事ニ關シテハ各其ノ主務者ト交渉スヘシ
- 第十三條 機關長ハ鍛冶手及鍛冶ヲシテ諸機械取扱ノ方法ヲ習得セシムヘシ
- 第十四條 機關長ハ戰闘後速ニ部下人員ニ關スル事項及其ノ管理ニ屬スル船體、機關、兵器及物品ノ缺損ヲ檢査シ之ヲ副長ニ報告シ且全力ヲ盡シテ之ヲ修補シ以テ第二ノ戰闘ニ應スル準備ヲ爲スヘシ
- 第十五條 機關長ハ機關室命令簿ヲ製シ艦長ノ發スル命令ノ傳達及機關長ノ其ノ部下ニ對スル一切ノ命令ハ總テ之ニ依ルヘシ
- 第十六條 機關長ハ履、指壓器ヲ檢査シ其ノ有效ノ狀態ヲ保持スルコトニ注意スヘシ

第十六條 機關長ハ安全弁ノ重壓ヲ増減スルヲ要スルトキハ艦長ニ具申スヘシ

第十七條 機關長ハ諸速力ニ於ケル蒸汽膨脹ノ適度ヲ査定シ汽機ノ速度ヲ變更シタルトキハ之ニ應シ膨脹裝置ヲ調整スヘシ

第十八條 機關長ハ石炭ノ經濟的燃焼度ニ應シ各種ノ速力ニ於テ使用スヘキ汽罐ノ數ヲ定メ之ヲ艦長ニ報告シ通常ノ場合ニ於テハ必ス之ニ準據スヘシ

第十九條 機關長ハ其ノ管理ニ屬スル船體、兵器及機關ノ或部ニ變更、修理、検査若クハ須要ノ工作ヲ必要トスルトキハ其ノ工事日數ヲ豫定シ艦長ノ許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ但シ乗員ヲ以テ爲シ能ハサル工事ハ之ヲ附シテ缺損簿ニ記載シ速ニ艦長ニ報告スヘシ

第二十條 機關長ハ其ノ管理ニ屬スル船體、兵器若クハ機關ニ故障ヲ生ジタルトキ或ハ其ノ臨機處置ヲ要スルトキハ速ニ艦長ニ報告スヘシ但シ危急ノ際ハ適宜之ヲ處置シ事後之ヲ報告スルコトヲ得

第二十一條 機關長ハ艦内諸員ヨリ其ノ管理スル所ノ工場ニ於テ爲シ得ヘキ工事ノ請求ヲ受クルトキハ之ニ應スヘシ但シ機關部外諸員ヨリノ請求ハ副長ノ承認ヲ經タルモノニ限ル

第二十二條 機關長ハ主管ニ屬スル諸圖、帳簿ヲ整理シ又定期ノ報告書ヲ調製スヘシ而シテ機關月報、機關季報、機關半年報等ハ其ノ機關ノ現狀ヲ認知スルニ最モ必要ノモノナルヲ以テ極メテ詳密ノ記事ヲ掲ケ成ルヘク未詳ナル語ヲ用ヒス確實ナル根據ヲ有スルヲ推想ヲ記入^{此ノ場合ニハ推想ヲ括弧内ニ記シ括弧ノ側ニ當局者ヲシテ充分機關ノ狀態ヲ了解セシムルコトヲ努ムヘシ}

第二十三條 機關長ハ高速力試験ハ其ノ機關ノ效力ヲ認知シ且其ノ部員ヲ訓練スルニ必要ノモノナルヲ以テ必ス之ヲ實施スルコトヲ勉ムヘシ

第二十四條 機關長或ル命令ヲ承ケ若シ之ヲ行ハ、其ノ管理ニ屬スル船體、兵器又ハ機關ニ損害ヲ生スヘシト考フルトキハ其ノ意見ヲ艦長ニ陳述スヘシ然レトモ其ノ陳述ニ依リ前令ヲ取消サ

レサルトキハ之ヲ實行スヘキモノトス而シテ斯ノ如キ場合ヲ生シタルトキハ艦長ニ申告シ其ノ命令ト自己ノ意見トヲ機關日誌ニ記註スヘシ

第二十五條 機關長ハ其ノ管理ニ屬スル防火及防水裝置ニ注意シ屢々之ヲ検査シテ常ニ有效ナラシムヘシ

第二十六條 機關長ハ其ノ艦入渠スルトキハ艦底外ニ通スル弁、嘴等ニシテ主管ニ屬スルモノハ悉ク調査ヲ爲シ又出渠前ニハ其ノ諸部ヲ巡檢シ弁、嘴ノ閉鎖ヲ確メ之ヲ艦長ニ報告スヘシ

第二十七條 機關長ハ衝突ノ際其ノ激動ニ依リテ位置ノ轉移ヲ生スルカ如キ汽缸、汽罐其ノ他機械ノ諸部ニ備ヘタル諸撐柱及縛著ハ屢々之ヲ検査シ常ニ之ヲ有效ナル狀態ニ保持スヘシ

第二十八條 機關長ハ其ノ艦ニ新機關ヲ裝置シ或ハ其ノ管理ニ屬スル船體、機關、兵器ヲ修理改造スルトキハ常ニ工事ニ注意シ其ノ確實正當ニ施行セラル、ヤ否ヤニ注意スヘシ若シ其ノ工事ニ缺漏又ハ不正ノ事アルヲ認メタルトキハ直ニ之ヲ艦長ニ報告スヘシ

第二十九條 機關長ハ高度ノ濕熱ニ觸レ易キ場所ニハ常ニ其ノ危險ヲ避クヘキ豫防法ヲ施シ又時時炭庫内ノ石炭ノ現狀ヲ監査シ自然若クハ爆發ノ兆アルヲ發見スルトキハ速ニ之ヲ艦長ニ報告シ豫防ノ手段ヲ施スヘシ

第三十條 若シ前項ノ事ニ關シ裝置ノ改良ヲ認ムルトキハ之ヲ艦長ニ具狀スヘシ

第三十條 機關長ハ機關室、炭庫及其ノ管理ニ屬スル各工場各倉庫ヲ常ニ清潔乾燥ニ保チ晴朝ノ日ニハ屢々大氣ノ流通ヲ促スヘシ若シ其ノ現狀ニ關シ故障ヲ認ムルトキハ之ヲ艦長ニ具狀スヘシ

第三十一條 機關長ハ艦長、機關長ノ部下兵員及其ノ管理ニ屬スル船體、機關、兵器並ニ倉庫ヲ點檢スルトキハ常ニ之ニ隨從スヘシ

第三十二條 機關長ハ諸管裝置及其ノ著色法ヲ示シタル圖ヲ製シ部署表ト共ニ機關室内便宜ノ位

置ニ掲クヘシ

第三十三條 機關長ハ其ノ艦汽走中ハ機關ノ動作及直員ノ職務ヲ監督シ又主機試運轉、港灣ノ出入狹小ナル水路ノ航行及艦隊運動其ノ他必要ノ際ハ機關室ニ在リテ機關部全般ヲ指揮スヘシ

第三十四條 機關長ハ其ノ艦碇泊中ハ毎夜巡見マテ又汽罐消火ノ當日ハ翌朝マテ機關室ニ下士卒ノ當番ヲ置キ室内ノ掃除整頓及失火ノ警戒ニ從事セシムヘシ

第三十五條 機關長ハ毎夜機關部全室ヲ巡見シ室内ノ整頓及火災ノ兆ナキコトヲ確認シ之ヲ副長ニ報告スヘシ

第三十六條 旗艦ノ機關長艦隊條例第二十一條ニ依リ命ヲ承クルトキハ艦隊職員勤務令中機關長ノ職務ニ關スル事項ノ全部若クハ一部ヲ執行スヘシ

第三十七條 機關長其ノ職ヲ退クトキハ其ノ管理ニ屬スル兵器、機關、需品及此等ニ關スル書類ヲ新任機關長ニ交付シ又諸作業ノ現況竝ニ從來己ノ執レル方針等ヲ引繼キ共ニ之ヲ艦長ニ報告スヘシ

機關長ハ其ノ引繼ニ際シ時宜ニ依リテハ艦長ノ認可ヲ得機關ノ運轉ヲ爲スコトアルヘシ

第三十八條 豫備艦ノ機關長ハ主管ノ物品ヲ整頓シ常ニ就役準備ノ迅速正確ニ行ハル、コトニ注意スヘシ

機關長ハ其ノ艦豫備ト爲リ該艦ニ機關官ヲ置カレサルトキハ主管ニ屬スル書類ヲ整理シ之ヲ豫備艦部機關長ニ引繼クヘシ

第三十九條 豫備艦タリシトキ機關官ヲ置カレサル艦就役スルトキハ機關長ハ豫備艦部機關長ヨリ主管ニ屬スル書類及事務ヲ引繼キ之ヲ整理スヘシ

第四十條 水雷母艦ノ機關長ハ附屬水雷敷設隊水雷艇隊ノコトニ關シテハ水雷團職員勤務令ニ掲クル機關長ノ職務ヲ行フヘシ

第四十一條 水雷母艦ノ機關長ハ適用シ得ル限り本章第一條乃至第三十八條ノ規程ニ依ルヘシ

(大機關士分隊長)

第四十二條 大機關士分隊長ハ部下隊員ヲ統御シ之ヲ誘掖督勵シ其ノ職務ヲ誠實勇敢ニ施行セシメ且其ノ性質行狀伎倆等ヲ熟知シ又隊員ニ係ル事務ヲ掌理シ其ノ馳騁進退ニ關シテハ案ヲ具シ機關長ヲ經テ之ヲ艦長ニ呈出シ且其ノ譏ニ參與スルモノトス

第四十三條 大機關士分隊長ハ戰闘、防火、防水其ノ他各部署ノ長トナリ部署員ヲ指揮訓練シ其ノ要具ヲ整頓シ實用ニ支障ナカラシムヘシ

第四十四條 大機關士分隊長ハ機關長ノ管理及監視ニ屬スル船體、機關、兵器及此等ニ屬スル諸裝置ノ一部ヲ分擔シ其ノ現狀ヲ熟知シ又其ノ手入掃除ヲ監督シ之ヲ良好ニ保存シ常ニ實用ニ支障ナカラシムルヲ要ス若シ其ノ故障ヲ發見シタルトキハ速ニ之ヲ機關長ニ報告シ且關係主管者ニ通知スヘシ

第四十五條 大機關士分隊長ハ其ノ分擔ニ屬スル機關、兵器及諸裝置ノ豫備器具ノ所在及應急修理ノ方法ヲ知リ且其ノ部署員ヲシテ普ク之ヲ知ラセシメ機ニ臨ミ遺算ナキコトヲ期スヘシ

第四十六條 大機關士分隊長ハ戰闘後部下隊員ノ行爲、死傷者及拔群ノ偉功ヲ奏シタル者ノ氏名及其ノ事績ヲ機關長ニ報告シ又其ノ分擔ニ屬スル機關、兵器及此等ニ屬スル諸裝置ノ毀損ノ狀況ヲ機關長ニ報告シ且其ノ命ヲ承ケ修補ノ手段ヲ盡スヘシ

第四十七條 大機關士分隊長ハ下士卒新ニ其ノ部下ニ編入セラル、トキハ速ニ其ノ部署ニ應スル諸般ノ任務ヲ教ヘ又之ニ服膺スヘキ要旨ヲ訓示スヘシ

第四十八條 大機關士分隊長ハ部下下士卒ノ人事ニ關スル書類ヲ保管整理スヘシ

第四十九條 大機關士分隊長ハ隊員ノ服裝、敬禮等ニ注意シ乘艦退艦ノ際及其ノ他時々釣床被服、手箱等ヲ點檢シ常ニ之ヲ清潔正確ニ保存セシメ其ノ記號ヲ明瞭ナラシムヘシ

第五十條 大機關士分隊長ハ下士卒ノ教育ヲ分任スヘシ

第五十一條 前任大機關士分隊長ハ平素機關長ヲ輔佐シ又一朝必要ニ際會スルトキハ直ニ之ニ代

リ機關部全般ヲ指揮シ艦長ノ企望ヲ完カラシムルニ於テ遺憾ナカラシムルノ覺悟アルヲ要ス

第五十二條 本艦ノ主機分擔ノ大機關士分隊長ハ主機及其ノ成立ニ缺クヘカラサル副機一切ヲ保

管スヘシ

第五十三條 汽罐分擔ノ大機關士分隊長ハ本艦ノ主汽罐、副汽罐及以上諸罐ノ成立ニ缺クヘカラ

サル汽機及裝置一切ヲ保管スヘシ

第五十四條 補機分擔ノ大機關士分隊長ハ機關長ノ管理及監視ニ屬スル船體、機關、兵器及此等ニ

屬スル諸裝置中主機及汽罐分擔ノ大機關士分隊長ノ保管ニ屬スルモノ、外總テ之ヲ保管スヘシ

第五十五條 補機分擔ノ大機關士分隊長ハ其ノ管理ニ屬スル兵器ノ取扱上兵曹及水兵ヲ要スルト

キハ副長及機關長ヲ經テ各主管者ト交渉スヘシ

第五十六條 大機關士分隊長其ノ職ヲ退クトキハ隊員ニ關スル事項竝ニ分擔ニ屬スル兵器、機械

其ノ他必要ノ事件ヲ新任者ニ引繼キ機關長ヲ經テ共ニ之ヲ艦長ニ報告スヘシ

(當直機關士)

第五十七條 當直機關士ハ其ノ勤務中常ニ機關室ニ在リテ機關部員ノ作業及勤怠ヲ監督シ又需品

ノ節約ニ注意シ制規ノ時間毎ニ機關ノ動作ニ關スル所要ノ件ヲ機關日誌ニ記註シ凡テ機關部ノ

整頓及之ニ關スル事項ニ對シ責任ヲ負フモノトス

第五十八條 當直機關士ハ當直士官トノ通信ハ成ルヘク傳話管及通信機ニ依ルヘシ然レトモ若シ

之ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テ副直機關士若クハ他ノ信任スヘキ者ヲ選ビテ之ヲ取次カシム

ヘシ

第五十九條 當直機關士ハ汽走中副直機關士以下ノ直員ヲ指揮シ機關ノ動作ヲ監督シ成ルヘク起

働裝置ノ附近ニ在リテ艦橋ヨリノ命令ヲ執行シ常ニ急遽ノ命令ニ應ジ機關ヲ操縦スルノ準備ヲ

爲シ事ニ當リ遺算ナキコトヲ期スヘシ

第六十條 當直機關士ハ汽走中適當ノ交代者ヲ得ルニアラサレハ決シテ機關室ヲ離去スヘカラ

ス

第六十一條 當直機關士ハ機關ニ異變ヲ生シタルトキ若クハ異變ノ兆アルヲ發見スルトキハ直ニ

之ヲ機關長ニ報告スヘシ但シ急遽ノ際ハ適宜之ヲ處置シ同時ニ機關長ニ報告シ又艦ノ速力ニ關

スル件ハ併セテ當直士官ニ通知スヘシ

第六十二條 當直機關士ハ當直ヲ終リ交代スルトキハ機關ノ現狀及受領シタル諸命令其ノ他必要

ノ件ヲ次直者ニ引繼キ又已ト同時ニ當直ヲ終リタル下士卒ヲシテ身體ヲ洗滌シ清潔乾燥ナル衣

服ニ著換ヘ食卓又ハ釣床ニ就カシムルコトヲ監督スヘシ

第六十三條 當直機關士ハ汽走中新ニ當直ニ就クトキハ交代時間前ニ機關室ニ入り引繼ヲ受クル

ニ先チ自ラ精密ニ左ノ諸項ヲ検査スヘシ

一 諸動作部及擔床ハ善良ニ動作シ適當ニ潤滑セラレアルヤ

二 罐水ハ正當ノ高サヲ有シ其ノ密度制規ヲ超エサルヤ

三 何レノ部分ニ灌水シアルヤ

四 何レノ弁、嘴ヲ開放シアルヤ

五 推鏢又ハ其ノ他ノ部分ノ締方、變更ノ有無

第六十四條 當直機關士ハ汽走中常ニ海水唧筒ノ動作ニ注意シ少クモ毎時一回艦底ノ水高ヲ検査

シ當直中ノ最多水高ヲ機關日誌ニ記註スヘシ

第六十五條 當直機關士ハ汽走中常ニ汽機ノ觸面復水器又ハ給水函ニ注意シ清水ノ浪費及油層ノ

粘著ヲ防クヘシ

- 第六十六條 當直機關士ハ直員ノ訓練殊ニ焚火法ト注油法トニ注意シ機會アル毎ニ最モ經濟ナル石炭ノ燃燒法ト油脂ノ使用法トヲ教授スヘシ
- 第六十七條 當直機關士ハ汽走中少クモ毎日一回若シ機械力ヲ變シタルトキハ數回指壓圖ヲ撮取シ之ヲ機關長ニ呈出スヘシ但シ指壓器ハ使用ノ都度有效ナル状態ヲ保持スルヤヲ確認スヘシ
- 第六十八條 當直機關士ハ碇泊中毎日終業後全機關部ヲ巡檢シ諸弁嘴ハ閉鎖シ又ハ命令ノ如ク實行シアルコト、諸器具物品ハ定所ニ收納シアルコト、火災ノ兆ナキコト、自燃ヲ發スヘキ物ナキコト、夜中機關部ニ異變ヲ生スル患ナキコト等ヲ確認シ之ヲ機關長ニ報告スヘシ又碇泊中機關長機關部ヲ巡見スルトキハ之ニ隨從スヘシ
- 第六十九條 當直機關士ハ機械ノ回轉殊ニ試運轉ニハ必ス之ニ立會ヒ豫メ該機械ノ要部ヲ調査シ障礙物品ヲ除去スヘシ
- 第七十條 少機關士ハ機關長若クハ大機關士分隊長ニ屬シ其ノ命ヲ承ケ各其ノ長ノ職務ヲ輔佐シ又關係部員ノ進退ニ關シテハ其ノ議ニ參與スルモノトス
- 第七十一條 少機關士本艦裝載ノ水雷艇又ハ小蒸汽船掛ヲ命セラレタルトキハ機關長ノ命ヲ承ケ補機分擔ノ大機關士分隊長ノ監視ノ下ニ在リテ其ノ機關ヲ清潔有效ニ保護シ屬具ヲ整頓シ常ニ實用ニ支障ナカラシメ艦長ノ特命アルトキハ之ニ乗組出航スヘシ
- 第七十二條 副直機關士ハ當直機關士ノ職權内ニ屬スル事物ノ正確ニ處理セラル、コトニ注意スヘシ
- 第七十三條 副直機關士ハ機關ノ動作ニ注意シ故障ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ當直機關士ニ報告スヘシ
- 第七十四條 副直機關士ハ汽走中ハ常ニ機關室ヲ巡迴シ焚火、澆水及注油等ノ現狀ニ注意シ又適

當ノ交代者ヲ得ルニアラサレハ機關室ヲ離去スヘカラス

第四章 軍醫長及軍醫

(軍醫長)

- 第一條 軍醫長ハ艦長ノ命ヲ承ケ艦内ノ醫務衛生、主管兵備品ノ受給、保管及記簿報告ノ事務ヲ掌理ス
- 第二條 軍醫長ハ醫務衛生ノ事ニ關シテハ所管鎮守府若クハ艦隊軍醫長ノ監督ヲ受クヘシ
- 第三條 軍醫長ハ乗組ノ軍醫ニ軍醫長ノ職務ノ一部ヲ分擔補助セシメ且看護手及看護ヲ指揮監督シ之ヲ統轄ノ責ニ任ス
- 第四條 軍醫長ハ乗組軍醫ノ入ト爲リヲ詳知シ其ノ學術技藝ヲ發達ヲ圖リ且其ノ分擔ノ事務ヲ監視シ其ノ成績ニ關シテハ時々艦長ニ報告スヘシ
- 第五條 軍醫長ハ看護手及看護ヲ誘掖訓練シ其ノ伎倆勤怠ニ注意シ又其ノ進退ニ關シテハ其ノ議ニ參與スルモノトス
- 第六條 軍醫長ハ常ニ艦内一般ノ衛生ニ注意シ空氣、飲用水、糧食、被服其ノ他兵員ノ健康ニ關スル事件ニ就テ意見アルトキハ之ヲ艦長ニ具申スヘシ
- 第七條 軍醫長ハ空氣ノ通暢、容積、乾濕等ニ注意シ厠房、庖廚、倉庫、艦底等ノ衛生狀況ヲ詳知スヘシ
- 第八條 軍醫長ハ飲用水ノ性質ヲ検査シ不良ナルトキハ飲用ニ供スルヲ止メ又其ノ使用量及容器等ニ注意スヘシ
- 第九條 軍醫長ハ糧食品ノ貯藏保存方ニ注意シ又糧食品ヲ受入或ハ購買スルトキハ其ノ品種及品質ヲ検査スヘシ但シ貯糧品ハ給與ノ際再ヒ之ヲ検査スヘシ
- 第十條 軍醫長ハ糧食ノ調理配合等ニ注意シ配食ノ實況ヲ検査スヘシ

- 第十一條 軍醫長ハ被服器具ノ品質裁製等ノ適否ニ注意シ著服ハ季節ノ寒暖ニ適スルヤ否ヲ考察シ意見アルトキハ艦長ニ具申スヘシ
- 第十二條 軍醫長ハ其ノ艦氣候風土ノ異ナル地方ニ廻航ノ命アルトキハ豫メ乗員ノ糧食、衣服、臥具等ニ注意シ意見アルトキハ之ヲ艦長ニ具申スヘシ
- 第十三條 軍醫長ハ其ノ艦軍港ニアラサル港灣ニ著スルトキハ乗員ノ上陸ニ先ツテ其ノ地方傳染病等ノ有無及衛生ノ狀況ヲ視察シ意見ヲ艦長ニ具申スヘシ但シ先著ノ軍艦在泊スルトキハ其ノ軍醫長ニ質スモ可ナリ
- 第十四條 軍醫長ハ健康不良ノ爲メニ勞力ノ事業ニ堪ヘス或ハ處罰ノ執行ニ堪ヘスト認ムル者アルトキハ之ヲ艦長ニ申告スヘシ
- 第十五條 軍醫長ハ其艦不健康ナル港灣ニ碇泊スルトキハ必要ニ應シ風土病等ニ對スル豫防法ヲ講シ艦長ニ申告スヘシ此等ノ港灣ニ於テ乗員上陸ノ必要アルトキハ殊ニ十分ナル豫防警戒ニ注意スヘシ
- 第十六條 軍醫長ハ氣温ノ下降或ハ過劇ノ勞働ニ因リテ下士卒ニ酒精類ノ給與ヲ要スルコトアルトキハ副長ヲ經テ之ヲ艦長ニ具申スヘシ
- 第十七條 軍醫長ハ艦長、乗員及艦内ヲ點檢スルトキハ之ニ隨從スヘシ
- 第十八條 軍醫長ハ毎月第一木曜日及其ノ他必要ノ場合ニ於テ分隊長立會ノ上下士卒中治療ヲ要スル疾病ヲ隱匿スル者ノ有無ヲ檢査スヘシ
- 第十九條 軍醫長ハ毎年三月九月ノ第一木曜日及其ノ他必要ノ場合ニ於テ下士卒ノ體重ヲ秤量スヘシ
- 第二十條 軍醫長ハ毎日定時ニ患者ヲ診察シ病症ノ輕重ニ應シ就業、受療、輕業、休業等ニ區別シ之ヲ醫事日誌ニ記註シ副長ニ出スヘシ

- 第二十一條 軍醫長ハ公務ニ基因スル傷痍疾病及自企又ハ裁判上ニ涉ルモノト認ムル傷痍疾病ハ其ノ症狀ヲ審査シ現認者ニ現認證書ヲ調製セシメ負傷證書或ハ罹病證書ヲ作ルヘシ
- 第二十二條 軍醫長ハ傷痍疾病ニシテ入院治療ヲ要スル患者アルトキハ艦長ノ認可ヲ得テ病院船若クハ鎮守府病院ニ送ルヘシ
- 第二十三條 軍醫長ハ軍港ヨリ遠隔ノ地方ニ在リテ重症ノ患者アルトキハ艦長ノ認可ヲ得テ之ヲ地方病院等ニ委託シ或ハ陸上ニ病室ヲ假設シテ治療スルコトヲ得
- 第二十四條 軍醫長ハ病院等ニ送リタル患者アルトキハ時々之ニ到リ院長或ハ擔當醫員ニ患者ノ狀況ヲ問ヒ且其ノ承諾ヲ得テ之ヲ診察シ其ノ實況ヲ艦長ニ申告スヘシ
- 第二十五條 軍醫長ハ患者ノ危篤ニ陥ル者アルトキハ艦長ニ申告シ又死亡スル者アルトキハ死亡證書ヲ作リ之ヲ艦長ニ出スヘシ
- 第二十六條 軍醫長ハ死狀疑義ニ涉リ局部解剖ヲ要スル者アルトキハ艦長ニ具申シ其ノ命ニ從ヒ之ヲ施行スヘシ但シ刑事ニ關係ノ嫌疑アルトキハ主理若クハ海軍檢察官立會ノ上執行スヘシ
- 第二十七條 軍醫長ハ傳染性生殖器病ニ罹リタル患者アルトキハ艦長ノ認許ヲ得テ病中ハ勿論癒後七日間上陸ヲ止ムヘシ
- 第二十八條 軍醫長ハ下士卒乘艦スル者アルトキハ身體ヲ檢査シ又再服役ヲ志願スル者アルトキハ體格檢査ヲ行ヒ再服役願書ニ捺印スヘシ
- 第二十九條 軍醫長ハ遠洋航海ノ際ニハ乗員ノ身體檢査ヲ行ヒ遠洋航海ニ堪ヘスト認ムル者アルトキハ之ヲ艦長ニ具申シ且治療品ノ準備ヲ爲シ所管軍醫長ノ點檢ヲ受クヘシ
- 第三十條 軍醫長ハ戰闘若クハ諸操練等ノ際ハ其ノ部署ニ就キ軍醫、看護手、看護及助手ヲ指揮シテ治療ノ準備ヲ爲スヘシ
- 第三十一條 軍醫長ハ戰闘後全力ヲ盡シテ死傷者ヲ處置シ負傷者ニシテ其ノ職務ニ堪ヘサル者及

死者ノ氏名ヲ先ツ副長ニ報告シ次テ其ノ他ノ負傷者ノ經過及現状、戰闘中ノ事歴、主管物品ノ缺損其ノ他必要ノ件ヲ報告シ又軍醫部人員及主管物品ノ缺損ヲ修補シテ第二ノ戰闘ニ應スル準備ヲ爲スヘシ

第三十二條 軍醫長ハ傷者運搬及應急治療等ノコトニ關シ下士卒ノ教育ヲ分任スヘシ

第三十三條 軍醫長ハ疾病ノ傳染性ナルト否トヲ問ハス一時ニ多數ノ乘員ヲ襲ヒ流行ノ兆アルトキハ其ノ原因ヲ探究シ艦長ノ認可ヲ得テ適應ノ豫防法ヲ行フヘシ

第三十四條 軍醫長ハ其ノ艦碇泊ノ地方ニ傳染病アルトキハ艦長ニ具申シ其ノ認許ヲ得テ必要ト認ムル豫防法ヲ乘員一般ニ訓諭シ艦内ノ清潔法ヲ嚴密ニ實行シ乘員ノ上陸ヲ止メ或ハ飲食品ノ搭載ヲ禁止スヘシ

第三十五條 軍醫長ハ艦内ニ傳染病ニ罹ル者アルトキハ速ニ艦長ニ申告シ之ヲ他ニ送り或ハ適當ノ場所ニ隔離シ艦長ニ請求シテ之ニ番兵ヲ附シ交通ヲ嚴禁シ治療スヘシ又必要ナルトキハ近接者ヲ若干日間適當ノ場所ニ隔離シ患者ノ被服臥具其ノ他病毒傳染ノ虞アルモノハ充分ニ消毒スヘシ

第三十六條 軍醫長ハ艦内ニ傳染病發生シ艦内全部ノ消毒ヲ要スルモノト認ムルトキハ速ニ艦長ニ具申シ其ノ命ヲ承ケ之ヲ實施スヘシ

第三十七條 軍醫長ハ新乘艦或ハ歸艦人員中未タ疾病ノ徵ヲ呈セサルモ傳染病流行地ヲ發シ或ハ通過シ若クハ傳染病患者ニ近接シタル者ニシテ病毒潛伏ノ虞アリト認ムル者アルトキハ艦長ノ認可ヲ得テ其ノ身體及衣服携帶品ニ消毒ヲ行ヒ若干日間適當ノ場所ニ隔離セシムヘシ

第三十八條 軍醫長ハ毎年十二月ニ於テ乘員中種痘後五箇年ヲ經タル者ニハ種痘ヲ施スヘシ

第三十九條 軍醫長ハ毎月治療品及病用品ヲ調査シ修補引換等ヲ要スルモノアルトキハ速ニ之ヲ處分スヘシ

第四十條 旗艦ノ軍醫長艦隊條例第二十一條ニ依リ命ヲ承クルトキハ艦隊職員勤務令中軍醫長ノ職務ニ關スル事項ノ全部若クハ一部ヲ執行スヘシ

第四十一條 軍醫長其ノ職ヲ退クトキハ主管ノ事務ヲ整理シ事務分擔ノ現状及簿冊、文書、物品ヲ新任軍醫長ニ引繼キ共ニ之ヲ艦長ニ報告スヘシ

第四十二條 水雷母艦ノ軍醫長ハ附屬水雷敷設隊水雷艇隊ノコトニ關シテハ水雷團職員勤務令ニ掲クル軍醫長ノ職務ヲ行フヘシ

第四十三條 水雷母艦ノ軍醫長ハ適用シ得ル限り本章第一條乃至第四十一條ノ規程ニ依ルヘシ

第四十四條 軍醫長ハ其ノ艦豫備艦ニ編入セラレタルトキハ主管物品ヲ處分シ若シ軍醫長ヲ置カレサルトキハ必要ナル書類ヲ豫備艦部長ニ引繼クヘシ

第四十五條 豫備艦ノ軍醫長ハ主管ノ物品ヲ整理シ常ニ就役準備ノ迅速正確ニ行ハルコトニ注意スヘシ

第四十六條 豫備艦ノ軍醫長ハ適用シ得ル限り本章第一條乃至第四十一條ノ規程ニ依ルヘシ

(軍醫)

第四十七條 軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ軍醫長ノ職務ヲ輔佐シ關係部員ノ勦陟進退ニ關シテハ其ノ職ニ參與スルモノトス

第四十八條 前任軍醫ハ平素軍醫長ヲ輔佐シ又一朝必要ニ際會スルトキハ直ニ之ニ代リテ其ノ職務ニ當リ艦長ノ企望ヲ完カラシムルニ於テ遺憾ナカラシムルノ覺悟アルヲ要ス

第四十九條 軍醫其ノ職ヲ退クトキハ軍醫長立會リ上其ノ分擔ノ事務ヲ新任者ニ引繼クヘシ但シ場合ニ依リ軍醫長ニ引繼キ退艦スルコトヲ得

第五十條 軍醫長及軍醫ハ本令ノ外海軍軍醫官服務細則ニ依リ服務スヘシ

第五章 主計長及主計

(主計長)

- 第一條 主計長ハ艦長ノ命ヲ承ケ現金ノ出納、主管兵備品ノ受給、保管及整理ノ事務ヲ掌理シ又庶務ヲ擔任ス
- 第二條 主計長ハ乗組ノ主計ニ主計長ノ職務ヲ分擔補助セシメ且筆記、廚宰及主廚ヲ指揮監督シ之ヲ統轄ノ責ニ任ス
- 第三條 主計長ハ乗組主計ノ人ト爲リヲ詳知シ主計長タルヘキ職務ヲ知ラシムルノ機會ヲ與ヘ且分擔ノ事務ヲ監視シ其ノ成績ニ關シテハ時々艦長ニ報告スヘシ
- 第四條 主計長ハ筆記、廚宰及主廚ヲ誘掖訓練シ其ノ伎倆勳怠ニ注意シ其ノ黜陟進退ニ關シテハ其ノ議ニ參與スルモノトス
- 第五條 主計長ハ常ニ保管現金ノ數額及守護ニ注意シ巨額ノ現金ヲ艦内若クハ艦外ニ搬移セントスルトキハ相當ノ保護ヲ艦長ニ請ヒ之ヲ施行スヘシ
- 第六條 主計長ハ艦長ノ命アルトキハ現金貯藏額及出納ノ帳簿書類ヲ艦長ノ點檢ニ供スヘシ
- 第七條 主計長ハ主管兵備品ノ貯藏額ト其ノ保存法トニ注意シ常ニ供給ニ不足ナカラシメ屢々倉庫ヲ巡視シ不完全ナル箇所ヲ發見スルトキハ速ニ之ヲ改メ若シ倉庫ノ交換若クハ積換ヘテ要スルトキハ航海長ニ協議シ艦長ノ許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ
- 第八條 主計長ハ勉メテ需品ノ支出ヲ節約スヘシ
- 第九條 主計長ハ糧食品ヲ受入若クハ購買スルトキハ軍醫長ト共ニ現品ヲ點檢シ之カ良否及分量ヲ検査スヘシ
- 第十條 主計長ハ金櫃ノ鍵ヲ自己ニ携帶保管スヘシ
- 第十一條 主計長ハ乘組ノ主計若クハ筆記ヲシテ法規廢改ノ都度之ヲ訂正セシメ且本艦乘員ノ名簿ヲ檢査スヘシ

ヲ整頓セシムヘシ

- 第十一條 主計長ハ艦長若クハ本艦ノ名ヲ以テ發送スル文書ヲ取扱フヘシ但シ他ノ職員ノ主務ニ關スル文書ノ起案ハ各其ノ主務者ニ於テ之ヲ行ヒ艦長ノ特命アル場合ノ外ハ主計長ハ之ヲ爲ササルモノトス
- 第十二條 主計長ハ公務ノ通信ヲ爲ス場合ニハ左ノ各項ニ注意スルヲ要ス
 - 一 公文書類ノ調製方ハ各其ノ成規ニ從フコト
 - 二 後來ノ参照トナルヘキ公文書類ハ控ヲ取り艦長ノ檢印ヲ受ルコト
 - 三 同一ノ場所ニ送附スヘキ公文書類ハ成ルヘク一纏メト爲シ發送スルコト
 - 四 郵船ノ發着時日ヲ確カムルコト
- 第十三條 主計長ハ公文書類ヲ保管スヘシ
- 第十四條 主計長ハ公文書類ヲ接受シタルトキハ左ノ各項ニ依リ處分スヘシ
 - 一 艦長宛ノ親展書類ハ直ニ艦長ニ致シ其ノ指揮ヲ受ケテ處分スヘシ
 - 二 艦長宛及艦名宛ノ書類ハ直ニ之ヲ開封シ艦長ノ指揮ヲ受ケテ處分スヘシ
 - 三 官報、達書類ハ直ニ之ヲ開披シ艦長及副長ノ檢印ヲ受ケタル後關係者ニ回覽ヲ要スルモノハ通覽檢印ヲ經タル後編綴スヘシ
- 第十五條 主計長ハ艦長、乘員及艦内ヲ點檢スルトキハ之ニ隨從スヘシ
- 第十六條 主計長ハ戰闘若クハ操練ノ際ハ其ノ部署ニ就キ所定ノ事業ニ從ヒ又時機ニ應ジ艦長ノ許可ヲ得テ廚宰及主廚ヲシテ其ノ部署ヲ離レ專ラ糧食ノ供給ニ從事セシムヘシ
- 第十七條 主計長ハ戰闘後速ニ主管兵備品ノ缺損ヲ調査シ之ヲ副長ニ報告シ且其ノ急需ニ應ジ之ヲ修補シ第二ノ戰闘ニ應スルノ準備ヲ爲スヘシ
- 第十八條 主計長其ノ職ヲ退クトキハ主管ノ事務ヲ整頓シ官金及計算書類ハ艦長ノ立會ヲ得テ之

ヲ新任主計長ニ引繼キ又事務分擔ノ現況及一切ノ簿冊、文書、物品ヲ新任主計長ニ交付シ共ニ之ヲ艦長ニ報告スヘシ

第十九條 水雷母艦ノ主計長ハ附屬水雷敷設隊水雷艇隊ノコトニ關シテハ水雷團職員勤務令ニ掲クル主計長ノ職務ヲ行フヘシ

第二十條 水雷母艦ノ主計長ハ適用シ得ル限り本章第一條乃至第十八條ノ規程ニ依ルヘシ

第二十一條 主計長ハ其ノ艦豫備艦ニ編入セラレタルトキハ其區別、物件ノ處置及定員ノ種別ニ應シ現金物品ヲ處分シ若シ主計長ヲ置カレサルトキハ必要ナル書類ヲ鎮守府監督部長ニ保管ヲ託スヘシ

前項ノ艦ニ再ヒ主計長ヲ置カル、トキハ主計長ハ鎮守府監督部長ヨリ必要書類ノ交附ヲ受クヘシ

第二十二條 豫備艦ノ主計長ハ主管ノ物品ヲ整頓シ常ニ就役準備ノ迅速正確ニ行ハル、コトニ注意スヘシ

第二十三條 豫備艦ノ主計長ハ適用シ得ル限り本章第一條乃至第十八條ノ規程ニ依ルヘシ

(主計)

第二十四條 主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ主計長ノ職務ヲ分擔補助スヘシ但シ分擔ノ事務ニ關シテハ主計長ニ對シ其ノ責ニ任ス

主計ハ關係部員ノ勲陞進退ニ關シテハ其ノ議ニ參與スルモノトス

第二十五條 先任主計ハ平素主計長ヲ輔佐シ又一朝必要ニ際會スルトキハ直ニ之ニ代リテ其ノ職務ニ當リ艦長ノ企望ヲ完カラシムルニ於テ遺憾ナカラシムルノ覺悟アルヲ要ス

第二十六條 後任主計ハ戰闘若クハ諸操練等ノ際ハ艦長ニ隨從シ其ノ命ヲ承ケ一般ノ狀況ヲ筆記スヘシ

第二十七條 主計其ノ職ヲ退クトキハ主計長立會ノ上其ノ分擔ノ事務ヲ新任者ニ引繼グヘシ但シ場合ニ依リ主計長ニ引繼キ退艦スルコトヲ得

第六章 准士官

(掌砲長)

第一條 掌砲長ハ砲術長ノ命ヲ承ケ砲術長主管ノ兵備品ヲ守護シ其ノ手入掃除ヲ監督シ其ノ取扱方法ノ制規ニ戻ラサルヤニ注意シ彈藥庫ヲ整頓シ砲術科諸倉庫ヲ管理シ又其ノ分擔ニ屬スル需品ヲ受給スヘシ

第二條 掌砲長ハ常ニ砲術長主管ノ兵器ノ現狀ヲ熟知シ時々精密ナル調査ヲ行ヒ若シ其ノ實用ニ適セサルモノアルトキハ速ニ之ヲ砲術長ニ申告スヘシ

第三條 掌砲長ハ彈藥庫ノ開閉ニハ必ス自ラ之ニ臨ミ又其ノ開放中ハ掌砲長屬ノ補助ヲ得テ常ニ之ヲ臨監シ制規ノ警戒法ノ勵行ヲ監督スヘシ

第四條 掌砲長ハ常ニ彈藥庫及燈室内ノ現狀ヲ熟知シ常ニ濕沾危險等ノ患ナキコトヲ確認シ若シ其ノ故障ヲ發見スルトキハ速ニ砲術長ニ申告シ之ヲ豫防スヘシ

第五條 掌砲長ハ砲術長主管ノ兵器及需品ノ收受及返付ニ際シテハ其ノ物質竝ニ數額ヲ精密ニ調査スヘシ

第六條 掌砲長ハ其ノ分掌ノ器具物品ヲ保管シ又需品ハ勉メテ之ヲ節約シ之ニ關スル諸帳簿ハ毎週砲術長ノ檢査ヲ受クヘシ

第七條 掌砲長ハ砲術ニ關スル諸報告ヲ調製シ之ヲ砲術長ニ呈出スヘシ

第八條 掌砲長ハ砲術長ノ監督ヲ受ケ砲術ノ教授ニ關スル事務ヲ分掌シ又砲術長ノ命ヲ承ケ下士卒ノ教育ヲ分掌スヘシ

第九條 掌砲長ハ砲術教員掌砲長屬以下ノ分掌ノ職務ニ對シ之ヲ監督シ又其ノ行狀伎倆ヲ詳知ス

- 第十條 掌砲長ハ艦長若クハ副長艦内ヲ點檢スルトキハ之ニ隨從スヘシ
- 第十一條 掌砲長ハ救難浮標ヲ保護シ毎週其ノ故障ナク落下スルヤ否ヤヲ實驗シ又航海中夜間ハ火英、晝間ハ赤旗ヲ之ニ裝著シ其ノ都度之ヲ當直士官ニ報告スヘシ
- 第十二條 掌砲長ハ航海中夜間ハ救助艇用具箱ヲ各救助艇ニ備ヘ之ヲ當直士官ニ報告スヘシ
- 第十三條 掌砲長ハ軍事點檢、砲具點檢、倉庫點檢等ノ令アルトキハ其ノ分掌諸部ノ點檢ヲ砲術長ニ報告スヘシ
- 第十四條 掌砲長ハ航海中時々大砲ノ固縛、砲門ノ固縛其ノ他砲術科ノ移動物品ノ固縛ヲ檢シ夜間ハ掌砲長屬ノ補助ヲ得テ時々其ノ現狀ヲ當直士官ニ報告スヘシ
- 第十五條 掌砲長ハ砲術科ニ屬スル豫備兵器及物品ヲ管理シ常ニ之ヲ清潔有效ニ保護スヘシ
- 第十六條 掌砲長ハ戰闘ニ際シテハ專ラ彈藥ノ供給ヲ監督シ又砲術科諸要具ノ支出ヲ掌ルヘシ
- 第十七條 掌砲長ハ戰闘後砲術長主管ノ兵器需品ノ毀損ヲ調査シ之ヲ砲術長ニ報告シ其ノ命ヲ承ケ之カ修補ニ從事スヘシ
- 第十八條 掌砲長其ノ職ヲ退クトキハ其ノ分擔需品ノ現額、關係簿冊及分掌事務ヲ新任掌砲長ニ引繼キ共ニ之ヲ砲術長ニ報告スヘシ
- 第十九條 水雷母艦ノ掌砲長ハ掌砲長ノ職務ニ關スル前諸條ノ事項ノ外砲術長ノ命ヲ承ケ附屬水雷敷設隊水雷艇隊ニ彈藥及掌砲科ノ需品ヲ支給スル事務ヲ掌ルヘシ
- 第二十條 豫備艦ノ掌砲長ハ掌砲長ノ職務ニ關スル前諸條ノ事項ノ外砲術長ノ命ヲ承ケ常ニ就役準備ノ迅速正確ニ行ハル、コトニ注意スヘシ

(掌水雷長)

第二十一條 掌水雷長ハ水雷長ノ命ヲ承ケ水雷長主管ノ兵備品中機關長ノ管理ニ屬セサルモノニ

- 切ヲ守護シ其ノ手入掃除ヲ監督シ其ノ取扱方法ノ制規ニ扨ラサルヤニ注意シ水雷藥庫ヲ整頓シ水雷科諸倉庫ヲ管理シ又其ノ分擔ニ屬スル需品ヲ受給スヘシ
- 第二十二條 掌水雷長ハ常ニ水雷長主管ノ兵器ノ現狀ヲ熟知シ時々精密ナル調査ヲ行ヒ若シ其ノ實用ニ適セサルモノアルトキハ速ニ之ヲ水雷長ニ申告スヘシ
- 第二十三條 掌水雷長ハ水雷藥庫ノ開閉ニハ必ス自ラ之ニ臨ミ又其ノ開放中ハ掌水雷長屬ノ補助ヲ得テ常ニ之ヲ臨監シ制規ノ警戒法ノ勵行ヲ監督スヘシ
- 第二十四條 掌水雷長ハ常ニ水雷藥庫及燈室内ノ現狀ヲ熟知シ常ニ濕沾危險等ノ患ナキコトヲ確認シ若シ其ノ故障ヲ發見スルトキハ速ニ水雷長ニ申告シ之ヲ豫防スヘシ
- 第二十五條 掌水雷長ハ水雷長主管ノ兵器及需品ノ收受及返付ニ際シテハ其ノ物質竝ニ數額ヲ精密ニ調査スヘシ
- 第二十六條 掌水雷長ハ其ノ分掌ノ器具物品ヲ保管シ又需品ハ勉メテ之ヲ節約シ之ニ關スル諸帳簿ハ每週水雷長ノ檢査ヲ受クヘシ
- 第二十七條 掌水雷長ハ水雷ニ關スル諸報告ヲ調製シ之ヲ水雷長ニ呈出スヘシ
- 第二十八條 掌水雷長ハ水雷長ノ監督ヲ受ケ水雷術ノ教授ニ關スル事務ヲ分掌シ又水雷長ノ命ヲ承ケ下士卒ノ教育ヲ分掌スヘシ
- 第二十九條 掌水雷長ハ水雷術教員掌水雷長屬以下ノ分掌職務ニ對シ之ヲ監督シ又其ノ行狀伎倆ヲ詳知スヘシ
- 第三十條 掌水雷長ハ艦長若クハ副長艦内ヲ點檢スルトキハ之ニ隨從スヘシ
- 第三十一條 掌水雷長ハ軍事點檢、水雷用具點檢、倉庫點檢等ノ令アルトキハ其ノ分掌諸部ノ點檢ヲ水雷長ニ報告スヘシ
- 第三十二條 掌水雷長ハ航海中時々發射管ノ固縛及發射管ノ前扉、水雷取入口ノ固縛其ノ他水雷

科ノ移動物品ノ固縛ヲ檢シ夜間ハ掌水雷長屬ノ補助ヲ得テ時々其ノ現状ヲ當直士官ニ報告スヘシ

第二十三條 掌水雷長ハ水雷科ニ屬スル豫備兵器及物品ヲ管理シ常ニ之ヲ清潔有效ニ保護スヘシ
第二十四條 掌水雷長ハ戰鬥ニ際シテハ專ラ水雷ノ正當迅速ニ供給セラレ且裝填セラルハヤヲ監督シ又水雷科諸要具ノ支出ヲ掌ルヘシ

第二十五條 掌水雷長ハ戰鬥後水雷長主管ノ兵器諸品ノ毀損ヲ調査シ之ヲ水雷長ニ報告シ其ノ命ヲ承ケ之ヲ修補ニ從事スヘシ

第二十六條 掌水雷長其ノ職ヲ退クトキハ其ノ分擔諸品ノ現額、關係簿冊及分掌事務ヲ新任掌水雷長ニ引繼キ共ニ之ヲ水雷長ニ報告スヘシ

第二十七條 水雷母艦ノ掌水雷長ハ掌水雷長ノ職務ニ關スル前諸條ノ事項ノ外水雷長ノ命ヲ承ケ附屬水雷隊隊水雷艇隊ニ水雷及水雷科ノ諸品ヲ支給スル事務ヲ掌ルヘシ

第二十八條 豫備艦ノ掌水雷長ハ掌水雷長ノ職務ニ關スル前諸條ノ事項ノ外水雷長ノ命ヲ承ケ常ニ就役準備ノ迅速正確ニ行ハル、コトニ注意スヘシ

(掌帆長)

第二十九條 掌帆長ハ副長及航海長ノ命ヲ承ケ帆網、錨、錨鎖其ノ他船體屬具及船具一切ヲ守護シ其ノ手入掃除ヲ監督シ帆庫、鎖庫及掌帆科諸倉庫ヲ管理整頓シ又其ノ分擔ニ屬スル諸品ヲ受給スヘシ

第四十條 掌帆長ハ常ニ其ノ守護ニ屬スル船體、屬具及物品ノ現状ヲ熟知シ時々精密ナル調査ヲ行ヒ若シ其ノ實用ニ適セサルモノアルトキハ速ニ之ヲ副長ニ申告スヘシ

第四十一條 掌帆長ハ其ノ分擔ニ屬スル物品ノ收受及返付ニ際シテハ其ノ物質竝ニ數額ヲ精密ニ調査スヘシ

第四十二條 掌帆長ハ其ノ分掌ノ器具物品ヲ保管シ又需品ハ勉メテ之ヲ節約シ之ニ關スル諸帳簿ハ每週航海長ノ檢査ヲ受クヘシ

第四十三條 掌帆長ハ先任大尉分隊長ノ監督ヲ受ケ運用術ノ教授ニ關スル事務ヲ分掌シ又先任大尉分隊長ノ命ヲ承ケ運用術ニ關スル下士卒ノ教育ヲ分掌スヘシ

第四十四條 掌帆長ハ掌帆長屬、船艙手、帆縫手ノ職務及下士卒中各部ノ長及部員トシテ又小蒸汽船竝ニ端舟ノ長及艇員トシテノ職務ニ對シ之ヲ監督シ且其ノ性行伎倆ヲ詳知スヘシ

信號掛タル上等兵曹ヲ置カサル艦ニ在リテハ掌帆長ハ按針手、信號兵曹及信號兵ノ職務ヲ監督シ且其ノ性行伎倆ヲ詳知スヘシ

第四十五條 掌帆長ハ衛兵、掃除番、給仕、出迎、取次、釣床掛、士官釣床掛、内外舷掛、食卓番、甲板洗淨用具掛、守燈夫、厨番、信號助手、流シ當番其ノ他兵曹若クハ水兵ヲ以テ充ツル艦内役員ヲ選定若クハ改選スルニ當リテハ副長、衛兵司令又ハ甲板掛士官ノ諮問ニ答フヘシ

第四十六條 掌帆長ハ常ニ艦ノ内外及橋上ノ清潔、整備ニ注意シ掌砲科及掌水雷科ノ事業ノ外ハ總テ艦ノ内外及橋上ニ於ケル水兵部下士卒ノ事業及動作ヲ監督スヘシ

第四十七條 掌帆長ハ艦長若クハ副長艦内ヲ點檢スルトキハ之ニ隨從スヘシ

第四十八條 掌帆長ハ軍事點檢、倉庫點檢等ノ令アルトキハ其ノ分掌諸部ノ整頓ヲ航海長ニ報告スヘシ

第四十九條 掌帆長ハ航海中毎日朝直ニ於テ自ラ帆、索及橋上各部ヲ檢シ之ヲ副長及當直士官ニ報告スヘシ

第五十條 掌帆長ハ航海中救助艇ノ準備ヲ檢シ毎夕之ヲ當直士官ニ報告スヘシ

第五十一條 掌帆長ハ航海中時々圓材、錨、錨鎖、揚錨機、端艇其ノ他兵器ニアラサル一切物品ノ固縛、ホーズホール、ターボライイン等ノ固縛、索具ノ整頓等ヲ檢シ夜間ハ掌帆長屬及各部ノ長ノ補助ヲ得テ時々其ノ現状ヲ當直士官ニ報告スヘシ

助ヲ得テ時々其ノ現狀ヲ當直士官ニ報告スヘシ

第五十二條 掌帆長ハ其ノ分擔ニ屬スル豫備器具物品ヲ常ニ清潔有效ニ保護スヘシ

第五十三條 掌帆長ハ戰闘ニ際シテハ專ラ補索手ヲ指揮シ圓材索具ノ應急處分、防火、防水及傷者運搬ノコトヲ擔任シ又掌帆科諸要具物品ノ支出ヲ掌ルヘシ

第五十四條 掌帆長ハ戰闘後其ノ分擔ニ屬スル船體屬具及物品ノ毀損ヲ調査シ之ヲ副長ニ報告シ其ノ命ヲ承ケ之カ修補ニ從事スヘシ

第五十五條 掌帆長其ノ職ヲ退クトキハ其ノ分擔需品ノ現額、關係簿冊及分掌事務ヲ新任掌帆長ニ引繼キ共ニ之ヲ副長ニ報告スヘシ

第五十六條 水雷母艦ノ掌帆長ハ掌帆長ノ職務ニ關スル前諸條ノ外航海長ノ命ヲ承ケ附屬水雷敷設隊水雷艇隊ニ掌帆科ノ需品ヲ支給スル事務ヲ掌ルヘシ

第五十七條 豫備艦ノ掌帆長ハ掌帆長ノ職務ニ關スル前諸條ノ外航海長ノ命ヲ承ケ常ニ就役準備ノ迅速正確ニ行ハル、コトニ注意スヘシ

(上等兵曹)

第五十八條 上等兵曹ハ其ノ艦ニ裝載セル主砲若クハ砲塔ノ長トナルトキハ其ノ部署ノ長ノ命ヲ承ケ部下砲員ヲ指揮訓練シ且其ノ性行伎倆ヲ詳知シ常ニ其ノ擔任ノ砲塔及砲竝ニ之ニ附屬スル裝置ノ整備保存ニ注意シ實用ニ當リ聊モ遺憾ナカラシムルコトヲ努ムヘシ

第五十九條 上等兵曹ハ其ノ艦ニ裝載セル水雷艇ノ掛ヲ命セラル、トキハ艇長ノ命ヲ承ケ艇員ヲ指揮シ船體及屬具兵器物品一切ヲ整備シ常ニ之ヲ清潔有效ニ保存スルコトニ注意シ其ノ出航ニ際シテハ之ニ乗込ミ水雷艇掛尉官ノ命ヲ承ケ服務スヘシ

第六十條 上等兵曹ハ信號掛ヲ命セラル、トキハ航海長ノ命ヲ承ケ接針手、信號兵曹及信號兵ノ職務ヲ監督シ其ノ性行伎倆ヲ詳知シ又艦長、副長、航海長若クハ當直士官ノ命ヲ承ケ接針及信號ノコトヲ掌ルヘシ

第六十一條 艦隊增加定員ノ上等兵曹信號掛ヲ命セラル、トキハ航海長ノ命ヲ承ケ艦隊增加定員ノ信號兵曹及信號兵ノ職務ヲ監督シ其ノ性行伎倆ヲ詳知シ又艦長、副長、航海長若クハ當直士官又ハ司令官若クハ其ノ幕僚タル將校ノ命ヲ承ケ信號ノコトヲ掌ルヘシ

第六十二條 掌砲長、掌水雷長、掌帆長ニアラサル上等兵曹ハ戰闘及其ノ他ノ業務諸操練諸事業ニ當リテハ各其ノ部署及命令ニ依リ所定ノ事ニ從事シ又航海長、砲術長若クハ水雷長ノ命ヲ承ケ下士卒ノ教育ヲ分掌スヘシ

(船匠師)

第六十三條 船匠師ハ副長ノ命ヲ承ケ機關室及石炭庫外ノ船體、圓材、端艇及艦ノ内外諸造作ヲ守護シ其ノ保存ヲ監督シ機關室外ノ人力諸唧筒及附屬用具竝ニ潛水器ヲ整頓シ其ノ手入掃除ヲ監督シ塗具庫其ノ他船匠科倉庫ヲ管理シ又其ノ分擔ニ屬スル需品ヲ受給スヘシ

第六十四條 船匠師ハ常ニ其ノ守護ニ屬スル船體諸造作及物品ノ現狀ヲ熟知シ時々精密ナル調査ヲ行ヒ若シ其ノ實用ニ適セサルモノアルトキハ速ニ之ヲ副長ニ申告スヘシ

第六十五條 船匠師ハ其ノ分擔ニ屬スル物品ノ收受及返付ニ際シテハ其ノ物質竝ニ數額ヲ精密ニ調査スヘシ

第六十六條 船匠師ハ其ノ分掌ノ器具物品ヲ保管シ又需品ハ勉メテ之ヲ節約シ之ニ關スル諸帳簿ハ每週航海長ノ検査ヲ受クヘシ

第六十七條 船匠師ハ航海長ノ監督ヲ受ケ船匠及木工術ノ教授ニ關スル事務ヲ分掌シ又航海長ノ命ヲ承ケ下士卒ノ教育ヲ分掌スヘシ

第六十八條 船匠師ハ船匠手及木工ノ分掌ノ職務ニ對シ之ヲ監督シ又其ノ行狀伎倆ヲ詳知スヘシ

第六十九條 船匠師ハ船匠手及木工ヲ指揮シ其ノ守護ニ屬スル各部ノ破損ヲ修理シ其ノ事業及動作ヲ監督スヘシ

第七十條 船匠師ハ艦長若クハ副長艦内ヲ點檢スルトキハ之ニ隨從スヘシ

第七十一條 船匠師ハ軍事點檢、倉庫點檢等ノ令アルトキハ其ノ分掌諸部ノ整頓ヲ航海長ニ報告スヘシ

第七十二條 船匠師ハ航海中毎日朝直ニ於テ自ラ圓材及船體各部ヲ檢シ之ヲ副長及當直士官ニ報告スヘシ

第七十三條 船匠師ハ船匠手ノ補助ヲ得テ平常ノ場合ハ碇泊中ハ一日二回、航海中ハ毎四時間ニ艦底中機關部外ノ汚水ノ量ヲ檢シ之ヲ當直士官ニ報告スヘシ又軍事點檢ノ際ハ航海長ニ報告スヘシ

第七十四條 船匠師ハ艦内主務諸員ヨリ木材ノ工作ニ關スル請求ヲ受クルトキハ副長ノ命ヲ承ケ之ニ應スヘシ

第七十五條 船匠師ハ其ノ分擔ニ屬スル豫備器具及物品ヲ常ニ清潔有效ニ保護スヘシ

第七十六條 船匠師ハ戰闘ニ際シテハ船匠手及木工ヲ指揮シ防火、防水及船體竝ニ諸造作部破損ノ應急處分ノ事ヲ擔任シ又船匠科諸要具物品ノ支出ヲ掌ルヘシ

第七十七條 船匠師ハ戰闘後其ノ分擔ニ屬スル船體及其ノ屬具竝ニ諸物品ノ毀損ヲ調査シ之ヲ副長ニ報告シ其ノ命ヲ承ケ之カ修補ニ從事スヘシ

第七十八條 船匠師其ノ職ヲ退クトキハ其ノ分擔諸品ノ現額、關係簿冊及分掌事務ヲ新任船匠師ニ引繼キ共ニ之ヲ航海長ニ報告スヘシ

第七十九條 水雷母艦ノ船匠師ハ船匠師ノ職務ニ關スル前諸條ノ事項ノ外航海長ノ命ヲ承ケ附屬水雷敷設隊水雷艇隊ニ船匠科ノ需品ヲ支給スル事務ヲ掌リ又副長ノ命ヲ承ケ附屬水雷敷設隊水

雷艇隊ニ屬スル木材ノ工作ヲ行フヘシ

第八十條 豫備艦ノ船匠師ハ船匠師ノ職務ニ關スル前諸條ノ事項ノ外航海長ノ命ヲ承ケ常ニ就役準備ノ迅速正確ニ行ハル、コトニ注意スヘシ

(軍樂師)

第八十一條 軍樂師ハ軍樂手及軍樂生ヲ指揮シ當直士官若クハ衛兵司令ノ命ヲ承ケ奏樂ノ事ヲ掌ル

第八十二條 軍樂師ハ軍樂手及軍樂生ヲ統御シ其ノ行狀伎倆ヲ詳知シ又樂器ノ手入保存ヲ監督スヘシ

第八十三條 軍樂師ハ時々樂器ノ檢查ヲ行ヒ武器點檢ノトキハ自ラ軍樂手及軍樂生ヲ號令シ其ノ成績ヲ所屬分隊長ニ報告スヘシ

第八十四條 軍樂師ハ艦長若クハ副長、軍樂手及軍樂生ヲ點檢スルトキハ之ニ隨從スヘシ

第八十五條 軍樂師ハ戰闘及諸操練ノ際ハ所定ノ部署ニ就キ部署ノ長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ

第八十六條 軍樂師ハ軍樂手及軍樂生ノ技術ノ發達進歩ヲ圖リ副長ノ命ヲ承ケ軍樂ノコトニ關シ其ノ教育ニ任スヘシ

第八十七條 軍樂師其ノ職ヲ退クトキハ所要ノ事項ヲ新任軍樂師ニ引繼キ共ニ之ヲ副長ニ報告スヘシ

第八十八條 前諸條ノ外軍樂師ハ艦長ノ定メタル部署及規程ニ依リ服務スヘシ

(上等機關兵曹)

第八十九條 上等機關兵曹ハ機關長ノ指定ニ依リ大機關士分隊長ニ屬シ船體、機關、兵器、物品ヲ分掌シ其ノ取扱保存及修理ノ事ニ於テ各所屬大機關士分隊長ヲ輔佐シ又交番當直ノ勤務ニ服スヘシ

- 第九十條 上等機關兵曹ハ需品掛ヲ命セテレタルトキハ機關長主管ノ需品ヲ分擔シ其ノ帳簿ヲ整頓シ之ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理シ又需品ハ勉メテ之ヲ節約スヘシ
- 第九十一條 上等機關兵曹ハ常ニ其ノ分掌ニ屬スル船體、機關、兵器及物品ノ現狀ヲ熟知シ時々精密ナル調査ヲ行ヒ若シ其ノ實用ニ適セサルモノアルトキハ速ニ之ヲ所屬機關士ニ申告スヘシ
- 第九十二條 上等機關兵曹ハ其ノ分擔ニ屬スル物品ノ收受及返附ニ際シテハ其ノ物質並ニ數額ヲ精密ニ調査スヘシ
- 第九十三條 上等機關兵曹ハ機關長若クハ大機關士分隊長ノ監督ヲ承ケ機關學及工業ノ教授ニ關スル事務ヲ分掌シ又機關長ノ命ヲ承ケ下士卒ノ教育ヲ分掌スヘシ
- 第九十四條 上等機關兵曹ハ機關兵曹、機關兵、鍛冶手、鍛冶ノ職務ヲ監督シ又其ノ行狀伎倆ヲ詳知スヘシ
- 第九十五條 上等機關兵曹ハ艦長若クハ副長、機關長ノ管理若クハ監視ニ屬スル部分ヲ點檢スルトキハ所屬機關分隊長分擔ノ部分ニ限リ之ニ隨從スヘシ又碇泊中當直タルトキ機關長若クハ當直機關士機關部ヲ巡見スルトキハ之ニ隨從スヘシ
- 第九十六條 需品掛ノ上等機關兵曹ハ倉庫點檢ノ令アルトキハ其ノ整頓ヲ機關長ニ報告スヘシ
- 第九十七條 上等機關兵曹ハ毎朝一回又必要ノトキハ屢々分掌ノ船體、機關、兵器、物品ノ現狀ヲ視閱シ之ヲ機關長及所屬大機關士分隊長ニ報告スヘシ
- 第九十八條 上等機關兵曹ハ工業掛ヲ命セラレタルトキハ機關長ノ命ヲ承ケ機關兵曹鍛冶手以下ノ掛員ヲ指揮シ金物一切ニ關スル工業ヲ掌ルヘシ
- 第九十九條 上等機關兵曹ハ戰闘後其ノ分掌ニ屬スル船體、機關、兵器及物品ノ毀損ヲ調査シ之ヲ

- 所屬大機關士分隊長ニ報告シ其ノ命ヲ承ケ之カ修補ニ從事スヘシ
- 第一百條 炭庫受持ノ上等機關兵曹ハ石炭積入口開放ノ都度之ヲ閉鎖スルニ當リ最モ嚴重ニ其ノ水密ナルヤ否ヤニ注意シ必ス自ラ之ヲ檢查シテ之ヲ當直機關士ニ報告スヘシ
- 第一百一條 上等機關兵曹ハ給仕、食卓番、守燈夫、廁番其ノ他機關兵ヲ以テ充ツル艦内役員ヲ選定若クハ改選スルニ當リテハ副長、機關長又ハ甲板掛士官ノ諮問ニ答フヘシ
- 第一百二條 上等機關兵曹ハ當直中常ニ機關室ニ在リテ機關兵曹以下ノ作業及勳怠ヲ監督シ又需品ノ節約ニ注意シ精密ニ機關ノ動作ニ注意シ若シ異變ヲ生シタルカ若クハ異變ノ兆アルヲ發見スルトキハ速ニ之ヲ當直機關士ニ報告スヘシ但シ事ノ猶豫スヘカラサルモノハ適宜之ヲ處置シ同時ニ當直機關士ニ報告スヘシ
- 第一百三條 上等機關兵曹ハ汽走若クハ汽罐點火中ニ當直スルトキハ屢々各部ヲ巡見シ油脂ノ供給用水ノ補充及焚火法ニ關スル命令ノ嚴密ニ執行セラル、ヤヲ檢查スヘシ
- 第一百四條 上等機關兵曹ハ當直中當直機關士所在ノ場所ニ遠隔セル部分ノ汽機動作部ニ灌水シ若クハ給水ヲ停止スル等ノ必要ヲ認ムル場合ニ於テハ臨機ノ處置ヲ爲シ同時ニ當直機關士ニ報告スヘシ
- 第一百五條 上等機關兵曹交任スルトキハ各其ノ分掌事務ヲ新任上等機關兵曹ニ引繼キ共ニ之ヲ機關長ニ報告シ又需品分擔ノ上等機關兵曹交任スルトキハ機關長ノ立會ヲ得テ需品ノ現額及關係簿冊ヲ新任上等機關兵曹ニ引繼クヘシ
- 第一百六條 前諸條ノ外上等機關兵曹ハ凡テ艦長ノ定メタル部署及規程ニ依リ服務スヘシ
(上等筆記)
- 第一百七條 上等筆記ハ主計長若クハ主計ノ命ヲ承ケ文書ノ事務ニ從事スルノ外主計長主管兵備品ノ出納及貯藏ニ關スル事ヲ掌リ常ニ庫内ヲ整頓シ筆記廚宰及主廚ノ伎倆ヲ詳知スヘシ

第百八條 上等筆記ハ貯藏セル兵備品ノ數量、物質ヲ精査シ實用ニ適セサル物品アルトキハ速ニ之ヲ主計長ニ報告スヘシ

第百九條 上等筆記ハ艦船航海ニ際シ主計長主管兵備品ノ受入ヲ要スル場合ニハ其ノ品名、數量ヲ調査シ之ヲ主計長ニ報告スヘシ

第百十條 上等筆記ハ主計長ノ命ヲ承ケ主計長主管兵備品ニ關スル諸帳簿ノ記註、證憑書類ノ整理及諸報告ノ調製ニ從事スルコトアルヘシ

第百十一條 上等筆記ハ主計長ノ命ヲ承ケ碇泊港内ニ於テ糧食物品ノ購買ニ關スルコトヲ擔任スヘシ

第百十二條 上等筆記ハ主計長ノ命ヲ承ケ艦内饗應ニ關スル一切ノ準備ヲ爲スコトアルヘシ

第百十三條 艦隊増加定員ノ上等筆記ハ祕書ノ命ヲ承ケ文書ノ起案、淨書及發送ニ關スルコトヲ掌リ艦隊増加定員ノ筆記ノ伎倆ヲ詳知シ幕僚ノ事務ニ關スル送受書類ヲ區別整頓スヘシ

第百十四條 艦隊増加定員ノ上等筆記ハ幕僚ノ名ヲ以テ發送スヘキ書類ノ起案、淨書ヲ爲スコトアルヘシ

第七章 下士卒

(下士卒)

第一條 下士卒ハ分隊長ニ隸屬シ身上ニ係ル大小ノ事項、公私ノ請願、意見ノ開陳等皆悉ク其ノ指揮監督ヲ受ケ戰闘、防火、防水、衝突、運用等ノ業務及諸操練ニ際シテハ各部署ノ長ノ命ヲ承ケ衛兵其ノ他諸役員トシテハ各其ノ主務官ノ命ヲ承ケ甲板其ノ他艦ノ内外ニ於ケル事業ヲ命セラレトキハ當直士官、甲板掛士官其ノ他引率者ノ命ヲ承ケ教場ニ在リテハ教官及教員ノ命ヲ承ケ事ニ當ルニ總テ誠意忠實ヲ旨トシ能ク諸部署其ノ他ノ任務ヲ知悉シ上ニ則リ下ヲ扶ケ小ニシテハ各個擔任ノ業務ヲ守リ大ニシテハ本職ノ名譽ヲ發揚スルコトヲ努ムヘシ

第二條

下士卒戰闘部署ニ依リ大砲、水雷發射管、火藥庫、彈庫、汽機、汽罐其ノ他主要ナル部署ノ先任者ニ配置セラル、トキハ常ニ擔任ノ兵器、彈藥庫、汽機、汽罐等ノ整備保存ニ注意シ實用ニ當リ聊カモ遺憾ナカラシムルコトヲ努メ分隊長ノ命ヲ承ケ下部署員ヲ指揮訓練シ且其ノ性行伎倆ヲ詳知シ分隊長ニ對シ統率ノ責ニ任スヘシ

第三條

下士卒當直表上各部ノ長ニ配置セラル、トキハ部員ヲ統率シ其ノ性行伎倆ヲ詳知シ部署ニ基キ船體、諸帆、圓材及甲板ノ一部分ヲ分擔シ之ニ關スル事業及整頓ヲ掌理スヘシ

第四條

下士卒當直表上各部ノ次長ニ配置セラル、トキハ部長ヲ補佐スヘシ

第五條

下士卒小蒸汽船若クハ端舟ノ長ニ配置セラル、トキハ掛士官ノ命ヲ承ケ艇員ヲ指揮シ艇體及屬具一切ヲ整備シ常ニ之ヲ清潔有效ニ保存スルコトニ注意スヘシ

第六條

下士卒其ノ食卓中ノ先任ナルトキハ之ヲ食卓長ト稱シ食卓ノ紀律、整頓、清潔ニ關シ甲板掛士官ニ對シ其ノ責ニ任シ食卓員中二名ヲ指名シ食卓番ト爲シ食卓ニ關スル雜役ニ當ラシムヘシ

第七條

下士、分隊下士卒ノ先任ナルトキハ之ヲ分隊先任下士ト稱シ分隊長ト分隊下士卒トノ間ニ於ケル上申、下達其ノ他其ノ分隊ニ關スル事務ヲ取次クヘシ

第八條

下士先任衛兵伍長ヲ命セララル、トキハ衛兵司令ノ命ヲ承ケ衛兵ニ關スル事務ヲ執行シ又副長當直士官若クハ甲板掛士官ノ命ヲ承ケ艦内ノ警察、整頓及紀律ヲ監督スヘシ

第九條

先任衛兵伍長ハ艦長若クハ副長、兵員若クハ艦内ヲ點檢スルトキハ之カ先導ヲ爲スヘシ

第十條

砲術教授ハ砲術長ノ命ヲ承ケ砲術ニ關スル下士卒ノ教授ヲ掌ルヘシ

第十一條

水雷術教授ハ水雷長ノ命ヲ承ケ水雷術ニ關スル下士卒ノ教授ヲ掌ルヘシ

第十二條

掌砲長屬ハ砲術長ノ命ヲ承ケ掌砲長ヲ輔佐スヘシ

- 第十三條 掌砲長ナキカ若クハ掌砲長事故アルトキハ先任掌砲長屬ハ掌砲長ノ事務ヲ執行スヘシ
- 第十四條 掌水雷長屬ハ水雷長ノ命ヲ承ケ掌水雷長ヲ輔佐スヘシ
- 第十五條 掌水雷長ナキカ若クハ掌水雷長事故アルトキハ先任掌水雷長屬ハ掌水雷長ノ事務ヲ執行スヘシ
- 第十六條 掌帆長屬ハ副長ノ命ヲ承ケ掌帆長ヲ輔佐スヘシ
- 第十七條 掌帆長ナキカ若クハ掌帆長事故アルトキハ先任掌帆長屬ハ掌帆長ノ事務ヲ執行スヘシ
- 第十八條 掌帆長屬ハ交番甲板上ニ當直シ艦長、副長若クハ當直士官ノ號令ヲ傳達シ其ノ執行ヲ監督スヘシ
- 第十九條 按針手ハ航海長ノ命ヲ承ケ舵及操舵裝置(機械裝置ノ部ヲ除ク)、羅針、測程器、測深器、海圖室内ヲ守護整頓シ又船艙手ヲ置カサル艦ニ在リテハ水櫃ヲ管理シ汽罐用外ノ清水ノ受給ヲ掌ルヘシ
- 第二十條 按針手ハ航海中ハ交番舵輪ニ當直シ舵輪當番ヲ監督シ艦長、副長、航海長若クハ當直士官ノ命ニ依リ按針ノ事ヲ掌ルヘシ
- 第二十一條 船艙手ハ甲板掛士官ノ命ヲ承ケ機關部ニ屬スルモノ、外總テ倉庫ノ整頓及紀律ヲ監督シ機關部外ノ複底及「バラスト」ノ現狀ヲ詳知シ又水櫃ヲ管理シ汽罐用外ノ清水ノ受給ヲ掌ルヘシ
- 第二十二條 帆繩手ハ掌帆長ノ命ヲ承ケ帆及帆布具ノ裁縫修補ノコトヲ掌リ帆庫ヲ守護整頓スヘシ
- 第二十三條 旗艦增加定員ノ兵曹及水兵ハ本艦ノ部署ニ入り本艦定員ノ兵曹及水兵ト異ルコトナ

- ク服務スルノ外司令長官若クハ司令官用ノ乘艇ヲ擔當スヘシ
- 第二十四條 信號兵曹及信號兵ハ航海長ノ命ヲ承ケ信號ニ關スル用具及裝置並ニ信號所等ヲ守護整頓シ交番艦橋若クハ信號所ニ當直シ當直中ハ司令長官、司令官、參謀長若クハ參謀ノ命ヲ承ケ信號ノ事ニ從事スルノ外本艦ノ部署ニ入り當直士官ノ監督ヲ受ケ服務スヘシ
- 第二十七條 旗艦增加定員ノ先任信號兵曹ハ旗艦增加定員ノ信號兵曹以下信號兵ノ性行伎倆ヲ詳知シ參謀及分隊長ニ對シ統率ノ責ニ任スヘシ
- 第二十八條 船匠手及木工ハ副長若クハ船匠師ノ命ヲ承ケ木具一切ノ工業ヲ掌リ其ノ用具ノ整備保存ニ注意シ航海中ハ交番當直ニ服スヘシ
- 第二十九條 先任船匠手ハ船匠師ヲ輔佐シ船匠師ナキカ若クハ船匠師事故アルトキハ其ノ事務ヲ執行シ又船匠手以下木工ノ性行伎倆ヲ詳知シ分隊長ニ對シ統率ノ責ニ任スヘシ
- 第三十條 軍樂手軍樂生ハ奏樂ノ爲メ呼集セラルトキハ軍樂師ノ指揮ヲ受ケ奏樂ニ從事スヘシ
- 第三十一條 先任軍樂手ハ軍樂師事故アルトキハ其ノ事務ヲ執行シ又軍樂手以下軍樂生ノ性行伎倆ヲ詳知シ分隊長ニ對シ統率ノ責ニ任スヘシ
- 第三十二條 機關兵曹及機關兵ハ各部署ニ依リ上官ノ命ヲ承ケ船體、兵器、汽機、汽罐其ノ他諸機械等ノ保護修理ヲ掌リ又交番當直ニ服スヘシ

- 第三十三條 機關兵曹及機關兵注油手トナリタルトキハ汽機及諸機械ノ動作ニ注意シ給油ヲ掌リ又運轉ヲ良好ニ保持スヘシ
- 第三十四條 機關兵曹及機關兵給水手トナリタルトキハ汽罐ノ動作ニ注意シ平均ニ汽壓ヲ保チ又罐水ハ常ニ正當ノ高サヲ有セシムヘシ
- 第三十五條 鍛冶手及鍛冶ハ機關長若クハ機關士ノ命ヲ承ケ金物一切ノ工業ヲ掌リ其ノ用具ノ整備保存ニ注意シ又汽走中ハ交番當直ニ服シ注油手ノ業務ヲ執ルヘシ
- 第三十六條 先任鍛冶手ハ鍛冶手以下鍛冶ノ性行伎倆ヲ詳知シ分隊長ニ對シ統率ノ責ニ任スヘシ
- 第三十七條 水雷工ハ前諸條ニ示セル機關部員ノ職務ノ外補機分擔ノ大機關士分隊長ノ命ヲ承ケ魚形水雷及發電機等ノ保存整備及修理等ヲ掌ルヘシ
- 第三十八條 看護手及看護ハ軍醫長若クハ軍醫ノ命ヲ承ケ診察及手術ヲ補助シ病者ヲ看護シ治療品、病室傷者運搬用具等ヲ守護整備スヘシ
- 第三十九條 先任看護手ハ看護手以下看護ノ性行伎倆ヲ詳知シ分隊長ニ對シ統率ノ責ニ任スヘシ
- 第四十條 筆記ハ主計長若クハ主計ノ命ヲ承ケ専ラ文書ノ起草、淨書ニ從事シ旁ラ被服、物品及帶品ノ出納ニ關シ分擔主計ノ事務ヲ補助シ若クハ之カ記帳出納ヲ爲スコトヲ得
- 第四十一條 旗艦增加定員ノ筆記ハ幕僚ノ命ヲ承ケ文書ノ起草、淨書及發送ニ關スルコトヲ掌リ幕僚ノ事務ニ關スル送受書類ヲ區別整頓スヘシ
- 第四十二條 廚宰及主廚ハ主計長若クハ主計ノ命ヲ承ケ廚房ノ事務ニ服シ糧食ノ購入、受入、日々ノ調理獻立及糧食ノ炊爨配給等ヲ處辨スヘシ

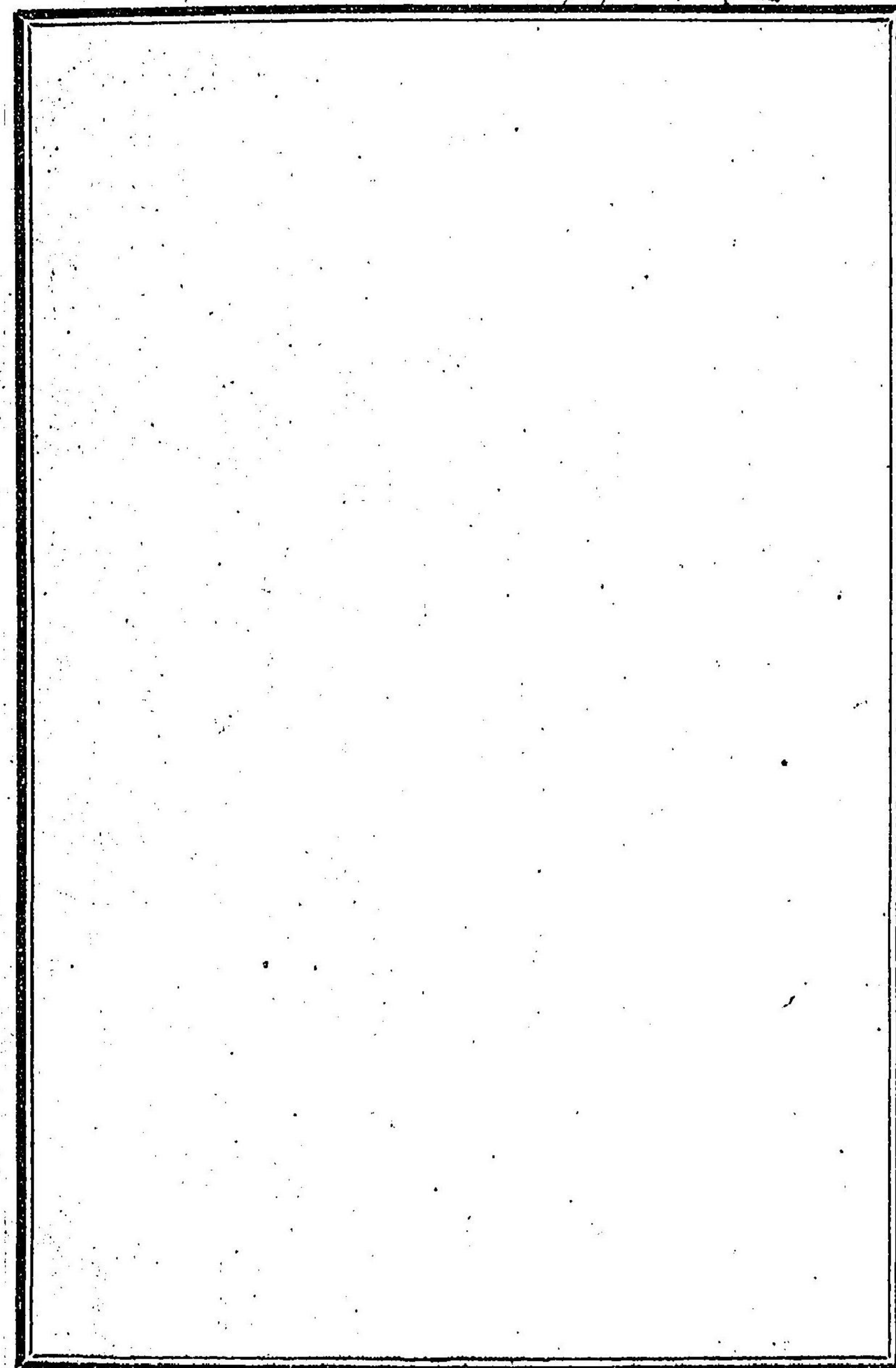
- 第四十三條 先任廚宰ハ廚宰以下主廚ノ性行伎倆ヲ詳知シ分隊長ニ對シ統率ノ責ニ任シ主計長若クハ主計ノ命ヲ承ケ糧食ノ受拂ニ關スル記帳若クハ報告ノ事務ヲ補助シ若クハ之カ記帳報告ヲ爲スコトヲ得
 - 第四十四條 旗艦增加定員ノ廚宰及主廚ハ本艦ノ部署ニ入り本艦定員ノ廚宰及主廚ト異ルコトナク服務スヘシ但シ平常ノ業務ハ專ラ司令長官若クハ司令官及幕僚ニ關スルコトヲ擔當スヘシ
- 海軍省達第六十一號
明治十九年要第三一五號及明治二十年普第二三九五號ノ二ヲ廢ス
明治三十年五月三十一日
海軍大臣侯爵西鄉從道

〔參照〕

明治十九年要第三一五號ハ鎮守府所轄艦ニ水路部員乗組出航ノトキ訓令ノ件、同二十年普第二三九五號ノ二ハ艦長ノ司令官所轄艦ニ水路部員乗組出航ノトキ訓令ノ件ナリ

31

井上R-50



明治三十年五月

50

